

權ニシテ條約國人タル資格ニ當然附着セル權利ナリトセハ其資格ノ消滅ト俱ニ消滅スヘシ然ルニ特許權ハ單純ニ條約國人ナル資格ニ附着セル權利ニ非ス此問題ハ夫ノ日本ノ國籍ヲ喪失シタル者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ト全ク同様ノ關係タリ此場合ニ於テモ該權利ハ日本人ナル資格ニ附着セル權利ニ非サルカ故ニ日本人タル資格ノ消滅ト俱ニ當然消滅スト云フコトヲ得ス是レ特ニ民法九九〇條及ヒ明治三二年法律第九四號ヲ以テ一年內ニ其權利ヲ日本人ニ讓渡サルトキハ其戸主ナル場合ハ該權利ハ家督相續人ニ其家族ナル場合ハ國庫ニ歸屬スト規定シタル所以ナリ然ルニ特許權ニ就テハ何等規定ナシ前述ノ如キ當然ノ理由ヲクシテ失權セシメント欲セハ法ニ明文ナカル可ラサルナリ

假リニ工業所有權保護同盟條約ハ日獨間ニ開戦ニ因リ消滅シタリトスルモ獨逸人ノ既得ノ工業所有權ハ消滅セス唯戰後新タニ此權利ヲ取得スルコトヲ得サルニ止マルモノトス然ラハ更ラニ一步ヲ進メテ既得ノ權利ト雖モ特ニ法律ヲ設ケテ之ヲ剝奪若クハ制限スルコトヲ得ルカト謂ハンニ余輩ハ海牙陸戰條規第二三條ヲ讀メテ規定ニ依リ之ヲ否定セントス(法學博士跡部定次郎氏法學協會雜誌第三二卷第一二號二五頁以下要領)

日獨開戦スルモ獨逸人ノ工業所有權ハ消滅スルモノニアラス

予輩ハ開戦ハ平和ノ時ヲ目的トセル條約ノ外條約ノ效力ニ直ニ何等影響ヲ及ボスモノニ非ラス但緊急危難又ハ危急防禦ノ原則ニ依リ刑法上及私法上承諾セラレタル場合ニ於テノミ條約違反ニ對シテ無責任タルニ過キスト爲スヲ以テ最モ正義ニ合シ條約ニ適スト信シ戰時私產掠奪ヲ禁止スル制規ニ考ヘ工業所有權保護ノ條約ハ無體財

產權保護ヲ目的トスル者ニシテ平時ニ限ル性質ノ者ト云フヲ得サルヲ以テ開戦ハ敵國人ニ對スル工業所有權ノ保護ニ影響ナキ者トナスヲ正當トス故ニ目下緊急危難及危急防禦ノ原則ニ適合スル事情アルニ非サレハ條約ヲ履行シ平和克復ノ際條約ヲ以テ舊條約關係ヲ如何ニ處理スヘキヤハ當時權力消長ノ狀勢國際道徳ノ規範帝國發展進化ノ必要ニ鑑ミ條約ヲ以テ相當之ヲ處理スヘキモノト信ス若シ夫刻下輸入杜絶内國工業經營上實施セサル外國特許ノ存在ヲ有害トセハ特許法第四七條ニ依リ之ヲ取消スコトヲ得ヘク軍事上若ハ公益上必要アルトキハ同法第四四條ニ依リ特許權ヲ制限シ收用シ特許ヲ取消シ又ハ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得ヘク特許發明力他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコトヲ能ハサル場合ニ於テハ特許法第三八條ニ依リ審判ニ依リ其ノ使用ヲ強要スルコトヲ得ヘシ意匠及商標ノ如キ其ノ存在カ内國産業ノ發達ヲ害スル場合アルコトヲ想像スル能ハス從テ目下ノ狀勢特許法ノ規定ニ該當スル場合ノ外敵國人ノ工業所有權ヲ消滅セシムヘキ必要ノ事情ノ存スルコトヲ認メス(行政裁判所評定官宿利英治氏法曹記事第二四卷第一一號一三頁以下要領)

【反對學說】

遠藤博士本書第三卷諸法九三頁

日獨開戦ニ因リ帝國ト獨逸トノ間ニ締結セラレタル非政治的條約ハ當然消滅スヘキモノナリヤ否ヤ殊ニ萬國工業保護同盟條約ハ兩國間ニ於テハ當然其效力ヲ停止スルモノナリヤ否ヤニ付テハ吾人カ曩ニ遠藤博士ノ消滅說及ヒ停止說ニ對

シ疑問トセシトコロナリ
 跡部博士ハ條約ノ消滅ヲ前提トスルモ獨逸人ノ有スル特許權ハ縱シ帝國内ニ住
 所又ハ營業所ヲ有セサル者ナリトスルモ日獨ノ開戦ニ因リ其權利ヲ失フモノニ
 アラス是レ我特許法第二七條ハ現ニ我國法ニ從ヒ特許權又ハ特許ニ關スル權利
 ヲ享有セサル者ニ對シテノミ適用セラルヘキモノニシテ既ニ此等ノ權利ヲ有ス
 ル者ハ本條規定ノ豫見セサルトコロナリト論セラルルモ吾人ハ遠藤博士ト同シ
 ク同條ハ爾ク狹義ニ解スルノ要ナキヲ信ス何トナレハ同條ハ特許權又ハ特許ニ
 關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ル者ノ資格ヲ定メタルモノニシテ單ニ特許權ヲ
 得ルノ資格ヲ定メタルモノニアラス是レ同條カ外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ
 營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ必要トシタ
 ルニ見ルモ明カナルヘシ蓋シ博士ノ如ク之ヲ解センカ一時帝國内ニ住所ヲ有シ
 以テ特許權ヲ得タル以上ハ後日帝國内ニ住所ニ有セサル無條約國人ニ對シテモ
 尙ホ帝國ハ其權利ヲ認メサルヘカラサルノ結論ニ到達スレハナリ故ニ吾人ハ博
 士ニ反シ同條ノ資格ハ單ニ權利取得ノ要件ノミニ止マラスシテ權利保存ノ要件
 ナリト解セント欲ス又同博士ハ民法第九九〇條等ヲ引用シ假リニ條約ノ存在ヲ
 特許法第二七條ノ要件ナリトスルモ特許法ニハ何等同條ノ如キ規定ナキヲ以テ
 其權利カ消滅スルノ理ナシト論セラルルモ亦吾人ノ承服セサルトコロナリ蓋シ

條約ノ存在ヲ以テ其要件ト解スル以上ハ其條約ノ消滅ハ直ニ權利ノ消滅ト解ス
 ヘキモノニシテ民法第九九〇條第二項ノ如キ規定アリテ初メテ一年間其權利ヲ
 保持スルヲ得ルモノナリト解スルノ妥當ナルヲ信スレハナリ

一〇九

土地收用法第八第一項 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
 同五項 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ
 之ヲ補償スヘシ

- (一) 土地ニ關スル損失補償額ト營業ノ休止ニヨル損失補償額トハ各個獨立ノモノ
 ナルカ故ニ收用審査會ノ爲シタル裁決中營業ノ休止ニヨル損失補償額ノ部分
 カ行政裁判所ノ判決ニヨリ取消サルルモ土地ノ損失補償額ニ關スル部分ニ付
 テハ其裁決ハ依然トシテ其效力ヲ失ハサルモノトス
- (二) 收用ノ損失補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル土地ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘ
 キモノトス

(一) 本件收用審査會ノ爲シタル裁決中其一部カ行政裁判所ノ判決ニヨリ取消サレタ
 ルモ其部分ハ第一審原告ノ皮革製造及販賣營業ノ休止ニ因ル損失補償額ノ部分ニ過
 キサルコトハ乙號證ニヨリ明カナリ然ルニ土地ニ關スル損失補償額ト營業ノ休止ニ
 ヨル損失補償額トハ各個獨立ノモノナルカ故ニ假令其一方ニ關スル部分カ取消サレ
 タレハトテ他ノ部分ニ影響セサルヘキコト勿論ナルヲ以テ本件土地ノ損失補償額ニ
 關スル部分ニ付テハ明治四十二年十一月一日ノ裁決カ依然トシテ存續シ效力ヲ失ハ

サルモノト認メサルヘカラス本件審査會カ前製行造裁判所ノ判決ニ基キ更ニ裁判ヲ爲スニ當リ取消サレサル土地及ヒ地上物件ニ對スル損失補償額ニ付キ更ニ記載スル所アリト雖モコノ點ハ結局無用ノ手續ヲ踐ミタルニ過キサルモノト認ムヘキカ故ニ之カ爲メ前決定ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス從テ第一審原告カ明治四十二年十一月一日ノ裁判ニ對シ本訴ヲ提起シタルハ適法ナリト云ハサルヘカラス

(二) 被告ハ土地收用ノ損失補償額ヲ定ムル標準時期ハ地方長官カ收用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シタル時若ハ少クトモ收用審査會カ裁決ヲ爲シタル時ナリト主張スレト

地方長官カ收用スヘキ土地ノ細目ヲ公告シタル時ヨリ收用ノ時期ニ至ル迄ノ間ニ於テ土地ノ價格カ騰貴シ又ハ低落スルトキハ其變動カ收用ニヨリテ生スルト百トチ問ハス所有者タル被收用者ニ於テ之カ損失ヲ受クヘキコトノ當然ナル點ヨリ推シ收用ノ損失補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル土地ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ定ムルチ相當ト認ム(東京控訴四(木)三九七號三年五月廿八日民二部須賀裁判長三橋高橋各判事判決)

【判決事項】

(一) 件名 土地收用審査補償金ニ對スル不服事件(訴訟關係人 控訴人(第一審原告)谷澤儀右衛門訴訟代理人辯護士羽田智
被控訴人(第一審被告)東京瓦斯株式會社取締役高松豊吉訴訟代理人辯護士高根義人)

【二點同趣旨判例】

本書第二卷諸法七頁
至當ノ判決ナリト信ス尙第二點ニ付テハ吾人既ニ之ヲ論評シタレリ前掲判例ノ個所參照ヲ乞フ

貯蓄銀行條例一 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條
例ニ依ラシム

同三 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ業務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

同一〇 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル
銀行條例一 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貨付ヲ併セ爲
ス者ハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ラス總テ銀行トス

當初ヨリ六ヶ月ノ期限ヲ定メ且利息ニ付キ複利ノ方法ニ依ラサル計算ヲ以テス
ル預金ハ其性質貯蓄銀行條例ニ於ケル貯蓄預金ニアラスシテ定期預金ニ屬スル
モノトス

貯蓄銀行ハ當ニ貯蓄預金ニ關スル營業ノミナラス定期預金其他一般ノ銀行業ヲ
モ爲シ得ルモノトス

貯蓄銀行ノ取締役ハ苟クモ其在任中ニ生シタル銀行ノ債務タル以上ハ該債務ノ
發生原因カ貯蓄預金ニ在ルト將タ定期預金若クハ當座預金又ハ其他ノ銀行事業
ニ在ルトヲ問ハス總テ之カ連帶責任ヲ負フモノトス

右取締役ノ義務ハ性質上銀行ノ債務ニ對スル法定ノ保證債務ニシテ其範圍モ亦
民法ノ規定ニ從ヒ主タル債務ニ關スル利息違約金及損害賠償其他總テ之ニ從タ
ル負擔ヲ包含スルモノトス

前項預金ノ性質ニ關シ控訴代理人ハ之ヲ貯蓄預金ナリト主張スレ共貯蓄銀行條例第一條ニ複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トスト規定レアル所ヨリ推セハ控訴代理人主張ノ如ク當初ヨリ六ヶ月ノ期限ヲ定メ且利息ニ付複利ノ方法ニ依ラサル計算ヲ以テスル本訴預金ハ其性質貯蓄銀行條例ニ於ケル貯蓄預金ニ非スシテ定期預金ニ屬スル者ト認メサルヘカラス然レ共同條例第一〇條ニ此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサル者ハ總テ銀行條例ニ依ルトアルヲ以テ之ヲ銀行條例第一條ノ規定ニ對照スレハ貯蓄銀行ハ實ニ貯蓄預金ニ關スル營業ノミナラス定期預金其他一般ノ銀行業ヲモ爲シ得ルコト疑ヒナク一面貯蓄銀行條例第三條ニハ廣ク貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトスト規定シ其義務ノ原因如何ニ至リテハ毫モ制限セル所ナキヲ以テ貯蓄銀行ノ取締役ハ苟モ其在任中ニ生シタル銀行ノ債務タル以上ハ該債務ノ發生原因カ貯蓄預金ニ在ルト將タ定期預金若クハ當座預金又ハ其他ノ銀行事業ニ在ルトナ問ハス總テ之カ連帶責任ヲ負フヘキ法意タルコトナ知リ得ヘク且其取締役ノ義務ハ性質上銀行ノ債務ニ對スル法定ノ保證債務ニシテ其範圍モ亦民法ノ規定ニ從ヒ主タル債務ニ關スル利息違約金及損害賠償其他總テ之ニ從タル負擔ヲ包含スルモノト解スルヲ妥當トス(長崎控訴院大正三年(ホ)第一八二號民事部谷岡裁判長淺沼松田各判事判決法律新聞第九八二號一九頁)

【判決事項】

(一) 件名 預金請求控訴事件(二) 訴訟關係人 控訴人長野松太郎訴訟代理人辯護士伊藤松男被控訴人重松龜太郎外四名訴訟代理人辯護士西三郎

(一一一)

無效審判ノ請求ハ特許權既ニ消滅シタル後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其消滅ノ時カ請求提起以前ニ在ルト將タ審判ノ繫屬中ニ在ルト又ハ其消滅前ノ權利關係カ審判ノ問題ト爲リタル場合ナルト否トヲ問ハサルモノトス

特許法ハ其第四九條第二項ニ於テ特許ハ特許權消滅後ト雖モ之ヲ無効ト爲スコトナ妨ケサル旨規定シ無効審判請求ノ時期ニ付キ特ニ制限ヲ設ケサルヲ以テ無効審判ノ請求ハ特許權既ニ消滅シタル後ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ其消滅ノ時カ請求提起以前ニ在ルト將タ審判ノ繫屬中ニ在ルト又其消滅前ノ權利關係カ審判ノ問題ト爲リタル場合ナルト否トヲ問ハサルモノトス故ニ本件特許ハ假令所論ノ如キ事由ニ因リ本件審判請求提起以前既ニ消滅ニ歸シタリトスルモ尙ホ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スコトヲ得ルモノナレハ原審決ニ違法アルコトナシ(大審院大正二年(ホ)第六八五號同三年十月二十七日民一判決)

【判決事項】

(一) 主文 上告棄却(二) 原審 特許局(三) 件名 特許無効請求事件(四) 訴訟關係人 上告人井上篤太郎外一人訴訟代理人辯護士丸岡東治同岸清一被上告人繪瀧紡績株式會社

(一一二)

醫師法五 醫師ハ自ら診察セスシテ診書、處方箋ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セスシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診察中ノ患者死亡シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

胎兒ノ疾患ヲ診察シ之ヲ治療中死産シタル場合ハ醫師法第五條但書ニ依リ檢案
セスシテ死産證書ヲ作成スルコトヲ得ルモノトス

醫師法第五條但書ニ依レハ診察中ノ患者死亡シタル場合ニハ檢案セスシテ死亡診斷
書ヲ交付スルコトヲ得ヘシ而シテ胎兒ノ疾患ヲ診察シ之ヲ治療中死産シタル場合ハ
他ノ患者ノ場合ト別ニ異ナル所ナキヲ以テ同條但書ニ依リ檢案セスシテ死産證書ヲ
作成シ得ヘシト雖モ原判決ニ依レハ被告ノ診察シタルハ馬原つきニシテ其胎兒ニア
ラス所論ノ如ク母體ヲ通シテ胎兒ヲ診察治療シタル事實ハ全ク原判決ノ認定セサル
所ニ屬スルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(大法院大正三年(レ)第二六〇七號同年十一月二十一
日刑三判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 熊本地方裁判所(三)件名 醫師法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人土屋登一郎
至當ノ見解ト信ス

一一三

兼議院議員選舉法八七 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又
ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ
供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込テ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込テ承諾
シタル者
顧客ハ商人ヨリ見テ一種ノ利源タルヲ失ハス故ニ之ヲ目シテ財産的利源ト稱ス
ルハ毫モ不可ナシ

吳服商ヲ營メル者ニ對シ吳服類取引ヲ爲スヘキ旨申入レ之ヲ誘ヒテ投票セシメ
タル所爲ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ所謂利益ヲ供與シタルモ
ノトアルニ該當ス

商取引ハ營利ヲ目的トスルヲ其通性ト爲ス間々其目的カ現實ニセラレサルコトナキ
ニ非スト雖モ之カ爲メ商取引ノ營利的行爲ナル觀念ヲ妨クヘキモノニ非サルノミナ
ラス商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ取引ノ申込ヲ受クルハ其欲求ヲ満足セシムル所以
ニシテ顧客ハ商人ヨリ見テ一種ノ利源タルヲ失ハス之ヲ目シテ財産的利源ト稱スル
毫モ不可ナルコトナシ然レハ之ヲ香餌トシテ投票ヲ左右セントスル如キハ正ニ衆議
院議員選舉法禁止ノ趣旨ニ適合シ所罰ヲ免レ得ヘキモノニ非ス即チ原院カ被告等ニ
於テ吳服商タル被告重平半造等ニ對シ吳服類取引ヲ爲スヘキ旨申入レ之ヲ誘ヒ龍間
ノ利益ノ爲メ投票セシメタル所爲ヲ同法第八七條第一項第一號ノ所謂利益ヲ供與シ
タルモノトアルニ該當スルモノトシ刑ノ旨渡ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ法律ノ適
用ヲ誤リタルモノト謂フヲ得サルノミナラス商取引ノ申入ハ財産的利源ノ供與ニ外
ナラサルコト判示ノ如クナルヲ以テ原院カ特ニ其然ル所以ヲ明示セサレハトテ原判
決ヲ理由不備ノ違法アルモノト爲スヲ得ス(大法院大正三年(レ)第一六四〇號同年十二
月五日刑三判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 東京控訴院(三)件名 市會議員選舉罰則違犯被告事件(四)訴訟關係人 被告人青木龍間外六名辯護人中
島松次郎同梅里大兄

出版法一 凡ソ機械合密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作ト云ヒ發賣頒布ヲ担当スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

著作權法一 文學學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

樂譜脚本ノ版權即チ著作權ハ著作權ニアラサレハ縱令登錄ヲ受クルモ之ヲ有スルコトヲ得ス著作權ヲ有セサル者ハ興行權ヲ有セス

伊勢新助及岡野美春外二名カ果シテ右樂譜脚本ノ著作權ヲ有スルヤチ審案スルニ伊勢新助カ明治二十八年九月三十日岡野美春外二名カ明治二十九年一月十日右樂譜脚本ニ付キ内務省ニ於テ版權即チ著作權ノ登錄ヲ受ケタルコトハ甲第一號證ノ一、二ニ依リテ之ヲ認ムルヲ得然レトモ當時施行セフレタル樂譜脚本條例第一條出版法第一條版權法第二條三條ニ依レハ樂譜脚本ノ版權ハ著作權ニアラサレハ縱令登錄ヲ受クルモ之ヲ有スルコトヲ得サルモノニシテ登錄ニヨリテ權利ヲ設定取得スルモノニアラスト解スルヲ相當トスルヲ以テ伊勢新助及岡野美春外二名カ右ノ樂譜脚本ノ版權ヲ有スルニハ之カ著作權者タルコト即チ其著述ヲ爲シ又ハ編纂ヲ爲シタルコトヲ要ス然ルニ伊勢新助カ著述ヲ爲シタルコト及ヒ岡野美春外二名カ編纂ヲ爲シタルコトハ甲號證ニ依リテ之ヲ認ムルニ足ラス然ラハ控訴人ハ假令之ヲ讓受ケタリトスルモ著作權ヲ有セス從テ興行權ヲ有セサルヲ以テ本訴請求ハ不當ナリ(東京控訴三(本)第四一二號三年十一月十二日民三部松岡裁判長成道小川各判事判決)

【判決事項】

(一) 姓名 興行權確認並ニ損害賠償請求事件(二) 訴訟關係人 控訴人長谷井文吉訴訟代理人辯護士中村了詮同藤谷智次郎被控訴人齋藤金次郎外二名訴訟代理人辯護士高木益太郎同加賀喜久治

至當ノ見解ト信ス

公證人法五 公證人ハ他ノ公務ヲ兼テ兼テ營業ヲ營ミ又ハ商會社若ハ營利ヲ目的トスル社團法人ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ司法大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

商法一七八第一項 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主力之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

同一八四 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼テ兼テ得ス但取締役中ニ缺員アルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査役ハ第一九二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

同一八五 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役力會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得

株式會社ノ監査役ハ公證人法第五條ノ會社代表者ニ該當ス

一 監査役ハ監督機關ナレトモ時トシテ會社ノ代表機關タルコトアリ然ラハ公證人法第五條ノ文理解釋ヨリスルモ之ヲ會社代表者中ニ加フルヲ至當トス

二 公證人法第五條ニ「商業ヲ營ム」トハ自己ノ名ヲ以テスルト他人ノ名ヲ以テスルトヲ問ハス苟モ繼續シテ商業的事業ニ從フ者ハ悉ク之ヲ包含ス故ニ會社ノ機關ト爲リテ會社ノ事務ヲ行フ場合モ亦自ラ之ニ包含セラル併シ主トシテ單ニ營業上ノ成績ニ參與スル者若クハ臨時的ニ會社ノ事務ヲ掌ルニ過キサル者ハ之ニ制限ヲ加フヘキ必

要ナシ同條カ特ニ「商事會社又ハ營利ヲ目的トスル社團法人ノ代表者若ハ使用人ト爲ルコト」ヲ得サル旨ヲ明言シタルハ專ラ之等ノ者ヲ除外スル爲メナリ從テ同條ノ適用ヲ受クルヤ否ヤハ會社ト密接ナル關係ニ立テ繼續シテ會社ノ事務ニ從フヤ否ヤヲ標準トシテ之ヲ決スヘシ此見解ニ從フトキハ監査役ハ之ヲ同條ノ適用ノ下ニ置クヲ至當トス(法學士岩田新氏法學志林一六卷一二號八一頁以下要領)

本論ノ意「公證人法第五條前段ニ所謂商業ヲ營ミトハ自己ノ名ヲ以テ商行為ヲ爲スヲ業トスルノ謂ニ止マラスシテ苟クモ繼續シテ商業的業務ニ從フ場合ヲ悉ク包含スルモノナリ故ニ個人商人ノ支配人ノ如キ又ハ法定代理人トシテ商業ヲ營ム者ノ如キ當然包含セラルルモノナリ然ルニ同條ハ後段ニ於テ商事會社若クハ營利ヲ目的トスル社團法人ノ代表者若ハ使用人云云ト規定セルヲ以テ其前段ノ「商業ヲ營ミトハ單ニ自然人ノ場合ニノミ制限セラルルモノニシテ法人ノ場合ハ之ニ包含セス然シ後段ノ代表者若クハ使用人ニシテ單ニ營業上ノ成績ニ參與スル者又ハ臨時的ニ會社ノ事務ヲ掌ル者ノ如キハ其前段トノ權衡上之ヲ除外スルモ監査役ノ如キ會社ノ重要ナル機關ヲ構成シ法律上ノ取扱ニ於テ略取締役ト同列ニ在ル者ハ同條後段ニ所謂會社ノ代表者中ニ包含セシムルヲ正當ナリト爲ス」ト謂フニアラハ敢テ反對スルトコロニアラサルモ若シ然ラストセハ學士ノ見解ハ吾人ノ首肯スルヲ得サルトコロナリ

特許法二七 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

同三八 特許發明カ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサルハ「合ニ於テ特許權者又ハ實用新案權者正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ特許發明ノ使用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ使用セラルヘキ發明ノ特許權者」ノヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ使用セラルル者其ノ使用ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付使用ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ相手方カ正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明又ハ登錄實用新案權ヲ使用スル者ハ特許權者實用新案權者其ノ他特許權又ハ實用新案ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ニ對シテ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

同四四 軍用上秘密ヲ要シ又ハ軍用上若ハ公益上必要ナル場合ニ於テハ特許權ハ之ヲ制限シ又ハ政府ニ於テ之ヲ收用シ特許ハ之ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ特許發明ヲ使用シタル者ニ支給ス

同四七 正當ノ理由ナクシテ特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

萬國工業所有權保護同盟條約ニ 各締約國ノ臣民又ハ人民ハ他ノ總テノ同盟國內ニ於テ發明特許實用新案工業的意匠又ハ鑄形製造標又ハ商標商號原産地ノ表示及不正競争ノ取締ニ關シ各其ノ國法カ內國人ニ對シ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ內國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦總テ內國人ト同一ノ訴權ヲ有スヘシ但シ保護ヲ受ケムトスル國內ニ住所又ハ營業所ヲ有スヘキ何等ノ義務ヲモ同盟國人ニ課スルコトヲ得ス

同三 同盟國ニ加入セサル國ノ臣民又ハ人民ニシテ同盟國中ノ版圖内ニ住所ヲ有シ又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ條約國ノ臣民又ハ人民ニ準スヘキモノトス

民法九九〇第二項 國籍喪失者カ日本人ニ非ラレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年内ニ之ヲ日本入ニ讓渡セサルトキハ其權利ハ家督相続人ニ歸屬ス

萬國工業所有權保護同盟條約ハ日獨交戰國間ニ於テモ猶ホ有效ニ存續ス」
帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル獨逸國人ノ特許權ハ日獨開戰ニ因リ何等影響
ナキモノトス」

帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル獨逸國人ノ特許權ハ其既得ノモノハ日獨開
戰ニ因リ何等ノ影響ヲ受ケサルモ所謂特許ヲ受クルノ權利ハ日獨開戰ニ因リ拒
絶セラルヘキモノトス」

發明トハ新觀ナル工夫即チ思想ヲアリマシテ或思想カ思想トシテ保護セラルル權利
テアリマス從ツテ此權利ハ他人ノ思想ノ自由ヲ束縛スル權利テアリマス他人カ同シ
思想ヲ利用スルコトカ出來無クナルノテアリマスカラコウ云フ權利ハ公益上權利ト
シテ普通許スヘカラサル權利テアリマス併シ他方ニ於テ國家ハ商工業ノ發達ヲ期ス
ルカ爲メ多年苦辛ノ結果タル發明ニ對シテ一定ノ保護ヲ與ヘテ之ヲ獎勵スルコトモ
亦公益上極メテ必要ナルカラ發明者ノ爲メニ一定ノ期間世人一般ノ思想ノ自由ヲ
制限スル權利ヲ認ムルニ至ツタノテアリマスソレテ特許權ハ其名稱ノ示スカ如何
レノ國ニ於テモ一種ノ特典トシテ發達シ來ツタノテ普通ノ權利トハ沿革上餘程違ツ
テ居ルノテアリマス併シ現今ニ於テハ特許ト云フ名稱ヲ冠スルニモ拘ラス何レノ國
ニ於テモ普通ニ純然タル權利テアルト考ヘテ居ル我特許法第二八條ニ依レハ特許權
ハ登錄ニ因リテ發生ストアリマスカラ特許權ハ今尙ホ登錄ト云フ行政處分ニ因リテ
附與スル特權テアツテ登錄前ニ於テハ發明者ノ權利ハ全然存在セサルカ如クニ見エ
マスカ此當否ハ疑問テアル蓋特許權ト云フ言葉ニハ意味カニツアル即チ一ハ發明者

カ登録前ニ有スル權利ヲ意味シ他ハ登録後ニ有スル權利ヲ意味スルノテアリマシテ
我特許法ニ於テハ前者ヲ特許ヲ受クヘキ權利ト云ヒ後者即チ登録ニ依ツテ發生シタ
ル權利ヲ特許權ト云フテ居リマスカ特許ヲ受クルノ權利ト特許權トハ別種ノ權利ニ
アラシテ案ト一個ノ權利テアリマス特許出願權ハ公法上ノ權利テアリマスカ此公
法上ノ權利カ存在スル所以ハ發明者カ之カ基礎トナルヘキ權利ヲ有スルカ爲メテア
リマス而シテ發明者カ其發明ニ對シテ有スル根本ノ權利ハ純然タル私權テアリマシ
テ發明カ完成スルヤ否ヤ直ニ成立スル權利テアリマス特許ヲ受クヘキ權利トハ本來
此私權ヲ意味スヘキモノテアルコレ我特許法第一〇條ニ於テモ亦特許ヲ受クルノ權
利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但擔保ニ供スルコトヲ得スト規定シ特許ヲ受クルノ權利
ハ公權ニアラスシテ私權特ニ財產權ナリトシ唯擔保ニ供スルコトカ出來ナイト云フ
制限ヲ以テ之ヲ他人ニ賣買讓與スルコトヲ認メタル所以テアリマス

外國人ノ我國ニ於テ享有スル特許權ニハ一部分ハ我國法律ノ規定ノミニ基キ一部分
ハ條約上ノ規定ニ基イテ之ヲ享有シテ居ルノテアル從ツテ今敵國臣民タル獨逸人ノ
我國ニ於ケル特許權ノ保護ハ戰爭開始ノ結果トシテ如何ナル影響ヲ受クヘキカト云
フ問題ハ左ノ三點ヨリ之ヲ觀察スルノ必要カラウト思フ

第一 戰爭開始ハ法律ニ如何ナル影響ヲ及ボスヘキカ
第二 戰爭開始ハ條約ニ如何ナル影響ヲ及ボスヘキカ
第三 交通ノ斷絶ハ權利保護ニ如何ナル影響ヲ及ボスヘキカ

第一 獨逸人カ我國ニ於テ始メテ公ケニスル發明ニ付テ云ヘハ我帝國内ニ住所又ハ營
業所ヲ有スルトキハ開戰前全ク內國人ト同一ノ權利保護ヲ享有シタルノミナラス開

戰後ニ於テモ内國人ト同様ニ特許權ヲ享有シ得ヘキコトハ明白ナル何トナレハ特
 法ノ規定ハ此種ノ獨逸人ニ付テハ條約上ノ規定ヲ俟タスシテ内國人ト同等ノ保護
 ナ附與スヘキコトヲ認容スルノミナラス去ル八月廿三日ノ訓令ニ依リ開戦後ニ於テ
 モ獨逸人カ平穩ニ其住居又ハ營業ヲ繼續シテ我法律ノ保護ヲ享有シ得ヘキコトヲ認
 メ戰爭ハ法律ニ何等ノ影響ヲ及ボサ、ルコトヲ明カニシテ居ルカラテアル
 次ニ我帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル獨逸人ハ我國ニ於テ始メテ公ニスヘキ發
 明ニ付テモ條約上ノ規定カナケレハ特許權ヲ享有スルコトヲ得スト明言シテ居リマ
 ス開戦後ノ今日ニ於テハ果シテ如何ト云フ問題ハ此工業所有權保護同盟條約カトウ
 ナツテ居ルカト云フコトニ依テ岐レルノテアリマス
 第二獨逸人カ既ニ外國ニ於テ特許ヲ得タル發明ニ對シテ更ニ我國ニ於テ特許權ヲ受
 ケルコトヲ得ルカ爲メニハ我國ニ住所又ハ營業所ヲ有スルト否トナ問ハス特許法第
 二七條第二項ニ豫想スル條約上ノ規定ヲ要スルノテアリマス從ツテ今獨逸人カ此條
 約ノ規定ニ依リ開戦後ニ享有シタル特許權ハ開戦後ニ於テモ尙存續スルヤ否ヤハ條
 約ノ效力如何ニ因ルト言ハネハナラヌ
 一般ノ條約カ戰爭ニ依ツテトウ云フ影響ヲ受ケルカト云フコトニ付テハ如何ニモ國
 際法學者ノ所説カ一定シテ居ラナイノテアリマス尤モ戰時ノ關係ヲ規定セル條約ハ
 開戦ニ依ツテ其效果ヲ實現シ平和ヲ目的トスル條約例ヘハ同盟條約修好條約等ハ開
 戦ニ依ツテ直ニ消滅スルコトハ何人モ異論ノナイ所テアリマスカ通商航海條約ハ消
 滅スルカ停止スルカ其儘存續スルカニ付テハ實際上ニ於テモ學說上ニ於テモ決シテ
 一定シテ居ルノテハナイノテアリマス私權ノ保護ニ關スル條約ニ至ツテハ停止スラ

モ發生セズ唯戰爭狀態ノ繼續中事實上實行シ得ヘカラサルモノアルコトヲ認ムルノ
 ミテアル特ニ況ヤ工業所有權保護同盟條約ノ如キ國際條約ニ付テハ何人モ消滅説ヲ
 採ル者ハ無イノテアリマス遠藤君モ此點ニ付テハ唯日獨間ニ於テ停止スルノミテア
 ルト述ヘラレテ居リマス併シ日獨間ニ於テモ戰爭ノ結果當然ニ停止スルノテアルカ
 否カハ疑問テアラウト思ヒマス私ハ寧ろ彼ノ郵便聯合條約又ハ度量衡條約等同様
 ニ特許權保護ニ關スル條約モ依然有效ニ存續スヘキモノテアツテ唯タ戰爭狀態ニ於
 テ實際上實行シ得ヘカラサルコトアル丈ケテアラウト思ヒマス
 今假リニ特許權保護ニ關スル條約カ其效力ヲ停止スルモ既ニ得タル特許權ハ之レカ
 爲ニ當然消滅スヘキモノテハ無イノテアル何トナレハ之ヲ消滅セシム可キ何等ノ根
 據ヲモ發見スルコトカ出來ナイカラテアル條約上ヨリ云フト只其效力ハ單ニ停止ス
 ルニ過キナイノテアルカラ到底既得ノ權利ヲ當然消滅セシムルモノト解釋シ得ヘカ
 ラサルハ勿論私權ノ沒收ハ戰爭地域ニ於テモ非常ニ重大ナル問題テ戰時國際法ハ唯
 海上ニ於テ敵ノ私有財産ヲ沒收シ得ヘキコトヲ認ムルノミテアツテ其他ノ場合ニハ
 一人ノ權利ヲ侵害スルヲ許ササルヲ以テ原則トシテ居ルノテアリマス故ニ條約ニ
 基テ一旦取得シタル權利ハ我法律上既得ノ財產權テアルカカラ假令其條約カ全ク消
 滅シタル場合ニ於テモ尙其權利ヲ失フ可キ理由カナイノテアル況ヤ條約ノ效力カ唯
 一時停止サレテ居ルニ過キストスルニ於テチヤテアル要スルニ獨逸人カ開戦前既ニ
 享有セル特許權ハ依然トシテ有效ニ存續スルモノト見ルノカ正當テアラウト思ヒマ
 ス併シ獨逸帝國ハ條約ハ之ヲ遵守スルコトカ自己ノ利益トナルトキニ於テノミ拘束
 カナ有スルモノトシ獨逸宰相ハ條約ハ a scrap of paper 一ノミト蔑視シテ居ルノテアル

對手カ此ノ如キ態度ニ出ツルニモ拘ラス我國ノミカ思直ニ條約ヲ死守スル必要ハ無
 イノテアルカラ我特許法ヲ改正シテ條約ノ規定ニ依リテ既ニ與ヘタル特許權ヲ取消
 シ得ヘキコトヲ規定スルモ國際法上必スシモ之ヲ不法ト言フコトハ出來無イ
 尙ホ吾人ハ現行特許法ノ規定外ノ原因ニ依リテ獨逸人ノ特許權ヲ取消シ得ルカ爲メ
 ニハ法律ノ改正ヲ必要トスルモ開戦後ニ於ケル特許ノ出願ヲ拒絶スルカ爲メニハ何
 等ノ新タル規定ヲ要セサルコトト思フ此場合ニ於テモ我國ニ住所又ハ營業所ヲ有
 スル獨逸人ハ依然トシテ新ナル出願ヲ爲シ得ヘキハ勿論テアル只此條件ヲ具備セサ
 ル獨逸人カ條約ノ規定ニ依リテ特許ノ登録ヲ出願スルトキハ之ヲ拒絶スルノカ當然
 テアルト思フ何トナレハ外國人ノ權利保護ハ國際交通ヲ前提トスルカラ特許法及ヒ
 條約ノ規定自體ハ戰爭ノ爲メニ何等ノ影響ヲ受ケナイモノトスルモ國交既ニ斷絶シ
 テ互ニ交通往來スルコトヲ得サル狀態ニ陥ツタ以上ハ敵國臣民カ我國ニ來リテ新ニ
 權利保護ヲ求ムルコトヲ得サルハ素ヨリ當然テアル(法學博士山田三良氏法學協會雜
 誌第三三卷第一號一〇八頁以下要領)

**特許法第二七條ハ特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スル資格ヲ定メタルモノ
 トス**

民法第九九〇條及明治三十二年法律第九四號ハ日本人ニアラサレハ享有スルコ
 ト能ハサル權利ヲ有スル者カ日本人タル資格ヲ失フトキハ當然其權利ヲ喪失シ
 相續人ニ移ルカ又ハ國庫ニ歸屬スルコトトナリ本人ノ眞意ニ反スル結果ヲ生ス
 ルカ故ニ特ニ此等ノ法律ヲ設ケ一定ノ猶豫期間ヲ與ヘ之ヲ處分セシムルノ趣旨

ニ外ナラサルモノトス

Sent remisen Vignent ハ現ニ效力ヲ有スルニ拘ラス事實施行カ停止セラレ居ルモノヲ再ヒ
 實施スヘシトノ意味ニ非スシテ其ノ效力ヲ喪失シタルモノニ再ヒ效力ヲ賦與スル意
 味ナルコト明ナリトセハ十九世紀後半以來ノ重要戰爭ヲ終局セシメタル講和條約ハ
 其ノ文字ニ多少異ナルモノアリト雖モ其趣旨ハ大體ニ於テ同一ナルコトハ蓋シ争ナ
 カルヘキヲ以テ交戰當事國間ノ條約ニ及ホス開戦ノ效果ニ關シ各國政府ハ條約カ總
 テ消滅シタリト解釋シタルヲ疑ナカルヘシ既ニ此ノ如キ解釋ヲ採ル以上ハ條約締結
 ノ趣旨ヲ自ラ平和狀態ノ息止ヲ以テ暗黙ノ解除條件ト爲スモノト云フナ相當トス
 勝部博士ハ假ニ我輩ノ條約消滅説ヲ其ノ儘認容ストスルモ余輩ハ我特許法ノ解釋ハ
 此ノ如キ結論ニ到ルヘキモノニ非スト信ス余輩ノ觀ル所ニ依レハ本條ノ規定ハ現ニ
 我國法ニ從ヒ特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有セサル者ニ對シテノミ適用セラル
 ヘキモノナリ既ニ此等ノ權利ヲ有スル者ハ本規定ノ豫見セサル所ナリ故ニ條約ハ假
 ニ消滅ストスルモ外國人ノ有スル既得ノ權利ハ之カ爲ニ影響ヲ受クヘカラス云々ト
 論セラレタリ此ノ解釋ハ我輩ノ全然首肯シ能ハサル所ナリ蓋シ特許法第二七條第一
 項ハ下ノ如ク規定セリ外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又
 ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコ
 トヲ得ス

此規定ノ要點ハ要モナク特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得スト云フ
 點ニ在リ勝部博士ハ權利ヲ享有スルコトヲ得ストハ新ニ取得スルコトヲ得ストノ意
 味ナリト解スルカ如キモ我輩ハ我國ノ法制ノ用例上此ノ規定ハ特許權又ハ特許ニ關

スル權利ヲ享有スル資格ヲ定メタルモノト信ス故ニ資格カ消滅スレハ其ノ後權利ヲ取得スルコト能ハサルハ勿論既得ノ權利ト雖之ヲ保有スルコト能ハサルハ自然ノ理ナリ跡部博士ハ日本ノ國籍ヲ喪ヒタル者カ日本人ニ非サレハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ヲ例示シテ「該權利ハ日本人ナル資格ニ附著セル權利ニ非サルカ故ニ日本人タル資格ノ消滅ト俱ニ當然消滅スト云フコトヲ得ス是レ特ニ民法九九〇條及明治三二年法律第九四號ヲ以テ一年內ニ其權利ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其ノ戸主ナル場合ハ該權利ハ家督相續人ニ其ノ家族ナル場合ハ國庫ニ歸屬スト規定シタル所以ナリ然ルニ特許權ニ就テハ何等ノ規定ナシ前述ノ如キ當然ノ理由ナクシテ失權セシメント欲セハ法ニ明文ナカルヘカラサルナリト云ヒ恰モ民法第九九〇條及明治三二年法律第九四號ハ國籍ノ喪失ニ因リテ法律上當然ニハ何等ノ影響ヲ受ケサル權利ヲ處分シ又ハ喪失セシムル爲設ケラレタルカ如ク論スルモ我輩ハ跡部博士トハ全ク正反對ノ解釋ヲ採ルモノナリ即チ日本人ニ非サレハ享有スルコト能ハサル權利ヲ有スル者カ日本人タル資格ヲ失フトキハ當然其權利ヲ喪失シ相續人ニ移ルカ又ハ國庫ニ歸屬スルコトトナリ本人ノ眞意ニ反スル結果ヲ生スルカ故ニ特ニ此等ノ法律ヲ設ケ一定ノ猶豫期間ヲ與ヘ之ヲ處分セシムル趣旨ニシテ決シテ跡部博士ノ如キ解釋ヲ許スヘキモノニ非スト信ス從テ何等ノ規定ナキトキハ其ノ權利ハ當然移轉又ハ消滅スヘシ之ト同理ニ依リテ特許權モ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外特許法第二七條ノ規定上當然消滅セサルヘカラス而シテ之ニ付何等ノ規定ナキコトハ跡部博士ノ認ムル所ノ如クナルカ故ニ苟モ條約カ消滅ストノ前提ヲ認ムル以上ハ我特許法ノ解釋トシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル獨逸國人ノ特許權ハ當然消滅スルノ外

ナキナリ(法學博士遠藤源六氏法學協會雜誌三三卷第一號五八頁以下要領)

【參照學說】

一 本書第三卷諸法一九八頁(法學博士立作太郎氏戰時國際法一二七頁)
 二 同上二九三頁(法學博士遠藤源六氏法學協會雜誌三三卷第一號二四頁)
 三 同上二一五頁(法學博士跡部定次郎氏法學協會雜誌三三卷第一號二五頁)
 四 同上二一八頁(行政裁判所評定官利英治氏法曹記事第二四卷第一號一三頁)

日獨開戰ノ萬國工業保護同盟條約ニ及ホス效果如何ハ趣味アリ且實際上重要ナル問題ナリ曩ニ遠藤博士其深遠ナル卓見ヲ發表セラレテヨリ以來諸博士亦其名論ヲ公表セラレタリシカ今ヤ山田博士ニヨリ最後ノ斷定ヲ下サレタルカ如キ感ナクハアラス然レトモ吾人ハ猶ホ考究ノ餘地アル問題ナルヲ信スルヲ以テ其是非ノ斷定ハ之ヲ後日ノ研究ニ讓ラント欲ス

條約非消滅說ヲ前提トセハ山田博士ノ見解ハ大體ニ於テ吾人ノ贊同スルトコロナルモ博士ハ特許權ヲ解シテ二ノ意義ヲ有ストナシ一ハ發明者カ登録前ニ有スル權利ヲ意味シ二ハ登録後ニ有スル權利ニシテ共ニ私權ナリ殊ニ前者ハ發明者カ發明ニ因リ當然有スル權利ナリト前提シ次ニ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有スル獨逸人カ我國ニ於テ始メテ公ニスル發明ヲ爲ス場合ノ外ハ其獨逸人カ有スル特許權ノ日獨開戰ニ因ル效果ハ一ニ工業所有權保護同盟條約ノ日獨開戰ニ因ル效力如何ニヨリテ定マルトナシ終リニ獨逸人ノ有スル既得ノ權利ハ法律ノ改正ニヨルノ外之ヲ如何トモ爲ス能ハサルモ開戰後ニ於ケル特許ノ出願ヲ拒絶スル

カ爲メニハ何等新ナル規定ヲ要セスト結論セラレタルハ吾人聊カ其理論ノ行程ニ迷ハサルヲ得ス何トナレハ特許權ハ二ノ意義ヲ有スルモ別個ノ權利ニアラスシテ一個ノ權利ナリ殊ニ特許ヲ受クル權利ハ發明其モノニ因リ當然有スル私權ナリトナシ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ノ如キ獨逸人ノ特許權ヲ有スルハ工業所有權保護同盟條約ノ存在ニ因テ然ルト前提シ次ニ工業所有權保護同盟條約ハ日獨開戰ニ因リ何等影響ナキヲ以テ獨逸人ノ有スル既得ノ權利ハ日獨開戰ニ因リ當然取消スコトヲ得サルモノナルモ特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ拒絕スルヲ得ト如何ニシテ結論スルヲ得ルヤヲ疑ハサルヲ得サレハナリ蓋シ外國人ノ權利保護ハ國際交通ヲ前提トスルヲ以テ然ルト爲サハ如何ニシテ既得ノ權利ノミヲ以テ之ヲ除外スルノ要アラシヤ殊ニ博士ハ特許ヲ受クルノ權利ト登録ニヨツテ發生シタル權利トハ別種ノ權利ニアラスシテ素ト一個ノ權利ナリト主張セラレルモノナルニ於テヤ又特許ヲ受クル權利ハ發明ノ完成ニ因リ當然有スル私權ノ謂ナリトセハ既ニ開戰前ニ發明ヲ完成シタル獨逸人ハ如何ニシテ其出願ヲ拒否セラレルノ理ヲ生スルヤ又開戰前獨逸人ハ工業所有權保護條約ニヨリ當然自己ノ發明ニ對シ出願權ヲ有シタリトセハ日獨開戰ニ因リ何等其保護條約ニ影響ナキニ拘ハラズ其出願權ヲ失フノ理ヲ生スヘキヤ若シ國際交通ヲ前提トナスヲ以テ然ルトセハ寧ろ進テ交戰國間ニ於テハ條約消滅(遠藤博士ノ所謂停止)スト解ス

ルノ可ナルニアラサルカ何トナレハ事實實行不能説ノミヲ以テハ之ヲ辯護スルヲ得サル場合生スレハナリ例ヘハ我國ノ如キ敵國人ノ在國ヲ禁止セサル場合帝國ニ居所ノミヲ有スル獨逸人カ發明ヲ完成スル場合ノ如キ是レナリ遠藤博士ノ特許權ニ關スル見解ハ條約消滅説ヲ前提トセハ其正當ナルハ吾人ノ既ニ贊同シタルトコロナリ本論跡部博士ニ對スル駁撃ハ曩ニ吾人カ同博士ノ論文ニ對シ評論セルト全然一致ス其詳細ハ本書第三卷諸法二二〇頁ニ就キ參照セラレタシ

(一一七)

舊商標法六 登録商標主其營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其 商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 登錄商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス
 同二二 商標專用權ハ登録商標主其ノ商標ヲ使用スル營業ノ廢止ニ因リ消滅ス
 舊商標法施行細則一四 商標原簿ニハ左ノ事項ヲ登録スヘシ
 同二三 商標專用權ノ消滅ニ付テハ其事由及ヒ年月日
 商法二二 商標ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ讓渡人ハ同市町村内ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス
 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有ス
 讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ラス不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス
 同二三 前條ノ規定ノ營業ノミナ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス
 民法九五 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス
 同七〇九 故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

- (一) 舊商標法第六條第二項ノ規定ニ違反シテ商標ヲ讓渡シ其登録ヲ受ケタルトキハ其讓渡ハ有效ナレトモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス」
商標ヲ使用セストノ意思ヲ單純ニ外部ニ對シテ表白シタリトテ之ヲ以テ直ニ使用廢止ニヨル商標權ノ消滅ヲ來スモノト解スルコト能ハス使用ノ廢止ニヨリテ商標權ノ消滅スルニハ商標權者力當該官廳ニ對シテ其意思ヲ表示シ舊商標法施行細則第一四條第一三號ニ從ヒ其消滅ノ登録ヲ受ケ商標權ノ要件タル商標登録ヲ爾後存在セサルト同一ノ狀態ニ置クニ因ルモノトス」
- (二) 營業ノ讓渡ハ必スシモ讓渡者ノ其營業ノ廢止ヲ伴フモノニアラス」
商標權ノ讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ヲ知ラサル第三者力其讓受人ヨリ商標權侵害ノ告訴ヲ爲スヘシト告ケラレ刑事上ノ處分ヲ受クヘキコトヲ憂慮シテ之ト示談契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ要素ニ錯誤アル無効ノモノナリトス」
- (三) 商標權ノ讓渡ヲ第三者ニ對抗シ得サルコトカ詳細ナル事實ノ調査ト至難ナル法律ノ解釋トヲ俟テ始メテ知り得ヘキモノナルトキニ於テ讓受人力自己ニ商標權アリ且之ヲ第三者ニ對抗シ得ヘキモノト信シ第三者ニ對シ商標權侵害ノ告訴ヲ爲スヘシト告ケ示談契約ヲ爲サシメタレハトテ過失ト認ムルヲ得ス」

(一) 舊商標法第六條第二項ニハ登録商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ

讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登録ヲ受ケルコトヲ得ストノ規定アリ此規定ニ違反シテ其商標ヲ讓渡シ其登録ヲ受ケタル場合ニ於ケル讓渡ノ效力如何ニ付テハ明ナル規定ヲ缺クト雖トモ登録ノ無効ノ場合ヲ規定セル同法第一六條ハ右ノ場合ヲ包含セス又同法第六條第二項ハ其讓渡ヲ禁止セスシテ單ニ登録ヲ受ケルコトヲ得サル旨ヲ定メ尙ホ同法第一項ニ於テ商標ノ讓渡ハ之カ登録ヲ受ケルニ非サレハ之レヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル旨ヲ定メタル諸點ヨリ觀レハ右ノ場合ニ於テ讓渡ハ有效ナレトモ之レヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル趣旨ナリト稱スルヲ相當トス而シテ被告カウキルヘルム、ユーベヨリ第三〇〇六九號ノ商標權ヲ讓受ケルニ當リ類似商標第二三〇四號ト共ニ讓受ケ若ハ共有ト爲ササルコトハ被告ノ爭ハサルトコロナルヲ以テ被告カ第三〇〇六九號ノ商標權ノ讓渡ヲ原告ニ對抗シ得ルニハ其讓渡ノ登録ヲ受ケル前ニ第二三〇四號ノ商標權カ廢止ニヨリテ消滅シタル事アルヲ要ス然ルニウキルヘルム、ユーベハ久シキ以前ニ類似商標第二三〇四號ノ廢止ヲ爲シタリト被告ノ主張事實ニ付テハ被告ノ採用スル甲五號證ニハ今回模造品製出ノ禁歇ヲ計ルト共ニ顧客諸君ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ従前ノ商標ニ更ニ日本文字ヲ附加シ日本商標特許局ニ出願セリ拙者製造ノ驗温器ハ「nael」ノ文字ト裏面ニ記載シアル日本文登録商標及ヒ檢定證明書ニアル拙者ノ署名並ニ「Zerbak」ナル地名アルヲ以テ云々要スルニ日本文登録商標ナキモノハ揮テ模造品ナルカ故ニ今後ニ於ケル使用者諸君ハ日本文登録商標ニ注目セラレ云々トノ記載アリ又其上方左右ニ日本文字ヲ使用セル商標ノ記載アリ同號證ハ明治四十二年十月九日ノ發行ニ係リ一見本作讓渡後ノモノナレハ讓渡前ウキルヘルム、ユーベ

カ第二三八〇四號ノ商標ノ使用ヲ廢止シタリヤ否ヤヲ審査スルニ付其資料ト爲スニ足ラサルヤノ觀アレトモ同號證中製造元ウキルヘルム、ウエベ、東洋惣代理店ハ―ア―レンス繼續社トアル點及ヒ廣告ノ原稿ハ雜誌發行ノ日ヨリ少クモ數日以前ニ送致セラル、ナ通常トスルノ點ヨリ觀レハ此廣告ノ原稿ハ右讓渡ノ前ニ作成セラレタリト認ムヘキヲ以テ同號證ノ發行日附ニヨリ直ニ同號證ハ當然右ノ點ニ付キ審査ノ資料ト爲スニ足ラスト云フコト能ハス然レトモ同號證ニヨリテハウキルヘルム、ユ―ベカ爾後第二三八〇四號ノ商標ノ使用ヲ止メ第三〇〇六九號ノ商標ヲ常ニ使用スヘキ意志ヲ表白セル事ヲ認メ得ヘキモ第二三八〇四號ノ商標登錄ノ存續セルコト及ヒ三〇〇六九號ノ商標ノ讓渡ノ時マテ此等ノ商標ノ指定商品ナリト被告ノ主張スル體温器ニ付テノ營業ヲウキルヘルム、ユ―ベカ於テ爲セルコトハ被告ノ自認スルトコロナレハウキルヘルム、ユ―ベカ第二三八〇四號ノ商標ヲ使用セストノ意思ヲ單純ニ外部ニ對シテ表白シタリトテ是ヲ以テ直ニ使用廢止ニヨル商標權ノ消滅ヲ來スモノト解スルコト能ハス何トナレハ商標權者カ其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキハ商標權ノ消滅ヲ來スコト舊商標法第一二條ノ定ムルトコロナレハ此場合ニハ商標權消滅ノ登錄ヲ俟タス其商標權ハ營業ノ廢止後存續スルコトナケレトモ單純ニ使用廢止ノ意思ヲ表示スル場合ニ於テハ他日其意思ヲ變ヘシテ再ヒ其商標ヲ使用スルコトヲ得ヘク又同法カ第一二條ニ於テ營業ノ廢止ヲ商標權ノ消滅原因ト爲セルニ拘ラス單純ナル使用ノ廢止ヲ以テ商標權消滅ノ原因トスル旨ヲ規定セサルニ依テ觀ルニ單純ナル使用廢止ノ意思表示ニ因リテハ商標權ハ消滅セズ使用ノ廢止ニヨリテ商標權ノ消滅スルニハ商標權者カ當該官廳ニ對シテ其意思ヲ表示シ舊商標法施行細則第一四條

第一三號ニ從ヒ其消滅ノ登錄ヲ受ケ商標權ノ要件タル商標登錄ヲ爾後存在セザルト同一ノ狀態ニ置クニ因ルモノト解スヘキヲ以テナリ故ニ本件商標權ノ讓渡前ニ於テハウキルヘルム、ユ―ベカ第二三八〇四號ノ商標權ハ有效ニ廢止セラレタルモノニアラス依然トシテ存續セルモノト認ム

(二) ウキルヘルム、ユ―ベカ第三〇〇六九號商標ノ讓渡ノ際其商標ニヨリテ表彰セラ、體温器ノ營業ヲ廢止セルカ爲メ同一商品ニ使用スル類似第二三八〇四號ノ商標權カ消滅セリヤ否ヤ乙第四號證ノ二ニヨレハウキルヘルム、ユ―ベカ第三〇〇六九號ノ商標ヲ其營業ト共ニ被告ニ讓渡シタルコトヲ認ムルコトヲ得ヘシ營業ノ讓渡カ同時ニ讓渡者ノ其營業ノ廢止ヲ伴フモノトセハ第二三八〇四號ノ商標權カウキルヘルム、ユ―ベカノ同商標ヲ使用スル商品ノ營業ノ讓渡ニヨリテ消滅スヘキコトハ舊商標法第一二條ニヨリテ明カナリ從テ第三〇〇六九號ノ商標權讓渡ノ際ニハ類似第二三八〇四號ノ商標權ノ存在スルコトナク同法第六條二項ノ場合ニ該當セサル筋合ナレトモ營業ノ讓渡ハ必スシモ讓渡者ノ其營業ノ廢止ヲ伴フモノニアラサルコトハ兩者ノ性質上自ラ明ナルノミナラス商法二三條及ヒ第二二條ニ徴シ又舊商標法第六項第一項前段同第二項及ヒ第一二條ノ各規定ヲ對照シテ之レヲ知ルコトヲ得ヘシ然ルニウキルヘルム、ユ―ベカ其營業讓渡ノ際日本ニ於ケル營業ヲ廢止シタリト認ムヘキ證據ナク却テ甲號證ニヨレハウキルヘルム、ユ―ベカ外國ニ居住セシモ日本ヨリ發本ニ於ケル原告ヨリ同人ニ對シテ賣買ノ注文ヲ發シタルコト及ヒ右ノ通知並ニ注文カ前記讓渡ノ日ヲ去ル遠カラサルコトヲ認メ得ヘク之レニ依レハウキルヘルム、ユ―

ベハ右讓渡ノ際讓渡シタル營業ヲ廢止シタルモノニアラサル事ヲ認メ得ヘキヲ以テ
 右營業ノ讓渡ニヨリウキルヘルム、ユ一ベハ其營業ヲ廢止シ從テ第二三八〇四號ノ商
 標權ハ消滅ニ歸シタルモノト云フ能ハス以上說示ノ如クナルヲ以テウキルヘルム、ユ
 一ベヨリ被告ニ爲シタル第三〇〇六九號商標權ノ讓渡ハ之ヲ以テ原告ニ對抗スルコ
 トヲ得サルモノト然ラハ第三〇〇六九號ノ商標ヲ使用スル商品ヲ指定スルニ付用
 キタル寒暖計ナル語カ被告ノ所謂獨逸語テルモメータート同様體溫器ヲモ意味スル
 ヤ否ヤニ付判断スルマテモナク被告登錄商標第三〇〇六九號附ノ體溫器ヲ販賣スル
 原告ニ對シ同號商標權ノ侵害ヲ主張シ得ヘキ謂レナシ然ルニ被告ハ明治四十二年十
 月六日右商標權ヲウキルヘルム、ユ一ベヨリ讓受ケ其權利者トナリタリト稱シ明治四
 十一年頃ヨリ第三〇〇六九號登錄商標ナル體溫器ヲウキルヘルム、ユ一ベヨリ直接輸
 入販賣シ居リタル原告ニ對シ商標權侵害ノ告訴ヲ爲スヘシト告ケタルヲ以テ原告ハ
 明治四十三年十月八日被告ト示談ヲ爲シ其結果原告カ當時所有セル十五グロツスノ
 體溫器ヲ原告ニテ被告ニ讓渡シ被告カ其代人エフ、エー、キローサツクニ支拂フヘキ手
 數料金百圓ヲ被告ニ代リテ同人ニ支拂ヒ尙ホ東京大阪ニ於ケル新聞紙ニ謝罪廣告ヲ
 掲載シ其廣告料ヲ支拂ヒタル上右登錄商標ナル體溫器ヲ輸入販賣セサルコトヲ約シ
 タル事實ハ當事者間ニ爭ナク右ノ如キ示談契約ヲ爲スニ付原告ハ非常ナル苦痛ヲ感
 スルモノト認ムヘキヲ以テ之レヲ爲スニ至リタルハ當時被告ヨリ第三〇〇六九號ト
 商標權ノ取得ヲ對抗セラレ之レヲ爲スニ非サレハ商標權侵害ノ告訴ヲ受ケ刑事上ノ
 處分ヲモ受クヘキコトヲ憂慮シタルニ基クモノニシテ若シ右商標權ノ取得ヲ被告ヨ
 リ第三者タル原告ニ對抗シ得サルコトヲ知ラハ右ノ如キ示談契約ヲ締結セザリシモ

ノト認ムルヲ相當トスルヲ以テ此契約ハ其要素ニ錯誤アル無効ノモノト謂ハサルヘ
 カラス然ラハ原告カ被告ニ代リテ支拂ヒタル前記手數料金百圓及ヒ被告ノ自認スル
 右體溫器十五グロツスニ付同人ノ得タル販賣益金百二十七圓五十錢ハ何レモ被告カ
 不當ニ利得シ其利益ノ現存スルモノト認ムヘキヲ以テ同人ハ之ヲ原告ニ返還スルノ
 義務アリ

(三) 不法行爲ヲ原因トスル原告ノ損害賠償ノ請求ニ付其原因ノ有無ヲ審査スルニ被
 告カ當時第三〇〇六九號ノ商標權ヲ原告ニ對抗シ得サルコトヲ知悉シ居リタルモノ
 ト認ムヘキ證據ナク本件ノ場合ニ於テ被告カ右ノ商標權ヲ原告ニ對抗シ得サルコト
 ハ詳細ナル事實ノ調査ト至難ナル法律ノ解釋トナ俟テ初メテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキ
 モノナレハ同商標權讓渡ノ登録ヲ受ケタル被告カ自己ニ商標權アリ且ツ之ヲ同商標
 ナ付セル體溫器ヲ販賣セル原告ニ對抗シ得ヘキモノト信スルハ寧ロ當然ノコトハス
 ヘク當時被告ニ於テ多大ノ注意ヲ用ユレハ之ヲ知り得タリトモ認メ難キヲ以テ被告
 カ原告ニ對シ商標權侵害ノ告訴ヲ爲スヘシト告ケ本件ノ示談契約ヲ爲サシムルニ至
 リタルニ付キ被告ニ過失アリト認ムルニ由ナシ尙原告ハ第三〇〇六九號ノ商標權ハ
 寒暖計ヲ其指定商品ト爲セルモノナルヲ以テ同商標ヲ附シタル體溫器ヲ輸入販賣ス
 レハトテ被告ノ商標權ヲ侵害スルコトナキカ故ニ原告ヲ以テ商標權侵害者ナリトシ
 告訴ヲ爲スヘシト強迫シタル被告ハ不法行爲ノ責ニ任セサルヘカラスト主張スルト
 モ寒暖計ナル語カ體溫器ヲモ包含スルヤ否ヤハ暫ク措キ甲號證ニハ類別第十八類指
 定商品寒暖計トアリ檢溫器ノ圖面アリ又原告自ラ明治四十一年頃ヨリ第三〇〇六九
 號登錄商標アル體溫器ヲウキルヘルム、ユ一ベヨリ直接輸入販賣シ居リタリト主張セ

ルヨリ觀ルモウキルヘルム、ユーベハ體温器ヲモ表示スルモノト信シ寒暖計ナル文字
 ナ用キテ商品ヲ指定シテ本件ノ商標登錄ヲ得右ノ商標ヲ體温器ニ附シ居リタルモノ
 ト認メ得ヘキカ故ニ被告モ亦第三〇〇六九號ノ商標ハ體温器ヲ表彰スルモノト信シ
 認ムモノト認ムヘキヲ以テ被告ニ不法行為ヲ爲スノ故意アリタルモノト認ムヘカ
 事ルヲミナラス新舊何レノ商標法施行細則ニモ指定品目中ニ寒暖計體温器ノ河レヲ
 モ特ニ列記セズ明治三十年三月法律第十四號關稅定率法中ニハ寒暖計ナル品目ハア
 レトモ體温器ナル品目ナク明治三十九年三月法律第十九號關稅定率法モ亦同様ニシ
 テ此兩法ハ體温器ヲ醫療器中ニ包含セシムル趣旨ナルカ如キニ拘ラス明治四十三年
 四月法律第五四號關稅定率法ニハ第十六類五四一ノ下ニ寒暖計一、體温計三、其他トア
 リテ寒暖計中ニ體温器ヲ包含スルモノト爲セリ然ラハ通俗ノ用語トシテ寒暖計中
 ニハ體温器ヲ包含セストスルトモ商標登錄ニ關シ寒暖計ナル文字ヲ以テ指定商品ヲ
 表示シタル場合ニ其商標カ體温器ニ付專用セラレ得ルヤ否ヤニ付テハ多少ノ疑問ア
 リト爲サ、ルヘカラス然ルニウキルヘルム、ユーベカ指定商品ヲ寒暖計トシテ專用權
 ナ得タル第三〇〇六九號ノ商標ヲ體温器ニ附シテ販賣シ來リタルコト前記認定ノ如
 クナルヲ以テ假リニ寒暖計ナル語カ體温器ヲ包含セストスルモ被告カ第三〇〇六九
 號ノ商標權ヲ體温器ニ關スルモノト信スルニ至ルハ寧ロ相當ナレハ原告ヲ商標權侵
 害者ナリトシテ告訴ヲ爲スヘシト告ケタルニ付被告ニ過失アリト認ムルニ足ラス依
 テ何レノ點ニ於テモ被告ニ不法行為ノ責任ナシ(東京控訴二年(ネ)二二號三年十月七日
 民一部富谷裁判長三宅岩本各判事判決)

【判決事項】

(一) 件名 不當利得返還及ヒ損害賠償請求事件(二) 訴訟關係人 第一審原告名會社佐々木商店訴訟代理人辯護士南部哲治同出浦
 力雄同出浦清格第一審被告ハ一アールレンス、ウント、コムバニー、メツハク訴訟代理人辯護士佐藤博愛

【三點前段參照學說】

一 營業全部ヲ讓渡シタルトキハ商人タル資格ヲ消滅ス然レ共商號ノ讓渡又ハ營業ノ一部讓渡ハ俱ニ之ニ因リテ商人タル資
 格ノ消滅ヲ來タスコトナシ何トナレハ營業ハ依然トシテ繼續スレハナリ若夫レ同一人カ二種ノ營業ヲ爲セル場合ニ於テ其一種
 ノ營業ノ全部ヲ讓渡シタルトキニ付テハ廢業ト同様ニ推斷ス(キチリ)(法學士片山義勝氏商法總論七六頁)

二 營業全部ヲ讓渡スルトキハ亦商人タル資格ヲ失フヘシ然レトモ讓渡契約後尙ホ引渡ヲ爲サスシテ營業ヲ繼續スル間ハ商人
 タリ要スルニ營業タルヘキ商行爲カ事實上全然廢止セラレタル時ニ營業力止ミタルモノト云フナ付(キモノ)ニシテ單ニ營業ヲ
 廢止スルノ意思ヲ表示スルノミニテハ未ダ營業力止ミタルモノト云フナ付得ス(西本辰之助氏商法總論一四頁)

【三點後段參照判例】

該契約締結ノ際被告會社代表シ之カ締結ノ衝ニ當リタル同會社ノ代表員タリシ中彌兵衛カ原告ノ爲シタル告訴ニヨリ犯罪成
 立スルモノト信シ檢事ノ言ニ因リ災厄ノ身ニ及ハントテ虞レタルカ爲メ本件ノ契約ヲ締結スルニ至リタルコトハ證人中彌兵
 衛ノ證言ニヨリ之ヲ認メ得ヘク而カモ該告訴事件力不起訴ニ終リタルコトハ原告ノ爭ハサル所ナルモ右中彌兵衛ニ於テ犯罪成
 立スルモノト信シタルハ全ク該契約ヲ締結スル意思ヲ作ルニ至レル事實ト意思其ノモノトノ間ニ横ハル不一致外ナラスシテ
 要スルニ法律行為ノ緣由ニ關スル錯誤ニ過キサレハ之ヲ以テ直ニ法律行為ノ要素ニ錯誤アリト爲サ得サルニヨリ該契約ハ之
 カ爲メ無効ヲ來タスモノニアラス(大阪地方裁判所判決本書第一卷民法三九三頁)

【三點參照判例】

一 實際上或權利ヲ有セサル債權者カ法律ノ規定ヲ知ラス若クハ之ヲ誤解シテ其權利アリト確信シ債務者ニ對シテ財産ノ假差
 押ヲ爲シ之ニ損害ヲ生セシメタルトキハ一應ハ債權者ニ過失アルモノト見ルナ當然トス然レトモ債權者ノ茲ニ出テタル相當ノ
 理由存スルトキハ過失アリト云フナ付得ス(大審院民事判決錄四一年八四七頁)

二 假差押ヲ爲シタル者カ債權者有スルコトヲ確信シ而カモ之ヲ信スヘキ相當ノ理由アル場合ニハ縱令裁判上其債權ナキニ歸
 スルモ他ニ特別ノ事由ナケレハ其假差押ヲ以テ故意若クハ過失ニ出テタルモノト爲スコトヲ得ス(同上三九年一二八九頁)

一一八

不動産登記法二六 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ此代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス
 同二七 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

片山學士

西本氏

大阪地方
裁判所

大審院

同二八 登記名義人ノ表示ノ變更ハ登記名義人ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
 同二〇五 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
 二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者
 民法七六四 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナキトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨
 ヒ又父カ知レサルトキ他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル
 同二〇五 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財產ハ之ヲ法人トス
 同二〇五二 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財產ノ管理人ヲ選任スルコトヲ要
 ス
 同二〇五九 前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財產ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第一
 ○五六條第二項ノ規定ヲ準用ス
 相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス
 不動産ノ賣主カ死亡シテ其相續人カ不分明ナルトキハ買主ハ相續人曠缺ノ手續
 ニ依リ管理人ノ選任ヲ受ケタル上一般ノ手續ニ從ヒ登記ヲ爲スコトヲ得ルモ絶
 家シタル場合ナルトキハ買主ハ登記ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
 土地賣買ニ依リ既ニ所有權ハ取得シタルモ其當時移轉登記手續ニ彼是手數ヲ要スル
 内偶々登記義務者タル賣主死亡シテ遂ニ絶家ニ歸セリ此ノ場合登記權利者タル買主
 ハ之ヲ自己名義ト爲サントスルニハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤ之ニ關シ法曹會ハ左
 ノ如キ決議ヲナセリ
 絶家トハ戸主ヲ喪ヒタル家ニ家督相續人ナキ爲メ其家ノ消滅スルヲ謂フ本問絶家ニ
 シテ此意義ナリトセハ買主ハ最早登記ヲ爲スヲ得ス若シ本問絶家ニシテ單ニ相續人
 ノ不分明ナル状態ヲ指スニ過キサルモノトセハ買主ハ相續人曠缺ノ場合ニ關スル手
 續ニ因リ管理人ノ選任ヲ申請シ本登記ノ場合ニハ管理人ト共同シテ所有權移轉ノ登
 記ヲ申請スルコトヲ得ヘク未登記ノ場合ニハ管理人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有

權ヲ證シテ保存登記ヲ申請スルヲ得ヘシ(法曹會決議法曹記事第二四卷第七號八五號
 以下要領)
 至當ノ見解ト信ス

商業會議所法三〇 商業會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔ス
 選舉權ヲ停止セラレタル者ハ停止中ト雖經費ヲ負擔ス
 同三一 商業會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料若ハ手數料ヲ徵收シ又ハ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
 前項ノ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 商業會議所ハ公法人ナリ
 商業會議所經費及其督促手數料ノ徵收ニ付テハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得サ
 ルモノトス
 商業會議所法第一條第七條第三〇條第三五條等ニ依レハ商業會議所ハ商工業ノ發達
 ナ圖リ當業者ノ利益ヲ助長スルカ爲メ設立セラルル法人ニシテ國家行政事務ノ一部
 ナリテ其事務權限トシ農商務大臣監督ノ下ニ在リテ之ヲ斷行スヘキ一種ノ公法人ニ
 屬シ其經費ノ負擔及ヒ賦課ノ如キ公法的權利關係ニ基クモノナルコト明ナリ殊ニ改
 正前ノ同法第三三條ニ於テ經費ノ滯納ニ付テモ過怠金ト同シク國稅滯納處分ノ例ニ
 依リ之ヲ徵收スルコトヲ得セシメタルニ依リテ其公法上ノ權義ナルコトヲ知ル可キ
 ナリ然ルニ明治四十二年法律第四三號ヲ以テ同條ヲ修正シ經費ノ點ヲ削除シ而モ同
 法第三一條カ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシムルハ依然使用料手數料及ヒ實費ノ
 辨償ニ限定セルヲ以テ觀レハ經費ノ徵收ニ付テ公法的權利關係ノ觀念ヲモ改メタル

ニ非スシテ唯爾後國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得サラシムルニ止
 マルト同時ニ使用料手数料等ノ如ク民事訴訟ノ提起ニ依リテ之ヲ徵收シ強制スルコト
 ナ得セシメサル法意ナリト解釋スルヲ相當トス經費ノ滯納ニシテ既ニ然ル以上ハ其
 督促ヨリ生スル手数料ノ徵收ニ付テモ亦民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノト謂
 フ可ク前項第三一條ノ手数料ハ私人カ商業會議所ニ對シ特定ノ行為ヲ要求シ其報償
 トシテ支拂フヘキ性質ノモノヲ指稱シ經費ノ督促手数料ノ如キチ包含セス然レハ上
 告人カ被上告人等ニ對シ本訴ヲ以テ經費又ハ督促手数料ヲ請求シタルハ失當ニシテ
 被上告人等ノ無訴權抗辯ヲ採用シタル原判決ハ相當ナリ(大審院大正二年(オ)第五六二
 號同三年十一月九日民二判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 札幌地方裁判所(三)件名 滯納經費請求事件(四)訴訟關係人 上告人札幌商業會議所外九名訴訟代理人
 辯護士山口憲被上告人岡田清太郎

【反對學說】

商業會議所ハ公法人ナルカ私法人ナルカ將タ公法人ノ中間ニ位スル雜種ノモノナルカ我カ會議所法ノ認メタル商業會議
 所ノ性質如何ニ我現行法ノ規定ヲ按スルニ(イ)商業會議所ノ設立ヲ發起スルト否トハ關係地方商工業者ノ自由ナリ(會議所
 法二條)又解散スルコトヲ得(同法三七條)如此ハ國家行政ノ補助機關タリ行政組織ノ一部ナル觀念トハ相容レス少ク國家
 行政ノ補助機關タルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ商工業ノ利益ヲ代表スヘキ團體タルコトヲ示スモノト云ハサルヘカラス(ロ)
 商業會議所ノ事務ナルモノヲ見ルニ(同法七條)商工業ノ發達ニ必要ナル方案ヲ調査シ商工業ニ關スル法規ノ制定改廢施行ニ
 關スル意見ヲ開申シ商工業ノ利害ニ關スル行政廳ノ諮問ニ應ズト言ヒ商工業ノ狀況及統計ヲ調査スト言フ何レモ商工業者ノ
 利害ヲ代表スルモノニアラサルナシ勿論此等ノ事務ハ一面ニ於テハ國家ノ助長行政上ノ職務ナリト見ルコトヲ得サルニハア
 ラスト雖モ本來商工業カ自家ノ利害ヲ主張スルカ爲ニ存スル事務ナルコトハ之ヲ沒却スヘカラス(ハ)殊ニ商業會議所カ此等
 ノ事務ヲ行フニ權力ヲ用ヒウツアルコトハ之ヲ認ムヘカラス會議所ノ經費ハ議員ノ選舉權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ負擔シ(會
 議所法三〇)會議所ハ豫算賦課徵收方法ニ關シテ決議シ農商務大臣ノ認可ヲ受ク(同法三五條二項)故ニ會議所ノ經費取立權

雄本博士

ハ會議所カ議員選舉權者ニ對シテ法律ノ規定ニ依リ當然有スル權利ニシテ其內容ハ賦課ニ依リテ確定スルモノナリ然レ共會
 議所ハ公私法ノ中間ニ位シ雜種ノ性質ヲ有スルモノト解スヘキカ故ニ會議所カ會議所タル資格ニ於テ有スル權利ナルコトニ
 ヨリテ直ニ經費取立權ハ公權ナリト解スルヲ得ス假ニ商業會議所ヲ以テ公私上ノ團體ナリトシ更ニ一步ヲ譲リテ會議所ハ經
 費ヲ賦課スルコトニ於テ議員選舉權者ニ對シテ權力ヲ行使シツツアルモノナリト假定スルモ賦課ニ因リテ生シタル權利ハ財
 產ノ確保ヲ以テ其ノ內容ト爲ス然カレニ財產ハ本來私權ノ目的物ナリ故ニ賦課ニ依リテ生スル經費取立權ニ關スル訴訟ハ民
 事ニ屬スルモノト言ハサルヘカラス(法學博士雄本剛造氏京都法學雜誌七卷四號七頁以下本書第一卷民訴一七頁)

一一〇

新聞紙法四一 安寧秩序ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ六月以下ノ禁錮
 又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 同四二 皇室ノ尊嚴ヲ冒シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載スルトキハ 行人編輯
 人印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 同四四 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

同一人ニシテ發行人及編輯人トシテ新聞紙法第一條ニ違犯シ又ハ發行人編輯
 人印刷人トシテ同法第四二條ニ違犯シタル場合ニ於テハ恰モ別人カ發行人編輯
 人トシテ各第四一條ニ違犯シ又別人カ發行人編輯人印刷人トシテ各第四二條ニ
 違犯シタル場合ト均シク各別ノ犯罪成立スルモノトス

新聞紙ノ發行人トシテ新聞紙法第一條ニ違犯ノ行為ヲ爲スト其編輯人ナシテ同條違
 犯ノ行為ヲ爲ストハ各別個ノ行為ニシテ又其發行人ナシテ同法第四二條違犯ノ行為
 ナルヲ以テ若モ同一人ニシテ發行人及ヒ編輯人トシテ右第四一條ニ違犯シ又ハ發行
 人編輯人及ヒ印刷人トシテ右第四二條ニ違犯シタル場合ニ於テハ恰モ別人カ發行人
 編輯人トシテ各第四一條ニ違犯シ又別人カ發行人編輯人印刷人トシテ各第四二條ニ違

大審院判

反シタル場合ト均シク各別ノ犯罪成立スルヲ以テ同第四四條ノ規定ニ基キ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セスシテ其刑ヲ併科スヘキハ當然ナリトス原判決ノ確定セル事實ハ第一發行人兼編輯人トシテ新聞紙法第四一條ニ違ヒ安寧秩序ヲ紊ス事項ヲ新聞紙ニ掲載シ第二發行人兼編輯人兼印刷人トシテ同法第四二條ニ背キ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタリト云フニ在ルカ故ニ第一事實ニ付キ判示兩資格ニ於テ又第二事實ニ付キ判示三資格ニ於テ各別ニ被告人ニ刑ヲ量定シ之ヲ併科シタル原判決ハ洵ニ正當ナリ(大審院大正三年(レ)第二六三二號同年十二月四日刑一判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 大阪地方裁判所(三)件名 新聞紙法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人村下隆熙外一名辯護人白川朋吉岡大場茂馬同花井卓藏岡鶴田恣

(一一一)

森林法八九第一項 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ輕懲役ニ處ス因テ主産物ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

(一)明治三十八年農商務省令第三八號國有林野産物賣拂規則ニ依ルモ柴ヲ國有林ノ副産物トスルコトヲ規定セサルヲ以テ主産物賣拂下出願ノ例示タル其附屬書式第一號及式第一號及立竹又ハ副産物賣拂下出願ノ例示タル同第二號ノミニ基キ同省令カ必スシモ國有林ニ生立セル柴ヲ其副産物トスルノ趣旨ヲ確定シタルモノト解スルヲ得ス

國有林野ノ産物ノ主産物ナルヤ將タ副産物ナリヤハ明治三十九年農商務省訓

令第四一號國有林事業豫定案規程ニ依リテ之ヲ判斷スヘキモノトス
(二)小柴木カ國有林ノ主産物ナルヤ將タ副産物ナルヤハ國有林野ヲ管轄スル林區署ノ職員カ決定スヘキ事實問題ナリトス

(一) 明治三十八年農商務省令第三八號國有林野産物賣拂規則ニ依ルモ柴ヲ國有林ノ副産物トスルコトヲ規定セサルヲ以テ産物賣拂下出願ノ例示タル其附屬書式第一號及立竹又ハ副産物賣拂下出願ノ例示タル同第二號ノミニ基キ同省令カ必スシモ國有林ニ生立セル柴ヲ其副産物トスルノ趣旨ヲ確定シタルモノト解シ得ヘカラサルノミナラズ國有林野ノ産物ノ主産物ナルヤ將タ副産物ナリヤヲ決定スヘキ本件ニ於テハ明治三十九年農商務省訓令第四一號國有林事業豫定案規程ニ依リテ之ヲ判斷スルヲ要シ而シテ同訓令第一六條第五類ハ柴草ヲ以テ副産物ノ一種類トスルモ其主林木トシテ經管ノ見込アルモノ及副木トシテ特ニ養成スヘキモノハ尙ホ之ヲ主産物シテ本類以外トスルコトヲ規定セリ故ニ原判決カ先ツ其採用セル證據ニ依リ本件雜木ノ小柴木ヲ以テ國有林ノ主産物ナルコトヲ判定シタル上之ヲ燒燬シタル被告ノ行爲ニ對シ森林法第八九條第一項後段ト刑法施行法第一九條第二〇條トヲ適用處斷シタル原判決ハ正當ナリ

(二) 【上告趣意】 原判決ハ證據說明中原審公判始末書ニ倉岡今太郎ノ供述トシテ檢據雜木林ノ主林木ニシテ副産物ニ這入ラス其小柴モ主産物トシテ取扱ヒ居ル旨ノ記アリト判示シ以テ上告人カ燒燬シタリトスル小柴ハ國有林ノ主産物タルコトノ證據ニ供シタリ然レトモ小柴木カ國有林ノ主産物タルヤ將タ副産物ト稱スヘキモノナル

ヤハ純然タル法律上ノ問題ニシテ過去ノ事實トシテ證言ニ依リ確ムヘキ事項ニアラズ然ルニ原判決カ斯ル事項ニ付キ右證人ノ言ヲ聽キ以テ判示小柴ヲ國有林ノ主産物ナリト認定シタルハ違法ニシテ原判決ハ此點ニ於テ破綻セラレヘキモノトス

【判決理由】 柴木カ國有林ノ主産物ナルヲ將タ副産物ナルヤハ國有林野ヲ管轄スル林區署ノ職員カ前點説明中ニ示セル農商務省訓命ノ規定ニ從テ決定スヘキ事實問題ナルカ故ニ之ヲ以テ純乎タル法律上ノ問題ナリトスル前提ニ基ケル論旨ハ理由ナシ(大審院大正三年(レ)第三八〇六號同年十二月十五日刑一判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 東京控訴院(三)件名 森林放火被告事件(四)訴訟關係人 被告人佐藤新之助辯護人高木益太郎

一一二

齒科醫師法一 受許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
刑事訴訟法三〇三 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ

齒科醫師ノ免許ヲ受ケタル被告カ其免許ヲ有セサル者ヲシテ患者ニ治療行爲ヲ施シメタル旨ヲ判示シナカラ之ニ續テ齒科醫業ヲ爲シタルコトヲ判示シ以テ齒科醫師法第一一條ヲ適用シタル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス

原判決事實理由ニハ被告ハ齒科醫師ノ免許ヲ受ケ居ル者ナル處大正三年七月二日茨城縣西茨城郡笠間町ニ共濟齒科醫院ト稱スル出張所ヲ設ケ治療ニ從事セシカ其不在中同月四日ヨリ六日ニ亘リ同出張所ニ於テ齒科醫ノ免許ヲ有セサル湯淺彌八郎ヲシ

テ中庭はつ外一名ノ齒ニ鎮痛劑ヲ注入「セメント」ノ注入等ノ治療行爲ヲ施サシメ以テ私ニ齒科醫業ヲ爲シタリトノ事實ヲ認メ之ニ齒科醫師法第一一條刑罰施行法第一九條第二〇條ヲ適用シタルモ原判決ニハ齒科醫師ノ免許ヲ受ケタル被告カ其免許ヲ有セサル湯淺彌八郎ヲシテ患者タル中庭はつ等ニ治療行爲ヲ施サシメタル旨ヲ判示シナカラ之ニ續テ齒科醫業ヲ爲シタルコトヲ判示シタルハ其趣旨明瞭ヲ缺キ被告ハ無免許齒科醫業ヲ教授シタルモノナルヤ又ハ他人ヲ幫助シテ無免許齒科醫業ヲ爲サシメタルモノナルヤ又ハ他人ト共同シテ無免許齒科醫業ヲ爲シタルモノナルヤヲ判示スルニ由ナク原判決ノ認ムル事實ニ依リテハ被告ノ行爲カ果シテ原判決判示ノ如ク齒科醫師法第一一條刑罰施行法第一九條第二〇條ニ該當スルヤヲ知ルヲ得ス原判決ハ理由不備ノ違法アリ(大審院大正三年(レ)第二八八五號同年十二月十七日刑二判決)

【判決事項】

(一)主文 破毀移送(二)原審 水戸地方裁判所(三)件名 齒科醫師法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人平松清五郎辯護人小西眞雄

一一三

警察犯處罰令二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
一六 人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮説シ又ハ虚報ヲ爲シタル者

警察犯處罰令第二條第一六號ノ罪ハ人ヲ誑惑セシム可キ虚偽ノ事實ヲ人ニ知ラシムル行爲ヲ總稱シ其被通知者カ不定多寡ナル場合ナルト又ハ特定ノ一人若クハ數人ナル場合ナルトヲ問ハス汎ク之ヲ處罰スル趣旨ナリトス

警察犯處罰令第二條第一六號ノ罪ハ人ヲ誑惑セシム可キ虚偽ノ事實ヲ人ニ知ラシム

ル行爲ヲ總稱シ其被通知者カ不定多衆ナル場合ナルト又ハ特定ノ一人若クハ數人
 ル場合ナルヲ問ハス汎ク之ヲ處罰スル趣意ナリト云ハサルヲ得ス而シテ特定ノ數人
 之ヲ誣惑セシム可キ虛偽ノ事實ヲ其一人ニ通知スル行爲ノ如キハ之ヲ虛報ト認ム可キ
 コト明白ナルヲ以テ原判決カ被告人ハ風間重五郎ニ宛テ判示虛偽ノ事項ヲ記載シタ
 ル封書ヲ郵送シ因テ重五郎一家ノ者ヲ誣惑セシム可キ虛報ヲ爲シタルモノト認定シ
 テ被告人ヲ懲罰犯處罰令第二條第一六號ニ問擬シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ニアラ
 ス(大審院大正三年(レ)第二七二五號同年十二月十八日刑一判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 新潟地方裁判所(三)件名 警察犯處罰令違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人風間昌次郎

二二四

印紙稅法圖

左ニ掲クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シテ下ニ定ムル所ノ印紙
 稅ヲ納ムハシ
 一通帳 印紙稅三錢

印紙稅法第四條ハ汎ク通帳ニ付キ印紙稅ノ納付ヲ必要トスルコトヲ規定セルモ
 ノニシテ營業ニ關セサルモノニ付キ之ハ之ヲ免除スルコトノ除外例ヲ設ケタル
 モノニアラス

通帳ハ請取ヲ證明スルヲ一ノ目的トスルモノナレトモ必スシモ請取ノ證明ノミ
 ヲ目的トスルモノニ限ラス從テ印紙稅法第四條ニ單ニ通帳トスル以上ハ其通帳
 ハ營業ニ關スル請取書ヲ通帳ト爲シタルモノノミヲ指稱スルモノニアラス

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 浦和地方裁判所(三)件名 印紙稅法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人森賢司辯護人 卜部喜太郎同宮崎一

印紙稅法第四條ニ汎ク通帳ニ付キ印紙稅ノ納付ヲ必要トスルコトヲ規定シ同法ニ
 ハ營業ニ關セサルモノニ付キ之ヲ免除スルコトノ除外例ヲ設ケス通帳トハ繼續若ク
 ハ連續スル財產權上ノ取引ヲ爲ス當事者ノ一方ヨリ相手方ニ對シ其取引關係ヲ證明
 スル爲メ作成スル帳簿類ナレトモ其取引カ商業又ハ營業タルコトヲ必要トセス論旨
 ニ引用スル明治十七年五月一日布告第一一號證券印稅規則第二條ニ營業ニ關スル請
 取書云々右證書ヲ通帳ト爲ストキハ云々一年以内一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 トアルハ所論ノ如シト雖モ同條ニハ別ニ金錢諸物品通帳一年以内一冊ニ付印紙稅一
 錢ナル旨ノ規定アリ原來通帳ハ請取ヲ證明スルヲ一ノ目的トスルモノナレトモ必
 シモ請取ノ證明ノミヲ目的トスルモノニ限ラス從テ印紙稅法第四條ニ單ニ通帳トア
 ル以上ハ其通帳ハ營業ニ關スル請取書ヲ通帳ト爲シタルモノノミヲ指稱スルモノニ
 アラサルコト論テ依タス原判決ノ判示ノ趣旨ニ依ルモ本件通帳ハ醫才業トスル被告
 賢司力製糸業大星工場主タル林清吉ニ交付シ大正二年三月十七日ヨリ同年十二月三
 十一日迄ノ間月日氏名及藥價等ヲ逐次記入シテ使用シタルモノニシテ通帳ニ患者ノ
 氏名藥價等ヲ逐次記載シ之ヲ證明スル用ニモ供シタルモノニ外ナラス從テ單純ナル
 請取書ト證明スルモノニアラサルコトモ亦明ナリ故ニ原審方之ヲ印紙稅法第四條ノ通
 帳ニ該當スルモノト認メタルハ正當ナリ(大審院大正三年(レ)第二八六一號同年十二月
 十七日刑二判決)

競賣法二五第一項 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
 民事訴訟法五四第四第一項 強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立又ハ異議ニ付テハ
 執行裁判所之ヲ裁判ス(後略)
 同五五八 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 競賣法ニ依ル不動産競賣事件ニ付キ同法ニ規定ナキ場合ニ於テハ民事訴訟法ノ強制
 強制競賣ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナルカ故ニ不動産競賣開始決定ニ對シ
 不服ノ點アルトキハ民事訴訟法五四四條ノ規定ニ依リ先ツ異議ノ申立ヲ爲シ
 其申立ニ關スル裁判アリタル後之ニ對シ同法第五五八條ニ從ヒ抗告ヲ爲スヘキ
 モノニシテ直チニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニアラス

競賣法ニ依ル不動産競賣事件ニ付キ同法ニ規定ナキ場合ニ於テハ民事訴訟法ノ強制
 競賣ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナルコトハ本院判例ノ認ムル所ナリ故ニ不動産
 競賣開始決定ニ對シ不服ノ點アルトキハ民事訴訟法五四四條ノ規定ニ依リ先ツ異
 議ノ申立ヲ爲シ其申立ニ關スル裁判アリタル後之ニ對シ同法第五五八條ニ從ヒ抗告
 ナ爲スヘキモノニシテ直チニ抗告ヲ爲スヘキモノニアラス然ルニ抗告人ハ大阪區裁
 判所ノ爲シタル競賣開始決定ニ對シ異議ノ方法ニ依ラス直チニ抗告ヲ爲シタルモノ
 ナレハ原裁判所カ其抗告ヲ不適法トシテ却下シタルハ正當ニシテ其却下決定ニ對ス
 ル本件抗告ハ其理由ナキモノト謂ハサルヲ得ス(大審院大正三年(ノ)第六五八號同年十
 二月二十一日民二決定)

【決定事項】

(一) 主文 抗告棄却(二) 原審 大阪地方裁判所(三) 事件名 不動産競賣手續開始決定ニ對スル抗告事件(四) 訴訟關係人 抗告人服部嘉一
 郎

【同趣旨並ニ參照學說判例】

本書第三卷民訴二頁
 本判決理由ノ詳細ニ付テハ本書第二卷諸法第五三頁ニ掲ケタル大審院判決ヲ參
 照セラレンコトヲ望ム

舊賣藥規則二三 第四條ノ免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ外國賣藥ヲ輸入販賣シ又ハ
 許可ヲ經スシテ無積ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ入シ 刑一方ニ付拾圓以上貳拾五
 圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ
 同一〇 免許期限內ト雖モ其製藥第三條ニ掲ケル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニシ又ハ
 粗惡ニシタル外國賣藥ヲ輸出販賣スル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
 賣藥法一一 賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ
 依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得
 賣藥規則第二二條ニ依ル鑑札取上ケハ免許取消ノ意義ニシテ有罪判決ノ確定ニ
 因リ當然其效力ヲ生スルモノトス

明治十年布告第七號賣藥規則第二二條ニ所謂鑑札ノ取上ケハ即チ免許ノ取消ノ處分
 ナ云フニ過キメシテ鑑札ヲ有形ニ取上ケタルト否トナ問ハス此處分ハ同法第一〇條ノ
 場合ニ於テハ行政官廳ノ自由裁量ニ委ネタルヲ以テ行政官廳ニ於テ之ヲ宣示スヘキ
 モノナリ之ニ反シ犯則アリタル場合ニ於テハ法律ノ規定ノ結果トシテ有罪判決確定

至當ノ見解ト信ス

ニ因リ當然免許取消ノ處分アリタルモノト認メサルヘカラス(法曹會決議法曹會記事
第二四卷第七號九二以下要領)

(一二七)

舊戸籍法一六七 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所
ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

舊戸籍法第一六七條ニ所謂身分登記ノ變更トハ戸籍ニ記載セラレタル戸主又ハ家族ノ
家族ノ身分登記ニ關スル誤謬ヲ更正スルノ謂ニシテ戸主又ハ家族其人ヲ戸籍ヨリ
リ除去シ別人ヲ以テ之ニ代フルカ如キハ之ニ屬セス

戸籍法第一六七條ニ所謂身分登記ノ變更トハ戸籍ニ記載セラレタル戸主又ハ家族ノ
身分登記ニ關スル誤謬ヲ更正スルノ謂ニシテ戸主又ハ家族其人ヲ戸籍ヨリ除去シ別
人ヲ以テ之ニ代フルカ如キハ之ニ屬セス本件ニ於テ戸籍簿上鈴鹿たつト入夫婚姻ヲ
爲シ鈴鹿家ニ入ルモノハ河野庄吉ニシテ抗告人鈴鹿淺吉ハ庄吉トハ別人ナルコト抗
告人主張ノ如クナル以上ハ抗告人ノ申請スルカ如ク鈴鹿家戸籍中河野庄吉入籍ノ記
載ヲ抗告人淺吉ノ入籍ニ變更スルバ庄吉其人ノ身分登記ニ關スル誤謬ヲ更正スルニ
非スシテ庄吉其人ヲ戸籍ヨリ除去シ之ニ代フルニ別人ヲ以テスルモノナレハ此ノ如
キ變更ハ身分登記ノ變更トシテ許スヘキ限リニ在ラス原裁判所カ如上ノ理由ヲ以テ
抗告ヲ棄却シタルハ正當ナリ(大審院大正三年(ク)第五七三號同年十二月二十二日民一
決定)

【決定事項】

(一)主文 抗告棄却(三)原審 千葉地方裁判所(三)件名戸籍變更許可申請事件(四)訴訟關係人 抗告人鈴鹿淺吉代理人辯護士藤合通賢

【參照學說】

身分登記ノ變更トハ錯誤脱漏又ハ其他ノ事由ニ因リ事實ニ適合セサル身分登記ノ存スル場合ニ之ヲ更正スル方法ヲ謂フ其手段
ハ登記簿ノ取消又ハ變更ナリ(雲田保吉氏戸籍法新論六三三頁)

(一二八)

新聞紙法二七 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事情報ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止
シ又ハ制限スルコトヲ得

同四〇 第二七條ニ依ル禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ
罰金ニ處ス

大正三年陸軍省令第一二號 新聞紙法第二七條ニ依リ當分ノ内陸軍大臣ノ許可ヲ得タルモノノ外軍機ノ進退其他軍
機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙ニ掲載スルヲ禁ス

陸軍大臣ノ許可ヲ得ズシテ軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙ニ掲載發行スルニ因
リ大正三年陸軍省令第一二號ノ違反トシテ新聞紙法第四〇條ヲ適用スルニハ其
事項カ必スシモ帝國軍事當局者ノ現實ニ規畫セル軍ノ機密方略ニ符合スルコト
ヲ要セス又必スシモ露骨ニ軍事當局者ノ確定的計畫トシテ公表スルコトヲ要セ
ス苟モ現在若クハ將來ニ於ケル帝國軍事當局者ノ軌ルヘキ方針若クハ行フヘキ
計畫ノ一端ヲ幾微ノ間ニ推測シ得ヘキ事項ナル以上ハ縱令軍事當局者ニ非サル
一個人ノ意見トシテ表示シタル場合ト雖モ前掲省令違反ヲ以テ論スヘキモノト

【判決事項】
 陸軍大臣ノ許可ヲ得スシテ軍機軍略ニ關スル事項ヲ新聞紙ニ掲載發行スルニ因リ大正三年陸軍省令第一二號ノ違反トシテ新聞紙法第四〇條ヲ適用スルニハ其事項カ必スシモ帝國軍事當局者ノ現實ニ規畫セル軍ノ機密方略ニ符合スルコトヲ要セス又必スシモ露骨ニ軍事當局者ノ確定的計畫トシテ公表スルコトヲ要セス苟モ現在若クハ將來ニ於ケル帝國軍事當局者ノ執ルヘキ方針若クハ行フヘキ計畫ノ一端ヲ窺ハシテ大ニ推測シ得ヘキ事項ナル以上ハ縱令軍事當局者ニ非サル一個人ノ意見トシテ表示シタル場合ト雖モ前掲省令違反ヲ以テ論スヘキハ當然ナリ蓋該省令ハ上叙ノ如キ事項ヲ新聞紙ニ掲載發行セシムルニ於テハ之ニ因リテ帝國ノ攻撃及ヒ防禦ニ關スル機密方略ヲ漏洩シ軍事上不測ノ危害ヲ生スル虞アルヲ以テ之ヲ取締ラントスル精神ニ外ナラサレハ前段見解ハ省令ノ解釋トシテ妥當ナリト謂フニ憚ラス而シテ原判決ノ認定ニ據レハ被告等カ編輯發行シタル福岡日日新聞紙上ノ記事ハ單純ニ帝國陸軍ノ一參謀官タル某カ個人トシテ表示シタル意見タルニ止ラス參謀官トシテ當路ニ適言シタル軍略上ノ意見トシテ記載シ而カモ其末段ニ於テ是レ一參謀官ノ建議ナレトモ日本軍或ハ此方略ヲ探ルヤモ未タ知ルヘカラスト附言セルニ徵スレハ右記事ハ敵國人其他ヲシテ帝國ノ青島攻略ノ計畫ヲ揣摩推斷セシムルノ資ト爲リ延テ敵國ヲシテ防備スル所ヲ知ラシメ帝國ノ軍事行動ヲ障礙スルノ虞ナシトセス省令ノ取締ラントスル趣旨方ニ此ニ存ス原判決ニ於テ斯ノ如キ記事ヲ編輯發行シタル被告人等ノ行爲ヲ以テ省令違反トシテ新聞紙法ニ依テ處斷シタルハ相當ナリ(大審院大正三年(れ)第二八八一號同年十二月廿二日刑一判決)

【判決事項】
 (一)主文 上告棄却(二)原審 福岡地方裁判所(三)罪名 新聞紙法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人平井伴外一名辯護人松田源治
 依々本文明平
 大正三年陸軍省令第一二號ハ我軍隊ノ進退其他軍機軍略ノ秘密ヲ確保スル爲メ汎ク之ニ關係アル事項ヲ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ新聞紙ニ掲載シタルトキト雖モ尙ホ我軍ノ軍略ヲ推測窺知スルノ資タル處ナキヲ必ス可カラスシテ大正三年陸軍省令第一二號ノ趣旨ニ違反スルモノト謂ハサルヲ得ス其當局者カ現實ニ定メタル軍略ニ合致スルヤ否ヤノ如キハ固ヨリ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ボサス

所論陸軍省令ハ我軍隊ノ進退其他軍機軍略ノ秘密ヲ確保スル爲メ汎ク之ニ關係アル事項ヲ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁止シタル趣意ナルヲ疑テ容レズ本件記事ノ如キ我軍ノ執ルヘキ作戰ノ方法ヲ說示シタルモノハ單純ニ一當局者ノ提議若クハ一人ノ意見ナリトシテ新聞紙ニ掲載シタルトキト雖モ尙ホ我軍ノ軍略ヲ推測窺知スルノ資タル處ナキヲ必ス可カラスシテ大正三年陸軍省令第一二號ノ趣旨ニ違反スルモノト謂ハサルヲ得ス其當局者カ現實ニ定メタル軍略ニ合致スルヤ否ヤノ如キハ固ヨリ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ボサス

他ノ新聞紙ニ掲載セルモノヲ轉載シタルニ過キサルヤ否ヤノ如キハ固ヨリ本件犯罪ノ成否ニ影響ナシ及ホササルコト自ラ明ナリ(大審院大正三年(レ)第二七九七號同年十二月二十二日刑一判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 熊本地方裁判所(三)件名 新聞紙法違犯被告事件(四)訴訟關係人 被告人橋本速男辯護人松田源治佐々木文平

一一九

織物消費税法ニ於テ課税ノ標準トスル織物ノ價格ハ製造地ニ於ケル一般取引上ノ相場ニ依リテ定マルモノトスルニシテ稅務官吏ノ査定シタル價格ニシテ此標準ト一致スルモノハ織物消費税納付済ノ織物ニ付キ一般取引上ノ相場ニ從ヒ協定セラルル賣買代價中ニハ織物消費税ヲ包含スルヲ以テ賣買代價中ヨリ之ヲ控除シタル金額ヲ以テ課税ノ標準タルヘキ價格ト認メサルヘカラス

織物消費税法ニ於テ課税ノ標準トスル織物ノ價格ハ製造地ニ於ケル一般取引上ノ相場ニ依リテ定マルモノニシテ稅務官吏ノ査定シタル價格ニシテ此標準ト一致スルモノハ其査定價格ヲ正確トスヘキ又現實ニ織物ヲ賣買シタルニ當リ其代價ニシテ此標準ト一致スル以上ハ賣買代價ハ即チ課税ノ標準タル價格ニ該當スルモノニ外ナラス但織物消費税納付済ノ織物ニ付キ一般取引上ノ相場ニ從ヒ協定セラルル賣買代價中

ニハ織物消費税ヲ包含スルヲ以テ賣買代價中ヨリ之ヲ控除シタル金額ヲ以テ課税ノ標準タルヘキ價格ト認メサルヘカラス故ニ織物ニ關シ單ニ現實ノ賣買代價ヲ確定シタルノミニテハ未タ以テ其代價因果シテ課税標準タルヘキ價格ト一致スルヤチ知ルニ由ラシ原判決ヲ査スルニ被告ハ織物仲買業者ニシテ雇人和田作二郎力奈良縣高市郡高取町織物製造業者井上萬藏外二名ヨリ未納税ノ儘之ヲ引取ルコトニ付キ其筋ノ承諾ヲ受ケ移入シタル綿織物盆天五百十反ヲ未納税ノ儘且移出承諾シ(中略)被告東區本町三丁目日比谷會社ニ總額五百十三圓四十五錢ニテ賣却シ(中略)被告店舖ヨリ之ヲ右會社ニ引渡シタルコトヲ認定シタルニ止マリ其代價因果シテ前示說明ノ如キ課税ノ標準タルヘキ價格ト一致スルヤ否ヤチ明確ニセスシテ直ニ之ヲ織物消費税法第一七條第五號第一一條第二條第二一條等ニ問據シタルハ理由不備ノ違法アルモノトス(大審院大正三年(レ)第三一二五號同四年一月二十八日刑二判決)

【判決事項】

(一)主文 破毀移送(二)原審 奈良地方裁判所(三)件名 織物消費税法違犯被告事件(四)訴訟關係人 被告人奥野治平辯護人牧野充安

一三〇

陸軍々人服役令施行規則第二項 待命休職停職ノ將校准士官兼備役將校准士官下士兵卒、歸休兵又ハ補充兵役ニ在ル者十四日以上本籍地外ニ旅行滞在若ハ寄留又ハ外國ニ旅行若ハ在留スルトキハ前條ニ準シ通報人ヲ定メ出發前ニ通報シ以テ其ノ行先ト共ニ本籍地警察ノ職權區司令官ニ届出ツヘシ
同六一 正當ノ事由ナク第一條、第二條第一項、第三條、第一〇條第一項第二項、第五〇條又ハ之ヲ準用シタル規定ニ違反シ又ハ自己ノ居所ヲ通報人ニ詳知セシメサル爲召集又ハ軍需ノ命令ヲ通報スルヲ得サルニ至ラシメタルキハ十日以上ノ拘留又ハ五圓以上ノ科料ニ處ス
刑事訴訟法一〇 公訴、私訴ノ時效ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

陸軍軍人服役令施行規則第二條第一項違反ノ罪ハ所轄聯隊區司令官ニ届出テス
シテ本籍地ヲ出發セル瞬間ニ完成スヘキ即時犯ニシテ繼續犯ニ非ス故ニ右違反
行爲ニ對スル公訴ノ時効ハ無届ノ儘本籍地ヲ出發シタル日ヨリ進行スヘキモノ
トス

明治四十四年十二月陸軍省令第一六號陸軍軍人服役令施行規則第二條第一項ニ同條
所定ノ軍人ニシテ十四日以上本籍地外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ出發前所轄聯隊
區司令官ニ届出ツヘキ旨規定シテ十四日以上本籍地外ニ旅行ヲ爲サントスル者
ハ出發ニ先タチ其届出ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタルモノナレハ同條違反ノ罪ハ所
轄聯隊區司令官ニ届出テスシテ本籍地ヲ出發セル瞬間ニ完成スヘキ即時犯ニシテ繼
續犯ニ非ス故ニ右違反行爲ニ對スル公訴ノ時効ハ無届ノ儘本籍地ヲ出發シタル日ヨ
リ進行スヘキモノナルニ依リ原裁判所カ本件公訴時効ノ期間六月ヲ被告カ無届ニテ
本籍地ヲ出發シタル大正二年四月十日ニハ既ニ其期間ヲ經過シタルモノナレハ本件
ハ刑事訴訟法第六條ニ依リ既ニ公訴權消滅セルモノナリトシテ被告ニ對シ免訴ノ旨
裁シテ爲シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニアラス(大審院大正三年(レ)第一九八五
號同年十二月二十一日刑二 決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 松山地方裁判所(三)罪名 陸軍軍人服役令施行規則違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人松浦德之助
至當ノ見解ナリ

(一三一)

明治三十三年法律第五二號第二條法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者
ヲ以テ被告人トスト規定シタルハ實體法上ノ被告人カ法人ナルトキハ訴訟法上
其代表者ヲ以テ被告人ト爲ス趣旨ニ外ナラスシテ刑ノ言渡ハ毎ニ實體法上ノ被
告人即チ法人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

明治三十三年法律第五二號一 法人ノ代表者又ハ其雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及業種專賣ニ關ス
ル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處
スヘキコトヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
同二 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

明治三十三年法律第五二號第二條ニ法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ
以テ被告人トスト規定シタルハ實體法上ノ被告人カ法人ナルトキハ訴訟法上其代表
者ヲ以テ被告人ト爲ス趣旨ニ外ナラスシテ刑ノ言渡ハ毎ニ實體法上ノ被告人即チ法
人ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノナルコト明白ナルヲ以テ原判決カ被告ヲ罰金四百圓ニ
處スト判示シタルハ畢竟スルニ被告會社ニ科刑シタルモノト解スルコトヲ得ヘシ本
論旨理由ナシ(大審院大正三年(レ)第三〇四〇號同四年一月二十二日刑一判決)

【判決事項】

(一)主文 上告棄却(二)原審 大津地方裁判所(三)罪名 肥料取締法違反被告事件(四)訴訟關係人 被告人合資會社能登川製油場代表
者日比彦太郎辯護人山口憲同松尾光三郎

【參照學說】

本書第二卷刑法一八七頁大場牧野博士論文

特許法六九

審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付テテ請求スルコトヲ

得

- 一 第四九條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効
 - 二 特許權ノ範圍ノ確認
- 審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限りテ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第三條第九條又ハ第一〇條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス
- 同五 發明力左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ之ヲ新規ナルモノト看做ス
- 一 發明力試驗ノ爲前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ヨリ二年以内ニ特許ヲ出願シタルトキ
 - 二 同一發明ニ關スル特許出願中若ハ實用新案登錄出願中又ハ其ノ特許權若ハ實用新案權ノ存續中其ノ發明力前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ

(一) 特許法第六九條第二項ニ所謂利害關係人トハ特許ノ發明ヲ實施スヘキ事業ヲ現ニ營メル者ノミニ限ラス之ヲ使用スヘシト推測シ得ヘキ關係ニ在ル者ヲモ包含スルモノトス

(二) 特許法第五條第一號ニ所謂發明力試驗ノ爲メ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトハ發明力之ヲ試驗スルニ方リ人ノ認識スル所トナリ之カ爲メ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルノ謂ニシテ發明者カ其研究的試驗ノ結果ヲ刊行物ニ登載シ之ニ依リ公然知ラルルニ至リタル場合ヲ包含セス

(一) 實用新案權者ハ其登錄ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作使用販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有スルカ故ニ糞尿ヲ原料トシテ硫酸アンモニアヲ製造スル装置ニ付實用新案權ヲ有スル被上告人カ其裝置ヲ使用スルコトアルヘシト推測スヘキハ當然ナリ何

【判決事項】

(一) 主文 上告棄却 (二) 原審 特許局 (三) 件名 特許無效請求事件 (四) 訴訟關係人 上告人小西租一外一名代理人辯護士宮島次郎被上告人町井正路

トナレハ實用新案權者カ其權利ヲ行フヘキハ通常ニシテ之ヲ行ハスシテ止ムハ異例ニ屬スレハナリ而シテ被上告人カ其裝置ヲ使用シテ硫酸アンモニアヲ製造スルニ當リテハ同シク糞尿ヲ原料トシテ硫酸アンモニアヲ製造スルノ方法タル本件特許ノ方法ヲ使用スルヲ利益トスルコトアルヘシ然ルニ上告人カ本件特許權ヲ有スルニ於テハ之ヲ使廉スルノ自由ヲ有セサルカ故ニ被上告人ハ此關係ニ於テ本件特許權ノ存否ニ付キ利害關係ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス特許法第六九條第二項ニ所謂利害關係人トハ特許ノ發明ヲ實施スヘキ事業ヲ現ニ營メル者ノミニ限ラス被上告人ノ如キ之ヲ使用スヘシト推測シ得ヘキ關係ニ在ル者ヲモ包含スルカ故ニ原審特許局カ被上告人ヲ以テ現ニ硫酸アンモニアノ製造業ニ從事セサルニ拘ラス同條ニ所謂利害關係人ニ該當スルモノト爲シタルハ同條ノ適用ヲ誤リタルモノニ非ス

(二) 特許法第五條第一號ニ所謂發明力試驗ノ爲メ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルハ發明力之ヲ試驗スルニ方リ人ノ認識スル所トナリ之カ爲メ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルノ謂ニシテ本件發明ノ如ク其研究的試驗ノ結果ヲ刊行物ニ登載シ之ニ依リ公然知ラルルニ至リタル場合ヲ包含セス故ニ原審特許局カ本件發明ヲ試驗ノ爲メ公然知ラルルニ至リタルモノニ該當セスト判定シタルハ正當ノ見解ナリ

(大審院大正二年(オ)第六七一號同三年十月十日民一判決)

非訟事件手續法一八 裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生ス
裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲ス
告知ノ方法、場所及ヒ年月日ハ之ヲ裁判ノ原本ニ記入スヘシ
同二五 抗告ニハ前五條ニ定メタルモノヲ除ク外民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用ス
民事訴訟法二四五第一項 口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス

非訟事件手續法第一八條第一、二項ニ依レハ裁判ハ之ヲ受クル者ニ告知スルニ因リテ其效力ヲ生シ裁判ノ告知ハ裁判所ノ相當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ爲スモノナレハ抗告裁判所カ口頭審理ヲ經テ抗告ノ裁判ヲ爲ス場合ニ於テモ同第二五條ニ依リ民事訴訟法ノ抗告ニ關スル規定ヲ準用シ必スシモ言渡ヲ爲スコトヲ要スルモノニアラス
シテ裁判所カ裁判ヲ告知スルニ送達ニ依ルチ相當ト認ムルニ於テハ其裁判ヲ受クル者ニ之ヲ送達シテ告知スルチ以テ足レリトス然レハ原裁判所カ本件ニ付キ裁判ノ言渡ヲ爲サズシテ之ヲ抗告人等ニ送達シタルハ相當ナリ(大審院大正三年(ク)第五四四號同年十一月十六日民二決定)

【決定事項】
(一)主文 抗告棄却(二)原審 浦和地裁裁判所(三)件名 親族會員選定及親族會招集決定ニ對スル抗告事件(四)訴訟關係人 抗告人町田銀三郎外一名代理人辯護士加藤勇次同三浦純治

(一三四)

明治四二年法律第四〇號建物保護ニ關スル法律ハ同法施行前既ニ地上權又ハ賃借權ノ登記ノ欠缺ヲ主張シ得ル第三者ノ地位ニ立チタル者ニハ之ヲ適用スヘキモノニアラス

本件地上ノ建物ノ登記ヲ爲セルハ明治三十七年中該建物ヲ買受ケタル當時ナルコトハ被告ノ抗辯自體ニ徴シ明カニシテ訴外原増五郎カ本件地所ヲ買受ケタルハ明治四十一年十一月ナルコト同證人ノ供述ニヨリ認メ得ヘキヲ以テ縱令被告ニ於テ其建物ニ付キ登記ヲ經ルモ同人ノ訴外朝倉德三郎ヨリ讓受ケタル本件土地ノ賃借權ヲ以テ原増五郎ニ對抗シ得サルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ明治四十二年法律第四十號建物保護ニ關スル法律ハ同法施行前既ニ地上權又ハ賃借權ノ登記ノ欠缺ヲ主張シ得ル第三者ノ地位ニ立チタル者ニハ之レヲ適用スヘキ限リニアラサレハナリ(東京地方大正三年(ワ)二一號同年八月二十八日名川裁判長細野五明各判事判決)

【判決事項】

(一)件名 地所明渡請求事件(二)訴訟關係人 原告藤井得三郎訴訟代理人辯護士木内傳之助同豊原清作被告堀田七兵衛訴訟代理人辯護士磯部尙

【參照判例】

明治四二年法律第四〇號建物保護ニ關スル法律ノ施行以前土地ヲ買得シテ第三者ノ地位ニ立チタル者ハ同法ノ適用ヲ受クヘキ

モノニ非ス(大審院民事判決録四二年七四一頁)

(一三五)

土地收用法八二第一項 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地收用法ニ所謂收用審査會ノ裁決ニ付キ不服アル者カ通常裁判所ニ出訴シテ其救濟ヲ求ムルコトヲ得ルカ爲メニハ先ツ收用審査會ニ於テ損失ノ補償ニ付一定ノ金額ノ決定
然ノコトニ屬ス本件ニ於テ右原告主張ノ所謂附隨シテ生スル損害ニ付テハ東京府收
用審査會カ損失ノ補償金額ヲ決定セザリシコトハ成立ニ争ヒナキ甲第一號裁決書
ニ徴シ洵トニ明瞭ナルノミナラス當事者雙方ノ陳述自體ニ依リテ争ナキトコロナリ
トス然ラハ原告ハ右所謂附隨シテ生スル損失ノ有無ニ拘ハラス其補償ニ付キ同法第
八十一條ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ格別本訴ニ於テ之レカ請求ヲナスハ
失當ナリト認ム(東京地方大正三年(ワ)第二九號同年十月二日民三部河邊裁判長細野
霜山各判事判決)

土地收用法ニ所謂收用審査會ノ裁決ニ付キ不服アル者カ通常裁判所ニ出訴シテ其救濟ヲ求ムルコトヲ得ルカ爲メニハ先ツ收用審査會ニ於テ損失ノ補償ニ付一定ノ金額ノ決定
然ノコトニ屬ス本件ニ於テ右原告主張ノ所謂附隨シテ生スル損害ニ付テハ東京府收
用審査會カ損失ノ補償金額ヲ決定セザリシコトハ成立ニ争ヒナキ甲第一號裁決書
ニ徴シ洵トニ明瞭ナルノミナラス當事者雙方ノ陳述自體ニ依リテ争ナキトコロナリ
トス然ラハ原告ハ右所謂附隨シテ生スル損失ノ有無ニ拘ハラス其補償ニ付キ同法第
八十一條ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルハ格別本訴ニ於テ之レカ請求ヲナスハ
失當ナリト認ム(東京地方大正三年(ワ)第二九號同年十月二日民三部河邊裁判長細野
霜山各判事判決)

【判決事項】

(一) 件名 地上建物並ニ借地權收用損失補償額確認並ニ支拂請求事件(二) 訴訟關係人 原告 荒井榮太郎 訴訟代理人 辯護士 小野富雄

【參照判例】

本書第三卷諸法一一六頁

(一三六)

被告代表者鐵道院總裁飯石貢指定代表者中原東吉同有木虎雄

審判法一六七 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所
ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

同六八 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス
一 子ノ名及ヒ男女ノ別

身分登記ノ變更ヲ認メタル趣旨ハ登記力其登記ヲ爲ス當時ノ事實ト相違セル場
合ニ其登記ヲ事實ト符合セシムルカ爲メニシテ其事實タルヤ固ヨリ自然的事實
(例ヘハ出生日時)ナルト人爲的事實例ヘハ命名ナルトヲ問ハス又其登記ノ誤謬カ
届出人ノ過失ニ基クト登記官吏ノ過失ニ基クト將及其他ノ原因ニ基クトヲ問ハ
ス苟クモ登記ニ誤謬アリタル場合ニ於テハ之カ變更ノ申請ヲ許可スヘキモノト
ス

出生届出ナルモノハ名ヲ創設的ニ確定セシムルノ效力ヲ有スルモノニアラス
身分登記ノ變更ノ申請ヲ許シタル趣旨ハ登記力其登記ヲ爲ス當時ノ事實ト相異セル
場合ニ其登記ヲ變更シテ事實ト符合セシムルカ爲メニ外ナラスシテ其事實タルヤ固
ヨリ自然的事實(例ヘハ出生日時)ナルト人爲的事實(例ヘハ命名)ナルトヲ問フコトナク
又其登記ノ誤謬カ届出人ノ過失ニ基ク場合ナルト或ハ登記官吏ノ過失ニ基ク場合ナ

凡下將又其他ノ原因ニ基ツク場合ナルトハ問ハサルナリ苟クモ登記ニ誤謬アリタル
 場合ナルニ於テハ之カ變更ノ申請ヲ許可セサル可ラサルモノト爲ササル可ラヌ而シ
 テ本件ニ於テハ抗告人カ明治四十年五月十二日其妻ていノ分曉シタル四男ニ當時眞
 道ト命名シタルコトハ中西英輔及飯田きくノ各證明書并ニ産毛ノ包紙ノ記載ニ徴シ
 之ヲ認ム可ク而シテ身分登記簿ニ其名眞進ト記載シアルコトハ其謄本ニ徴シテ之ヲ
 認ムル十分ナリ故ニ抗告人ヨリ命セラレタル名ト身分登記簿ニ記載セラレタル名ト
 ハ互ニ相齟齬シ登記ニ誤謬アルコト明白ニシテ而モ其技ニ至リタルハ全ク右出生ノ
 届出ヲ爲スニ當リ抗告人が當時僅カ十二歳ナリシ長男金造ヲシテ事ニ當ラシメタル
 爲メ同人ノ不注意ニヨリ誤記セララルニ至リシカ爲メナルコトハ抗告人ノ原番ニ提
 出セル本件ノ申請書並ニ古川金造ノ證明書ニ依リ之ヲ認ムルニ難カラス然レハ本件
 申請ハ説明ノ理由ニヨリ固ヨリ之ヲ許可ス可キモノト謂ハサル可カラス尤モ名モ古
 出ニ因リ初メテ確定スルモノニシテ届出前ニ在リテハ嚴正ナル意味ニ於テ名ナルモ
 ノナシトノ説ヲ爲スモノアルカ如シ此説ニ依ルトキハ或ハ本件ノ場合ノ如キ登記變
 更ノ問題ヲ生スルノ餘地ヲ存セサルニ似タルモ届出タルヤ畢竟名ナル事實ヲ身分登
 記簿上ニ明確ニセンカ爲メニ之ガ記載ヲ爲ス可キコトヲ戸籍吏ニ對シ求ムル意思表
 示ニ過キサルモノト解ス可ク届出ナルモノカ其名ヲ創設的ニ確定ス可キ効力ヲ有ス
 ルモノトハ解シ難シ以上説述ノ次第ニシテ本件申請ニ結局理由アルニ依リ之レヲ許
 可スヘキモノナルニ不係之ヲ理由ナシトシテ却下シタル原決定ハ失當ナルヲ以テ之
 ヲ廢棄ス可キモノトシ主文ノ如キ決定ヲ爲シタリ(東京地方大正三年(リ)第三二九號同
 年十二月二十八日民一部鈴木裁判長松野連山各判事決定)

【決定事項】

(一) 一件名 身分登記變更許可申請事件 (二) 訴訟關係人 抗告人古川當吉代理人辯護士眞下五郎
 至當ノ決定ナリト信ス

(一三七)

競賣法三一 競賣期日ニ相當ノ競賣申込ナキトキハ裁判所ハ更ニ期日ヲ定メテ競賣ヲ爲ス(後略)
 裁判所ハ債權者及ヒ債務者ノ合意ノ有無ヲ問ハズ競賣期日ヲ變更スルコトヲ得
 ルモノトス

競賣期日ノ指名ハ裁判所ノ職權ニ屬スルカ如ク競賣期日ノ變更モ亦裁判所ノ職權ニ
 屬シ裁判所ハ債權者及ヒ債務者ノ合意ノ有無ヲ問ハズ競賣期日ヲ變更スルコトヲ得
 ルヤ勿論ナリトス左レハ裁判所ハ一旦期日ヲ指定シタル後ニ至リ之ヲ不適當ト認メ
 タル時ハ其期日ヲ變更シテ更ニ適當ナル期日ヲ指定スルハ裁判所ノ自由タルヘシ而
 シテ本件ニ於テハ競賣裁判所ハ大正三年十二月二日競賣期日ヲ同年同月十八日午前
 十時ト指定シタルモ同年四月右期日ヲ同年同月二十一日午前十時ト變更シ其旨ヲ公
 告並ニ通知シタルモノナレハ本件競賣期日ハ前記二十一日午前十時ニシテ毫モ不明
 ノ點ナシ(東京地方裁判所大正四年(リ)第七號同年一月二十二日民三部神谷裁判長淺野
 三宅各判事決定)

【決定事項】

(一) 一件名 不動産競落許可決定ニ對スル抗告事件 (二) 訴訟關係人 抗告人山口仲藏訴訟代理人辯護士村上熊八

至當ノ見解ナリ

(一三八)

大審院判

土地收用法第六〇條ノ規定ハ第一項ニ依リ起業者カ爲スヘキ補償金拂渡ノ債務ハ第二項ニ依リ爲シタル供託ニ因リ其供託金額ノ限度ニ於テ之ヲ免レシムルノ法意ニ出テタルモノトス

土地收用法第六〇條第二項第二號ニ所謂過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキトハ意ニ專實上補償金ヲ受クヘキ者ヲ確定スルコト能ハサル場合ノミナラス法律上補償金ヲ受クヘキ者何人ナルヤ容易ニ確知シ難キ場合ヲモ包含ス從テ同一ノ補償金債權ニ付キ二箇ノ競合シタル轉付命令アリテ其轉付ヲ受ケタル二人中何レカ法律上正當ニ補償金ヲ受クヘキ者ナルヤ趣ク解決シ難キ場合ハ第二號ノ規定ニ該當ス

土地收用法ニ依リ土地物件ヲ收用スルトキハ起業者ハ第六〇條第一項ニ依リ收用ノ時期迄補償金ヲ拂渡スヘク同號第二項ノ各號ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得ヘク其收用ニ係ル土地物件ニ付テハ起業者ハ第六一條ニ依リ收用ノ時期迄ニ之カ引渡ヲ受ケ第六三條第一項ニ依リ收用ノ時期ニ於テ所有權ヲ取得スヘク收用審査會ノ裁決ニ不服ナル者ヨリ訴願又ハ訴訟ノ提起アリタルトキト雖モ第八三

條ニ依リ事業ノ通行及ヒ土地ノ收用ヲ妨ケララルコトナシ然リ而シテ起業者カ收用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決其効力ヲ失ヒ從テ收用ノ時期損失補償金額定マラサルニ至ルヲ以テ收用ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノトス是ニ由テ之ヲ觀レハ同法第六〇條ニ規定スル補償金ノ拂渡ト其供託トハ收用ニ必要ナル事項トシテ起業者ノ爲メニ同一ノ效用ヲ爲シ其供託ハ當サニ拂渡ニ代ハルヘキモノナルコト明白ナレハ同條ノ規定ハ第一項ニ依リ起業者カ爲スヘキ補償金拂渡ノ債務ハ第二項ニ依リ爲シタル供託ニ因リ其供託金額ノ限度ニ於テ之ヲ免カレシムルノ法意ニ出テタルモノト解セサルヲ得ス而シテ同條第二項ノ第一號及ヒ第二號ハ民法第四九四條ト其規定ヲ同フスルカ如キモ土地收用法ハ行政法規ニ屬シ固ヨリ民法ニ附屬スル法規ニ非サルヲ以テ之ニ民法ト相等シキ規定存スルモ敢テ怪ムニ足ラス又其第二號ニ所謂過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキトハ意ニ專實上補償金ヲ受クヘキ者ヲ確定スルコト能ハサル場合ノミナラス法律上補償金ヲ受クヘキ者何人ナルヤ容易ニ確知シ難キ場合ヲモ包含スル趣旨ナリト解ス可ク從テ本件事實ノ如ク同一ノ補償金債權ニ付キ二箇ノ競合シタル轉付命令アリテ其轉付ヲ受ケタル二人中何レカ法律上正當ニ補償金ヲ受クヘキ者ナルヤ輕ク解決シ難キ場合ハ第二號ノ規定ニ該當スルモノト謂フ可シ此點ニ關シ上告人ハ民法第四九四條ヲ引用シテ原判決ヲ論難スルモ原判示ハ前示收用法ノ規定ニ基キテ業者ハ請求ニ因リ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘキ旨ヲ定メタルモ同號ハ起業者カ拂渡スヘキ補償金額ニ付キ不服ヲ主張シ單ニ自己ノ意志ノミニ基キ供託ヲ爲シ得ル場合

ナルヲ以テ特ニ補償金ヲ受クヘキ者ヲ保護スルノ必要アルカ爲メニ但書ノ規定ヲ設ケタルモノニシテ之ニ依リテモ却テ同號ノ場合ニ限リ見積金拂渡ノ債務ハ之ヲ免カレシメサルモ補償金拂渡ノ債務ハ同號ノ場合ニ於テモ又爾餘各號ノ場合ニ於テハ勿論供託ニ因リ之ヲ免レシムルノ法意ナルコトヲ知ルニ足ル可シ又其第四號ハ補償金拂渡ノ差押アリタル場合ニ供託ヲ許シ其差押ハ第三債務者タル起業者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スルモノナリト雖モ起業者カ補償金ヲ供託シタルトキハ其補償金ハ供託所ニ於テ之ヲ保管シ供託法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ受取ルヘキ者ニ還付スヘキモノニシテ必スシモ債務者ニ支拂ハルヘキモノニ非サルヲ以テ此場合ニ於テモ供託ニ因リ拂渡ノ債務ヲ免カレシムルノ法意ナルコトヲ否定ス可カラズ故ニ原判決ハ違法アルモノニ非ス(大審院大正三年(才)第二一九號同年十二月二十二日民一判決)

【判決事項】

(一) 主文 上告棄却(二) 原審 大阪控訴院(三) 件名 轉付債權金請求事件(四) 訴訟關係人 上告人宇治庄兵衛外一名訴訟代理人辯護士高野金重同鶴田恣被上告人阪神電氣鐵道株式會社訴訟代理人辯護士依内作平

司法省訓令回答要旨
 行政裁判所判決要旨

(自大正三年三月中旬
 至大正四年三月初旬)

附 錄

司法省訓令回答索引

○登錄稅法……………三四

○登錄法……………二五六七八

○改正戶籍法……………六

○改正戶籍法施行細則……………七

○改正戶籍法及同施行細則……………一

○開港港則……………一五

○刑事訴訟法……………一三四

○不動產登記法……………一三六

○戶籍法……………四

○公證人法……………六

○電氣事業法……………三

○行政裁判法……………一

○競賣法……………四

○供託法……………二

○民法……………五七

○民事訴訟法……………五七

司法省訓令回答索引

◎商法.....二五

◎執達吏手數料規則.....五

司法省訓令回答要旨

●競賣法ニ依ル競賣事件ノ登記囑託ニ關スル件

競落ニ因リテ消滅シタル不動産上ノ權利ノ登記及競賣法第二六條ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ノ抹消手續ニ關シテハ民事訴訟法第七〇條第一項第二號第三號及第二項ノ趣旨ニ準シ職權ヲ以テ登記ノ抹消ヲ囑託スルヲ相當トス

競落人カ取得シタル權利ノ移轉ノ登記ト同時ニ前項ニ掲クル登記ノ抹消ヲ囑託スル場合ハ之ヲ一事件ト看做スヘキニ付右ノ登記ニ付各別ニ囑託書ヲ作ルコトヲ要セスト雖モ登録稅ノ徵收ニ關シテハ一事件ト看做スヘカラサルヲ以テ各別ニ登録稅ヲ徵收スヘキモノトス

(大正三年三月十一日民第三五一號法務局長回答)

●刑ノ執行起算日ノ算定方ニ關スル件

上告事件ニテ拘留中本年一月六日保釋出監シ同月十七日上告取下タルヲ以テ同日第二審判決確定シ同月二十七日該記録接受セリ然ルニ同人ニ對シテハ別罪發覺シタル爲メ更ニ一審處ニ於テ同月八日ヨリ拘留シテ(二審中拘留セラレタル監獄ト同一監獄ナリ)同月二十七日ニ及ヘリ右一月十七日ニ確定セル判決ヲ同月二十七日ニ執行指揮ヲ爲サントスルトキハ被告ハ他ノ犯罪ニ付テハ拘留中ナルモ本罪ノ未決拘留ハ一月六日ニ保釋出監シタルモノナレハ不拘留者トシテ刑執行指揮ノ日タル一月二十七日ヲ刑執行起算日ト爲スヲ相當トス

司法省訓令回答要旨

(大正三年二月十七日刑甲第四六號法務局長回答)

●開港港則ノ刑罰責任者ニ關スル件

開港港則第一八條ノ刑罰責任者ハ實際ノ行爲者タル船員ナリトス

(大正三年三月十一日刑乙第八五六號法務局長回答)

●戶籍ニ出生死亡ノ時刻ノ記載方ニ關スル件

正子ノ刻ハ民法第一四〇條但書ノ例ニ從ヒ午前零時ト記載セシムルヲ相當トシ正午ノ刻ハ午前十二時ト記載スルモ午後零時ト記載スルモ可ナリト雖モ戶籍ノ記載例ナ一定スルカ爲メニハ午後零時ト記載セシムルヲ相當トス又死亡診斷書ニ午後十二時若ハ午前十二時トシタルヲ屆書ニ午前零時若ハ午後零時ト記載セシムルハ差支ナク且戶籍ノ記載ハ必ス右ノ趣旨ニ從フヘク屆書ノ記載カ右ノ例ニ反スルモ訂正セシムルノ必要ナキモノトス(大正三年四月八日民第五八六號法務局長回答)

●國有土地森林原野下戻法ニ依ル土地ノ登記ニ關スル件

國有土地森林原野下戻法ニ依リ提起セシ行政訴訟事件ニ付一定ノ土地ヲ下戻スヘキ旨判決アリタル場合ニ於テハ勝訴者ハ下戻判決ニ依リテ直ニ所有權ヲ取得スルモノナルヲ以テ該判決ヲ以テ不動産登記法第一〇五條第二號ニ依リ所有權保存ノ登記ノ申請アリタルトキハ

登記官吏ハ其申請ヲ受理スルコトヲ得ヘク又此場合ノ登録税ハ同法第二條第五號ニ該當ス(大正三年五月十三日民第七一二號法務局長通牒)

●會社ノ合併又ハ資本ノ減少ノ登記ニ關スル添附書面ノ件

會社カ商法第七八條第二項又ハ第七九條第二項ノ手續ヲ踐マスシテ合併又ハ資本ノ減少ヲ爲シタル場合ニ於テハ其合併又ハ資本ノ減少ハ之ヲ以テ債權者ニ對シテ第七九條第二項ノ手續ヲ爲ササル場合ニ於テハ異議アル債權者ニ對シテスルコトヲ得サルハ勿論ナレトモ其合併又ハ資本ノ減少ハ仍有效ニ成立スルヲ以テ此等ノ手續ヲ爲サス又ハ其手續ニ欠缺アル場合ト雖モ合併ニ因リテ設立消滅又ハ變更シタル會社ニ付テハ設立解散又ハ變更ノ登記ヲ爲シ資本ノ減少ヲ爲シタル會社ニ付テハ資本減少ノ登記ヲ爲スコトヲ必要トスルヲ以テ前示ノ手續ヲ爲ササリシ場合ニハ其旨ヲ明カニセシメ若シ其手續ヲ爲シタルトキハ手續ニ欠缺アル場合ニ於テモ其手續ヲ證スル書面ヲ添附セシメタル上登記ヲ爲スヘク手續ヲ爲サス又ハ其手續ニ欠缺アルコトヲ理由トシ登記ノ申請ヲ却下スヘキモノニ非ス(大正三年五月十五日民第八六五號法務局長通牒)

●他家ニ在ル實子ヲ養子ト爲ス養子縁組ニ關スル件

他家ニ在ル實子ヲ養子ト爲スコトヲ得(大正三年四月二十三日民第一五七號法務局長回答)

●改正戸籍法ノ疑議ニ關スル件

合ニハ確定判決ノ廢本ヲ添付スヘキモノトス
第三九條第二項ノ監督區裁判所ノ許可ハ非訟事件手續法ニ依リ裁判ヲ以テスル許可ニ非スシテ行政監督上ノ許可ナリトス故ニ同項ニ依リ許可ノ申請書ニハ印紙ヲ貼用スヘキモノニ非ス
改正戸籍法第六七條第四項ノ閱覽請求ニ對シテハ民事訴訟用印紙法第一六條ニ依リ印紙ヲ貼用セシムヘキモノニ非ス
改正戸籍法第九三條第二項第四號同九五條第五號同第九八條同第一〇二條同第一〇四條第五號同第一〇五條ニ依リ實家再興ノ旨及再興ノ場所ヲ記載シタルトキト雖モ同第一四六條ノ届出ヲ要スルモノニ非ス(大正三年五月十九日民第七九三號法務局長回答)

●砂防工事ニ要スル土地所有權轉移登記ノ登録税ニ關スル件

砂防工事施行ニ要スル土地所有權轉移ノ登記ハ登録法第一九條第二號ニ依リ登録税ヲ要セサルモノトス(大正三年五月二十二日民第八〇六號法務局長回答)

●會社變更登記ノ登録税ニ關スル件

會社登記ノ變更ノ事由カ數次ニ發生シタル場合ニ於テモ之ヲ取極メ同一申請書ヲ以テ申請シタルトキハ一事件トシテ取扱ヒ一件分ノ登録税ヲ徵收スヘキモノトス(明治三十三年民刑第一一〇八號回答ハ右ノ趣旨ニ依リ變更)
右ノ場合ニ於テモ變更登記中税率ヲ異ニスルモノアルトキハ各其税率ニ依リ各別ニ徵收スヘキモノトス(大正三年五月廿三日民第九二五號法務局長通牒)

單身戸主ノ死亡ニ因ル絶家ノ場合ニ於テハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ職權ヲ以テ絶家ノ手續ヲ爲スヘキモノトス(第三九條第二項第六四條第三項參照)

●胎兒認知アリシモノノ出生シ庶子出生届アリシ場合ニ胎兒認知アリシ旨ハ戸籍ニ記載スルニ及ハス

胎兒認知届ハ庶子出生届出後ト雖モ第三七條ニ依リ監督區裁判所ニ送付スヘキモノニ非ス
本籍人ニ關スル届書ハ現ニ戸籍カ編綴シアル順序ニ從ヒテ編綴シ非本籍人ニ關スル届書ハ事件ノ種類ニ從ヒテ之ヲ編綴スヘシ
市町村長カ届書ノ欠缺ニ付追完ヲ爲サシムル場合ハ該市町村長ニ於テ直接ニ届出ヲ受理シタルトキニ限ラス他ノ市町村長ヨリ届書ヲ送付テ受ケタル場合ニ於テモ第六五條ヲ適用スヘキモノトス而シテ市町村長カ欠缺アル届書ヲ受理シタルトキハ先ツ之ニ基キ欠缺ノ儘爲シ得ル戸籍ノ記載ヲ完了シ置キ其他ノ記載ハ追完アリタルトキ之ヲ爲スヘク若シ追完ノ催告ヲ爲スモ届出義務者カ遂ニ追完ヲ爲ササル場合ニ於テハ第六四條第三項ニ依リ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ其職權ヲ以テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキモノトス
後見人又ハ保佐人ノ死亡ニ因リ任務終了セシ場合ハ更迭届ノミニテ足り任務終了届ヲ要セス
民法第九七九條第一項後段ノ事由ニ因リ指定カ其效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ第一三四條ノ届出ヲ爲スヘキモノニ非ラスシテ指定者ノ戸籍ニ其子ノ出生届又ハ養子縁組届等ニ基キ第一八條第一四號ニ依リ指定失効ノ事由ヲ記載シ置クヘキモノトス

改正戸籍法第一六七條第二項ニ依リ檢事カ戸籍ノ改正ヲ請求スル場

●支那ニ於テ設立セラレタル本邦會社ノ内地支店設立ノ登記ニ關スル件

支那在留ノ本邦人カ我商法ノ規定ニ從ヒ同國ニ於テ會社ヲ設立シ其登記ヲ爲シタル場合ハ勿論我商法及條約ノ規定ニ從ヒ日支人合併ノ日本會社ヲ設立シ在支那帝國領事館カ之本邦會社ト認メ右會社ノ設立登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ會社カ本邦内地ニ支店ヲ設ケタルトキハ商法ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地タル支那ニ於テハ勿論支店ノ所在地タル本邦内地ニ於テモ其ノ登記ヲ爲スヘキモノニ付此場合ニ於テ非訟事件手續法第一五〇條ノ三ノ規定ニ依リ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附シ支店所在地ノ登記所ニ登記ノ申請ヲ爲シタルトキハ登記所ハ其ノ申請ヲ受理シ支店設立ノ登記ヲ爲スヘキモノトス(大正三年五月二十九日民第八二二號司法次官通牒)

●行政裁判所ノ判決ノ執行ニ關スル件

行政裁判所ノ判決ハ執行文ノ付與ナクシテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(大正三年七月十四日民第一一八五號法務局長通牒)

●不動産登記法第三一條第一項ノ登記ノ囑託ニ關スル件

不動産登記法第三一條第一項ニ依ル囑託ノ場合ニ於テモ同條ニ掲ケタル以外ノ書面ニ付テハ第三五條ヲ適用シ囑託書ニ之ヲ添付スルコトヲ要ス(大正三年七月十八日民第一一四七號法務局長通牒)

●戦死者ノ死亡届取扱方ニ關スル件

陸軍軍人軍屬ノ戦死者ニ付キ實際醫師ノ診断書、検案書ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ死亡通報ニ病院ニ於テ死亡シタル旨若クハ死體ヲ発見シタル旨ノ記載アルカ又ハ死體ナキ者ニ付テハ特ニ陸軍相當官衙ヨリ死亡ノ通報ヲ受ケタルキニ限リ診断書若クハ検案書ノ添附ナキ死亡届ヲ受理スルモ差支ナシ(大正三年九月五日民第一三四六號司法次官回答)

●公證事務ニ關スル件

甲乙間ノ買賣ヲ丙者カ目撃シタリト丙者ノ陳述ハ私權ニ關スル事實トシテ公正證書ヲ作成スルヲ得ス
子ノ出生ノ如キ事實ニ付公正證書ヲ作成スルハ格別夫妻親子ノ親族關係親族會員權總代理等ノ資格アリト如キ届出又ハ委任等ニ依リ得ヘキ資格ニ付テハ公正證書ヲ作成スルコトヲ得ス(大正三年九月二六日民第一二〇一號法務局長回答)

●更正登記ニ關スル件

登記ノ錯誤カ申請又ハ囑託書ノ誤記ニ基キタルコト明白ニシテ且更正登記ノ爲メ登記名義人ノ權利ニ影響ヲ及ボスノ疑ナキ場合ニ於テハ登記名義人ノミヨリ其更正登記ヲ申請スルコトヲ得(大正三年九月二五日民第一四四四號法務局長回答)

●不動産登記法第三一條第一項ノ囑託登記ニ關スル件

不動産登記法第三一條第一項ノ規定ハ登記申請ノ原則タル第二六條ノ規定ニ對シ囑託ニ關シテ特別ノ定メ爲シタルモノナレハ此點ニ於テ第二五條第二項ニ所謂別段ノ規定ナリト解スヘシト雖モ之ヲ以テ

原因消滅シタルモノナルヲ以テ裁判所ハ供託法第八條第二項ニ依リ供託ノ原因消滅シタルコトヲ理由トシテ供託金ヲ取戻シタル上更に歳入(編入)手續ヲ爲スヘキモノトス(大正三年十月十日法第一三〇二號法務局長回答)

●刑事訴訟費用ノ執行費用ニ關スル件

検事局ノ命令ニ依リ公訴ニ關スル訴訟費用ノ裁判ノ執行ヲ爲シタル執達吏ハ賈得金ヨリ先ツ検事局ノ命令ニ係ル徴收金額ヲ控除シ其ノ殘額ヨリ徴收シタル執行費用ハ歳入ニ編入セシ執達吏シテ直ニ自收セシムヘキモノトス

右賈得金ヨリ検事局ノ命令ニ係ル徴收金額ヲ控除シタル殘額ニシテ執行費用ヲ完済スルニ足ラサルトキ又ハ全ク殘額ノ存セザルトキハ執達吏手数料規則第二二條第二項ニ依リ不足シタル立替金ヲ國庫ヨリ支辨スヘク手数料ニ付テハ國庫ヨリ支辨スル限リニアラス(大正三年九月三十日會計課長回答)

●司法事務共助及刑事訴訟法ニ於ケル令狀發付ノ囑託ニ關スル件

内地ノ裁判所ト樺太、朝鮮、臺灣、關東州又ハ帝國ノ領事裁判權ヲ有スル官廳トノ間ニ於テ相互ニ被告人ニ對シ拘引狀ヲ發スルコトノ囑託ヲ受ケタルトキハ其囑託ニ應ジ令狀ヲ執行シタル被告人ヲ囑託官廳ニ引致セシムルヲ相當トス(大正三年十一月九日刑甲第三三八號法務局長回答)

●公正證書ノ執行文付與ニ關スル件

分割辨濟金錢消費貸借公正證書ノ契約條項中ニ元金ハ毎年十二月末

司法省訓令答要旨

直チニ添附書面ニ付テモ第三五條ノ除外例ヲ定メタルモノト解スルハ相當ニアラス尤モ同項ニ依リハ囑託書ニ添附スルコトヲ要スル書面トシテ登記義務者ノ承諾書ノ外登記原因ヲ證スル書面ヲ掲ケルヲ以テ文理上一應第三五條ニ對シテモ亦第二五條第二項ニ所謂別段ノ規定ナルカ如ク解セラレサルニ非サルモ此解釋ヲ探ルトキハ例ヘハ第三號登記簿ノ如キ登記ノ確實ナ期スル爲メ最モ必要ナル書面ヲ添附スルヲ要セザルコトナリ登記義務者カ實際權利ヲ有スルモノナルヤ否ヲ調査スルニ由ナキヲ以テ勢ヒ不確實ナル登記ヲ爲スヲ免レザルヘク此ノ如キハ登記法カ登記ノ確實ナ期セシカ爲メ嚴格ナル規定ヲ設ケタル趣旨ニ反スルモノトス

●滞納處分ノ爲メ差押タル土地ノ買上登記ニ關スル件

滞納處分ノ爲メ差押ヘタル土地ノ買上登記ハ不動産登記法第二九條ニ依ルヘキモノトス(大正三年九月二十六日民第一四七九號法務局長通牒)

●金庫ニ供託シタル不動産強制競賣手数料ノ處理方法ニ關スル件

不動産強制競賣事件ニ付キ執達吏ヘ交付スヘキ手数料ヲ供託シタマヒ後滿五年以上ヲ經過シタル場合該保管金ハ保管後滿五年ノ經過ニ因リ政府ノ所得ト爲リ裁判所ト權利者トノ保管關係消滅シ從テ供託ノ

日ニ其十分ノ一宛又利息ハ毎年六月十二月ノ各末日ニ支拂フヘク若シ之ヲ怠ルトキハ催告其他ノ手續ヲ要セス期限ノ利益ヲ喪失シ直チニ元利金一時ニ完済ノコトナル約款アルトキ之ヲ履行セザルニ付債權者ヨリ右分割辨濟ノ契約ハ消滅セシモノトシ一時ニ殘ル元金金額ニ對シ執行文付與ヲ請求スル場合ハ債權者ハ辨濟ヲ受ケザリシ事實ヲ證明スルコトヲ要セザルモ不履行ノ理由トシテ全部ノ返還ヲ請求シタルコトヲ證明ヲ爲スニ非サレハ執行文ヲ付與スルコトヲ得ザルモノトス(大正三年十一月三日民第一六一三號法務局長回答)

●改正戶籍法中疑義ノ件

屆書ニ欠缺アル爲メ戶籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサル場合ナルニ於テハ届出地ニ返付シ追完ノ手續ヲ爲サシムヘキモノトス但本籍地市町村長ニ於テ直接ニ届出義務者ニ催告シ追完ノ届出ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス(大正三年十一月十一日民第一〇四號法務局長回答)

●戶籍事務取扱方ニ關スル件

改正法第六三條第一項ハ届出事件ノ發生ノ日ヨリ之レヲ起算ストアルモ若シ終日カ一般休日祭日ナル場合ハ其翌日ヲ以テ期間滿了ノ日トナルモノトス

改正戶籍法ニ於テ戶籍事務ニ關スル市町村長ノ代理者ニ付規定ヲ爲サザリシハ總テ市制、町村制ノ代理ニ關スル規定ニ依リ取扱ハシムルノ趣旨ナリトス故ニ市町村長助役共ニ故障アルトキハ市制第九四條第三項及町村制第七八條第二項ニ依リ定マリタル臨時代理者ニ於テ戶籍事務ヲ取扱フヘキモノトス(大正三年十一月十七日民第一二三二號法務局長回答)

戸籍事務ニ關スル件

届書ノ添附書類ハ届書ノ各通ニ之ヲ添附セシムヘシ戸籍謄本、裁判ノ謄本及ヒ醫師ノ診断書ノ如キハ市町村長、裁判所書記又ハ醫師ノ作成セルモノヲ届書各通ニ添附セシムヘク其ノ他ノ書類ハ一概ニ之ヲ決定スルコトヲ得ス但シ第五六條第三項ノ規定ニ依リ市町村長カ届書ノ謄本ヲ作ルヘキ場合ニ於テ添附書類モ亦市町村ニ於テ謄寫シ差支ナシ

同居者ノ範圍ニ付テハ一概ニ之ヲ決定スルヲ得サルモ同居ノ家族ノ同世帯ヲ同クスル寄留者ノ間ハ第七二條及第一一七條ノ届出義務ヲ負フモノトス(大正三年十一月七日民第一一〇號法務局長回答)

戸籍法改正法律施行ニ付問答ノ件

新法第五八條第二項官廳ノ許可ニハ裁判所ノ裁判ヲモ包含ス現行法第一九七條第一九九條ノ除籍ハ新法ノ戸籍訂正ノ手續ニ依ルヘキハ勿論ナリ

第三六條第一項ニ所謂戸籍ノ記載手續中ニハ届書類ノ送付手續ヲモ包含ス從テ同項ノ非本籍人ニ關スル書類トハ同條第二項ノ書類ヲ除クノ外非本籍地市町村長ニ於テ受理シタル一切ノ届書類ヲ謂フ(大正三年十一月十七日民第一二七二號法務局長回答)

改正戸籍法及同施行細則中ノ疑義ニ關スル件

本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ノ死亡届書若クハ死亡報告書又ハ婚姻届書ノ如キ書類ハ改正戸籍法第三六條第二項ノ書類ニ包含セズ改正戸籍法第一三六條ノ規定ハ指定家督相続人ニ其相続人アル場合

ト否トナ問ハス但シ本條ノ届出ハ指定者ノ戸籍ニ記載シタル家督相続人指定ニ關スル事項ヲ抹消スルカ爲メニ爲サシムルモノニシテ戸籍法第一一六條ノ死亡届ハ別ニ届出義務者ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス

戸籍法施行細則第八條乃至第一〇條ノ種類番號ニ關スル規定ハ本籍人ニ關スル書類ニ就テハ統計ノ必要ニ基クモノトス同法施行細則第二五條ノ規定ニ於ケル代理資格ノ記載方ハ假令ハ代理者カ町村ノ助役ナルトキ單ニ助役ト記載スヘキモノトス

同法施行細則第一〇條ノ受附報ニハ戸籍法第二二條ノ書類ヲ記載スヘク閱覽、謄抄本ノ交付及證明書ノ交付ノ請求ニ關スル書類等ヲ記載スルモノニ非ス

受附報ニハ受理シタル事件ノミヲ記載スヘシ第三二條ハ單ニ他ノ市町村長ノミカ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノニ非スシテ本籍ノ轉屬ナキ場合ニ於テ届書ヲ受理シタル市町村長及他ノ市町村長カ共ニ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキトキノ取扱方ヲ包含スルモノトス而シテ此場合ニ於テハ第五六條第一項及第三項ヲ適用スヘク其ノ他本籍地外ニ於テ届出ヲ爲シタル場合及他ノ市町村長ノミカ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキトキハ同條第二項及第三項ヲ適用スヘキモノトス

本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付受理シタル届書ハ第四五條ノ届出アリタル場合ニ於テ第三三條ノ手續ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ第四五條ノ届出アル迄ハ其ノ儘市役所又ハ町村役場ニ於テ保存スヘキモノトス(大正三年十一月十七日民第一五九九號法務局長回答)

電氣事業ヲ目的トスル會社ノ登記申請ニ關スル件

後見人更迭ノ場合任務終了ノ届出ハ後見人死亡ノ場合ノミナラス辭任其他總テノ場合ニモ其届出ヲ要セサルモノトス事件ノ種類番號ヲ付スルニハ届出ノ追完、戸籍ノ訂正及戸籍法第一四二條ニ依ル一家創立ノ届出ニ關スル書類ハ之ヲ合シテ一ノ種目ヲ定ムヘク許可書カ此等ノ事件ニ關スルモノナルトキハ其ノ種目ノ番號ヲ追ヒ、許可書カ他ノ事件ニ關スルモノナルトキハ各事件ノ種類番號ヲ追フヘキモノトス(大正三年十一月十九日民第一六〇八號法務局長回答)

電氣事業ヲ目的トスル會社カ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ非訟事件手續法第一五〇條ノニ依リ其申請書ニ電氣事業法第三條及電氣事業法施行規則第八條第一〇條ノ許可書又ハ認可書ヲ添付スルヲ要ス(大正三年十一月十一日民第一六二二號法務局長通牒)

臺灣關東州等ノ法院檢察官ヨリ内地裁判所檢察官ニ對シ勾引狀發付ノ囑託アリタル場合ノ取扱ニ關スル件

内地裁判所ノ檢察官ハ臺灣關東州等各法院ノ檢察官ヨリ被告人ニ對シ勾引狀ノ發付ヲ囑託セラレルモ其囑託ニ應スヘキモノニアラス(大正三年十一月二十五日刑甲第四〇二號法務局長回答)

改正戸籍法及施行細則ノ疑義ニ關スル件

官吏公吏カ其職務ヲ以テ戸籍簿除籍簿身分登記簿又ハ戸籍法第三六條ノ書類ノ閱覽、謄本、抄本ノ交付又ハ書類ニ記載シタル事項ノ證明書交付ヲ請求スルトキハ手数料ヲ要セス

細則第一四條第二項ノ基本タル戸籍ニ記載シタルモノトハ家督相続分家、廢絶家再興等ニ因リテ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ於ケル前戸主、本家又ハ去リタル家ノ戸籍ニ記載セラレタル戸主及家族ノ身分ニ關スル總テノ事項ヲ謂フモノトス

司法省訓令回答要旨

戸籍法施行細則第一六條ハ他ノ市町村ニ轉籍、分家、婚姻、縁組チナス等總テ本籍地ノ變更ヲ來スヘキ届出ヲ他ノ市町村長カ受理シタル後殊ニ原籍地市町村長カ其届出ニ因リ未ダ除籍ノ手續ヲ爲ササル間ニ於テ原籍ヲ本籍トシタル届出ヲ受理シ戸籍ノ記載ヲ爲シタル場合ノ取扱方ヲ規定シタルモノニシテ轉籍前ノ届出ニ關スル規定ニ非

後見人更迭ノ場合任務終了ノ届出ハ後見人死亡ノ場合ノミナラス辭任其他總テノ場合ニモ其届出ヲ要セサルモノトス事件ノ種類番號ヲ付スルニハ届出ノ追完、戸籍ノ訂正及戸籍法第一四二條ニ依ル一家創立ノ届出ニ關スル書類ハ之ヲ合シテ一ノ種目ヲ定ムヘク許可書カ此等ノ事件ニ關スルモノナルトキハ其ノ種目ノ番號ヲ追ヒ、許可書カ他ノ事件ニ關スルモノナルトキハ各事件ノ種類番號ヲ追フヘキモノトス(大正三年十一月十九日民第一六〇八號法務局長回答)

改正戸籍法ノ疑義ニ關スル件

民法第八三一條第二項ニ依リ死亡シタル子ノ認知ノ場合ニ於テ被認知者ニ付テハ戸籍上認知ノ記載及入籍手續ヲ爲サス只其直系卑屬ノミニ付父カ認知セラレタル旨ノ記載及入籍手續ヲ爲スヘキモノトス而シテ父カ認知セラレタル時ハ其直系卑屬ハ戸主又ハ婚姻若ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタルモノナルトキ其ノ他其ノ家ヲ去ルコトヲ得サル場合ヲ除クノ外當然認知書ノ家ニ入ルモノトス

民法第七三七條第七三八條ニ依リ入籍ヲ爲シタル場合ハ其者ニ關スル婚姻其他身分ニ關スル事項ヲ入籍シタル戸籍ニ記載スルノ要ナキモノトス

養子縁組ニ關スル事項ハ養親ノ戸籍事項欄ニハ記載セサル趣旨ナリトス復籍拒絕ノ記載ハ新戸籍ヲ編製スル場合ニ於テモ之ヲ移記スヘク又被拒絕者ノ復籍スルコトナキニ至リタル場合ハ抹消スヘキ規定ナル

モ拒絶者ト被拒絶者ト町村役場ノ管轄ヲ異ニスル場合ニ於テハ被拒絶者カ復籍スルコトナキニ至リタルヤ否不明ニ付拒絶者ノ戸籍ヲ新ニ編製スル場合ニ於テ被拒絶者ノ管轄町村長ニ照會スヘキモノトス

戸籍法第八〇條ニ依リ同第七八條第一項ノ手續ヲ爲ス前棄兒カ死亡シタルトキハ棄兒ヲ發見シタル者カ死亡届出ノ義務者トナルモノトス而シテ其届出期間ハ同第一一六條ニ依ルヘキモノナリ
戸籍法施行細則附錄第一號戸籍用紙ノ様式中父母欄ノ次ニハ養親ノ氏名、族稱、家族トノ續柄等ヲ記載スルコトアルヘキニ付豫メ家族トノ續柄欄ヲ印刷スヘカラス(大正三年十一月廿一日民第一五七五號法務局長回答)

◎改正戸籍法施行ニ關スル疑義ノ件

改正戸籍法第六四條第三九條ニ依リ届出ヲ爲ササルモノアルトキハ市町村長ハ裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ニ記載シ得レトモ私生子又ハ庶子ハ戸主ノ同意アルニアラサレハ其家ニ入ルヲ得サルニヨリ之等ノ出生届出ヲ爲ササル場合ニ於テハ市町村長ハ便宜ノ方法ニ依リ戸主ノ同意證書ヲ徴シ戸籍ニ記載スヘキモノトス而レトモ同意證書ノ提出ヲ爲ササルトキハ一家創立セシムヘキモノナリ
舊戸籍法施行前ニ編製シタル戸籍ハ別ニ編製スヘシ舊戸籍法ニ依ル戸籍ハ新法ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有スルヲ以テ新法ニ依ル戸籍ト共ニ編製スヘシ
名未定ノ子ハ未定ノ儘ニテ出生届ヲ爲シ後日命名ノ節其旨届出ヲ爲スヘシ命名ヲ爲スヘキ者ノ範圍及其順位ニ付テハ從來ノ慣例ニ從フヘク市町村長ハ命名ヲ爲スコトヲ得ス(大正三年十二月九日民第

附 錄

行政裁判所判決要旨索引

- ◎土地收用法 五一五、一六二、一七三、一七四
- ◎地方税規則 七、八、一〇、一一、一二、一三、一七、二〇、二五、二六、二七、二八、三〇、三一、三三、三四、三五
- ◎町村制 二、三、四、五、六、八、九、一〇、一一、一二、一三、一五、一六、一八、二一、二二、二三、二四、二九、二八、三〇、三一、三二、三五
- ◎大阪市條例 一九
- ◎大阪市告示第六九號 二八
- ◎織物消費税法 二八
- ◎家祿賞典錄處分法 一、二、四、五、六、七、九、一一、一四、一五、一七、一八、二〇、二二、二三、二五、二六、二八、三三、三四、三六、九
- ◎官吏恩給法 二七
- ◎用水路ニ關スル件 二五
- ◎宅地地價修正法 三
- ◎相續税法 二二
- ◎奈良縣令第五一號 七、九、一三、一八、二六
- ◎營業税法 一一
- ◎軍人恩給法 一七
- ◎府縣制 一七
- ◎鑛業法 一四、一八、二九、三三、三四

- 鑛業法施行細則.....三四二〇
- 國稅徵收法.....二二七三二
- 國有林野法.....四二二
- 國有土地森林原野下戻法.....二二二、二六二、四三五
- 行政裁判法.....二二五、六、七、一一、一三、一四、一八、一九、二〇、二二、二三、二五、二七、二九、三一、三三、三四、三六
- 漁業法.....八一、九三、三二
- 漁業法施行規則.....九二、一二二
- 湯屋營業取締規則.....三三
- 市制.....二一〇、二一四、二二四、三〇
- 所得稅法.....二一八、二一九、三〇、三二、三三、三四
- 小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則.....一〇、一二
- 小學校令.....三
- 醬油稅則.....一三
- 醬油稅施行規則.....一二
- 製鹽地整理ニ關スル件.....一
- 水利法.....八一、一九
- 水利組合法.....二〇
- 明治二十三年勅令第二七六號.....二〇
- 明治二三年法律第一〇六號.....二六
- 明治二三年法律第一〇六號.....二〇

行政裁判所判決要旨

秩祿處分ノ件

世襲ノ妾ヲ爲シタル卒トシテ士族ニ編入セラレタルモ其後誤謬ニ出
 テタルモノトシテ更ニ民籍ニ編入セラレタルトキハ前ノ士族編入ノ
 事實ノミヲ以テ之ヲ世襲ノ妾ヲ爲シタル者ト認ムルコトヲ得ス
 明治三十年頃ノ復祿處分ハ恩典的處分トシテ爲サレタル事例多キヲ
 以テ他ニ適確ナル證據ナキ限りハ之ヲ以テ世襲ノ家タリシコトヲ證
 スルニ足ラス
 公簿ノ一部ト爲レトキト雖モ復籍請願ノ目的ヲ以テ作製シ提出シ
 タル履歷書ハ世襲ノ卒タルコトヲ證スルニ足ラス(明治四十二年第
 一〇七號大正二年十二月二十四日第一號宣告)

水利ノ件

灌溉用水溝ヲ掘鑿シテ公用河川ヨリ引水スルノ許可ヲ得タル者ハ其
 許可ニ依リ水田起業ノ爲メ該河川ヨリ引水ヲ得タルモノトス然レト
 モ其引水量ヲ必要ナル限度ニ確定シ其餘水ヲ廣ク他ノ開墾希望者ニ
 使用セシメ開墾事業ヲ勸奨スルコトハ公益上必要ナル處分ナリ
 適當ナル方法ヲ設ケ引水スルニ於テハ其土地ヲ耕作スルニ足ルトキ
 ハ灌溉ノ爲メ必要ナル水量アリト認定ス(大正元年第二二八號大正
 二年十二月二十四日第一號宣告)

家祿ノ件

舊制施行後ト雖モ立藩中藩知事ノ爲シタル廢家ノ處分ハ有效ナリ

行政裁判所判決要旨

家祿ハ廢家ト共ニ消滅ス(明治四十二年第二一八號大正二年十二月
 二十五日第三號宣告)

製鹽地及附屬建物器具器械價格裁定ノ件

製鹽地ノ價格ノ裁定ト製鹽禁止後ニ於ケル製鹽地ノ見込價額ノ裁定
 トハ各別ノモノナリ
 製鹽禁止後ニ於ケル製鹽地ノ見込價額ヲ政府ノ裁定額ヨリモ多額ニ
 定ムヘキコトヲ求ムルコトハ原裁定ヲ被裁定者ノ不利益ニ變更セム
 コトヲ求ムルモノナレハ行政訴訟ヲ許スヘキモノニアラス
 明治四十三年法律第四十八號第五條及第六條ノ決定ニ於テ物件ヲ除
 外シタルコトヲ失當トスルトキハ同法第七條ニ依リ不服ノ申立ヲ爲
 スコトヲ得ヘク右不服ノ申立ヲ却下シタルコトヲ失當トスルトキハ
 同條ニ依リ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(明治四十四年第一
 五五號大正二年十二月二十五日第三號宣告)

行政裁判法ノ件

行政裁判法第二二條ハ土地ノ官民有區分ニ關スル事件ニモ適用アリ
 訴訟代理人カ官有地編入ノ事實ヲ了知シタリトスルモ本人ニ對シ其
 效力ヲ及ボサス
 行政裁判法第二二條第一項ノ期間ハ處分者若クハ裁決書ノ交付又ハ
 告知ヲ受ケサル者ニ對シテハ其之ヲ了知シタル日ヨリ起算スヘキモ
 ノトス(大正元年第二二一號大正二年十二月二十五日第二號宣告)

●道路使用料徴収ニ關スル件

地盤所有權ノ所屬ハ營造物ノ主體ヲ定ムルニ關係ナシ
市營造物ノ使用ハ市制第一二九條ニ依リ市條令ヲ以テセサルヘカラ
ス

電氣事業法ニハ使用料ニ關シ特ニ市制ノ適用ヲ除外スル趣旨ノ規定
ナシ(大正二年第三五號大正二年十二月二十五日第三部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

選舉人カ被選舉人ノ氏名ノ或字ヲ誤リテ之ヲ抹消シ其傍ニ書キ直シ
タルニ過キサル場合又ハ其字體ノ讀ミ難キヲ慮リ之ヲ明確ナラシム
ル爲メ其傍ラニ再ヒ記載シタルカ如キハ孰レモ他事記入ナリト云フ
ヲ得ス(大正二年第二一六號大正二年十二月二十五日第二部宣告)
村會議員選舉ノ效力ニ關スル村會ノ決定ニ對スル訴願ハ村會ヲ經由
シテ之ヲ提起スヘキモノトス(大正二年第二一九號大正二年十二月
二十五日第二部宣告)

●行政裁判法ノ件

尋常小學校訓導兼校長ノ年功加俸停止處分及ヒ小學校令施行規則第
一二七條ニ依リ休職處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ許サス(大正二年第
二五四號大正二年十二月二十六日第一部裁決)

●國有林下戻ノ件

山手船頭米ノ通稱稅ナリ
外書ニ記載シアリ且釐稅稅米稅稅等ト並記セラルル山手船頭米ハ正
租ト認ムルコトヲ得ス

●町村制ノ件

町村制第一四〇條第一項ニ所謂處分決定又ハ裁決アリタル日トハ處
分、決定又ハ裁決カ其者ニ對シテ效力ヲ生シタル日ヲ指シタルモノト
ス

町村吏員ニ對スル賠償金ノ徴収ニ付キ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於
テ差押カ滞納者ニ對シテ效力ヲ生スルハ差押圖書ノ謄本ノ交付ニ依
ル(大正二年第四二號大正二年十二月二十七日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

同村ニ於テハ高橋久太ナル者存在セス高橋久太夫ナル者居住スルモ
同人ハ村會議員ノ被選舉權ヲ有セス且一ノ投票ヲモ得サルモノナレ
ハ「ダカハシ久太」ナル係争投票ハ二十九票ノ得票アル高橋久太郎
ノ「郎」ノ一字ヲ脱シタルモノニテ同人ヲ選舉シタルモノト認ムルヲ
相當トス(大正二年第二二三號大正三年一月二十四日第二部宣告)

●小學校設置費用賦課ノ件

尋常小學校ノ設置費用ニ付テハ地方學事通則及小學校令ノ特別規定
アルヲ以テ町村ノ一部ニ學校設置費ヲ負擔セシムルニハ地方學事通
則第二條第三項及小學校令第一一條第二項ノ規定ニ依ルヘク町村制
第一〇二條乃至第一〇四條ノ規定ニ依ルヘキモノニ非ス從テ郡長ノ
指定ハ町村ノ一部ニ小學校設置費用ヲ負擔セシムル要件ニシテ此要件
ヲ充タササル賦課ハ違法ナリ(大正二年第一一八號大正三年一月二
十八日第一部宣告)

●醬油造石稅ノ件

犯則者死亡シタルトキト雖モ造石數ハ醬油稅施行規則第九條ニ依リ
行政裁判所判決要旨

料金ヲ徴收シテ他ニ入會ヲ許スカ如キハ毛上權者タル地元村モ爲シ
得ヘキコトナレハ之ヲ以テ土地ノ所有ヲ證スルニ足ラス

百姓山村持山及ヒ村山ナル文字ハ或ハ使用收益管理權ノミチ有スル
土地ヲ指シ或ハ單ニ地籍ノ所屬ヲ指スコトアルニ依リ之ヲ以テ地盤
所有ノ證ト爲スヲ得ス(明治三十八年第九八號大正二年十二月二十
七日第二部宣告)

●家祿ノ件

大赦ノ恩典ニ浴シタリトテ之レカ爲メ家祿ヲ復舊スルモノニアラス
(明治四十二年第五一九號大正二年十二月二十七日第三部宣告)

●宅地地價修正決定ニ關スル件

稅務署長等カ課稅ノ標準ト爲シタル貸家又ハ建物ノ賃賃價格ノ事例
ヲ以テ直チニ宅地地價修正法第三條第三項ニ基ク賃賃價格ノ認定ヲ
不當ナリト斷スルヲ得ス(明治四十四年第一二五號大正二年十二月
二十七日第三部宣告)

●所得金額決定ニ關スル件

所得稅法第四條第一項第三號ニ所謂手當金ハ稅務署長カ決定當時ノ
狀況ニ從ヒ豫算年額ニ依リ其金額ヲ算出スヘキモノトス
慰勞賞與金ニシテ臨時偶發的ノモノニアラスシテ其金額ヲ豫定シ得
ルモノナルトキハ其所得者カ之ニ對スル請求權ヲ有スルト否ト又所
得者カ申告ノ際其金額ヲ確定シ豫算シ得ルト否ト問ハス之ヲ所
得稅法ニ所謂手當金トシテ第三種所得ニ計算スヘキモノトス(大正
二年第二二號大正二年十二月二十七日第三部宣告)

稅務署長ノ職權ヲ以テ之ヲ査定シ得ヘキモノトス(大正元年第二二
三號大正三年一月二十九日第三部宣告)

●相續稅ノ件

稅務署長カ相續稅課稅價格ヲ決定スルニ方リ被相續人カ虛偽ノ賣買
ニ因リ其所有名義ト爲シタル財產ナルコトヲ知ラスシテ其財產ヲ相
續財產ナリト認ムルモ失當ニアラス
相續開始前ニ消滅時效完成シタル債務ハ相續稅法第五條第二項ニ所
謂確實ナル債務ト爲スコトヲ得ス(大正二年第一一四號大正三年一
月二十九日第三部宣告)

●村會議員選舉當選ノ效力ニ關スル件

町村制第一五條第四項ハ父子兄弟タル緣故アル者同時ニ町村會議員
ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票數多キ者一人ヲ當選者
トシ其他ノ者ハ當選者トセサルノ法意ナリ從テ此場合ニ於テハ選舉
會ハ法定得票者中ヨリ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘク同第三四條第
三項ノ規定ヲ適用シ更ニ選舉ヲ行フヘキモノニ非ス(大正二年第二
一八號大正三年一月二十九日第二部宣告)

●町村組合會議員任期ノ件

町村制施行後ト雖モ舊町村制ノ下ニ就職シタル一部事務ノ町村組合
會議員ハ組合規約ノ定ムル任期內其職ヲ失ハサルモノトス(大正二
年第三六號大正三年二月四日第一部宣告)

●試掘出願ニ關スル件

試掘願書添附ノ圖面ニ依リ出願區域分明ナラサル場合ニ鑛業署長カ
願書ヲ受理セザリシハ正當ナリ(大正二年第二二二五號大正三年二月

五日第三部宣告

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

當選ヲ取消サルヘキ者ノ何人タルカヲ指定セサルモ町村制ニ所謂當選ノ效力ニ關スル異議申立又ハ訴願タルヲ失ハス
型ニ依リ抽出シタル投票ハ無効ナリ
當選ノ效力ニ關スル訴願アリタル場合ニ於テハ何人カ果シテ有效投票ノ多數ヲ得タルカヲ審査シ當選者ヲ定メサルヘカラサルモノナルカ故ニ其審査ノ範圍ハ決シテ訴願人ノ指摘シタル投票若クハ町村會ニ於テ審査シタル投票ノミニ止ムヘキモノニ非ス(大正二年第二二九號大正三年二月五日第二部宣告)

●村會議員選舉效力ニ關スル件

町村會議員選舉人名簿ハ適法ノ手續ヲ經テ確定シタル以上ハ町村制第一八條ニ基テ訴願訴訟ノ結果ニ依リニアラザレハ之ヲ動かスコトヲ得サルモノニテ其中ニ或ハ選舉權ナキ者ヲ登錄シ或ハ選舉權者ヲ遺脱シ或ハ之カ爲メ一級二級ノ區別ニ錯誤ヲ生シタルトスルモ其名簿ハ法律上有效ノモノト云ハサルヲ得ス(大正二年第二二三號大正三年二月五日第二部宣告)

●家祿ノ件

遺法ニ廢祿セラレタル者ト雖モ其後任意ニ其家ヲ廢シタルトキハ明治三十年法律第五〇號ニ依リ救済ヲ求ムル權利ナキモノトス
廢祿セラレタル家カ廢絶シタル場合ニ之ヲ再興シタル者ハ同法律第一條ノ所謂家名承繼人ニ該當セザルモノトス
最高公債ノ利息ハ政府ニ於テ請願許可ノ指令ヲ爲シ又ハ裁判所ニ於

テ勝訴ノ判決ヲ爲シ其結果公債證書ヲ發行スル時ヨリ利息ヲ生スルモノトス(明治四十二年第五四九號大正三年二月六日第一部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

町村制第二五條第一項第六號ハ選舉ニ有害ナル事項又ハ雜事等ヲ記入スルコトヲ禁止スルノ法意ナルカ故ニ氏名ノ下ニ印ノ字ヲ記載シタル投票ハ同號ノ所謂他事記入ニ該當シ無効タルヘキモノトス(大正二年第二三二號大正三年二月七日第二部宣告)

●國有草山下戻ノ件

外書山野帳ニシテ檢地帳ノ一部ナル以上ハ之ニ名受ノ記載アル土地ハ反證ナキ限り名受人ノ所有ニ屬スルモノト認ムヘキモノトス(明治三十六年第五三八一號大正三年二月十日第二部宣告)

●鑛業權不許可處分ニ關スル件

鑛業ノ不許可處分ニ對シ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得スト雖モ其爲シタル訴願ヲ取下ケタルトキハ訴願ナカリシコトト爲ルカ故ニ出訴期間ヲ經過セザルニ於テハ更ニ行政訴訟ヲ提起スルニ妨ナキモノトス
却下ヘキ鑛業ノ願書ニ付キ不許可處分ヲ爲スモ出願人ノ權利ヲ侵害シタルモノニ非ス(明治四十四年第二號大正三年二月十二日第三部宣告)

●境界査定ノ件

國有林野法ノ境界査定處分ハ國有林野ト隣接民有地トノ境界ヲ明ニシ相互ノ所有權ノ範圍ヲ確定スルモノナルカ故ニ境界判定ノ資料タルヘキ書類ノ調査實地ノ觀察ヲ誤リタルカ如キコトヲ理由トシテ之

カ取消ヲ容ササルモノト解スルヲ相當トス
一旦確定シタル査定ノ更正ハ前査定ニ依リ確定シタル土地ノ權利ヲ處分スルモノナレハ區々町村制第一二四條及第一四七條ニ依リ郡長ノ許可ヲ受クヘキモノトス(大正二年第五三號大正三年二月十四日第二部宣告)

●宅地修正地價決定ニ關スル件

宅地地價修正以前ニ在リテハ市街宅地租ト郡村宅地租トハ其稅率ニ基テシキ差異アリタルヲ以テ市街宅地租ト郡村宅地租トノ新舊地價ニ依リ地租ノ増減ヲ比較シ修正地價ノ當否ヲ斷スルヲ得ス
修正地價ハ現況ニ依リ賃賃價格ヲ基礎トシテ定メラルヘキモノニシテ舊地價ト同一ノ相對的關係ヲ保ツヘキモノニアラス從テ他ノ郡市ノ地租減シタルニ反シ一方ノ地租増加スルモノヲ以テ直ニ修正地價額ヲ不當トシ得ス(明治四十四年第一二四號大正三年二月十七日第三部宣告)

●家祿ノ件

明治三十三年ニ至リ士族ニ編入セラレタリトノ一事ヲ以テ棄ニ平民籍ニ編入セラレタルハ錯誤ノ處分ニシテ永世祿ノ者ナリシコトヲ決スルニ足ラス(明治四十二年第四二七條大正三年二月十八日第一部宣告)

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル件

法定ノ縱覽期日關係者ノ縱覽ニ供セザリシ選舉人名簿ハ其確定ノ手續ニ違法アルモノナルカ故ニ適法ノ確定名簿ト謂フヲ得ス從テ之ニ基キテ執行シタル町村會議員選舉ハ全部無効タルヘキモノトス

町村制ニ於テハ選舉ノ效力ニ關スル訴願ト選舉人名簿ノ效力ニ關スル訴願トハ之ヲ區別シアルヲ以テ選舉ノ效力ニ關スル訴願ニ對シ府縣參事會カ選舉人名簿ノ效力ニ互リテ判決ヲ爲スコトヲ得ルモノニ非ス(大正二年第二五一號大正三年二月十九日第二部宣告)

●收用審査會違法裁決取消ノ件

停車場用地ハ鐵道用地ノ一部ヲ成スモノナルヲ以テ或土地ヲ鐵道事業ノ爲メ停車場用地トシテ收用スルモ違法ニ非ス
收用審査會ノ裁決書ニ收用スヘキ土地ノ地上物件ノ種類ヲ記載セザルモ違法ニアラス

土地收用法第三五條第一項第三號ニ掲クル「使用ノ時期期間」ハ土地ノ收用ヲ爲サスシテ使用ノミヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノナリトス
收用審査會ノ裁決書ニハ會長ノ署名捺印スルヲ以テ足ル
土地收用ニ對スル補償金ヲ拂渡シハ供託ヲ爲スコトハ收用審査會ノ裁決後ニ爲スヘキ事項ナルヲ以テ收用時期マテニ其拂渡又ハ供託ヲシトスルモ裁決ノ當否ニ影響ナキモノトス
移轉スヘキ地上物件ヲ起業者力擅ニ伐採シタルヤ否ヤハ裁決ノ當否ニ關係ナキモノトス

土地收用法第二三條第二項ノ通知ハ通知書ヲ土地所有者カ受領シ得ル程度ニ配達ノ手續アレハ充分ニシテ土地所有者カ故ナク其受領ヲ拒ミタルニ因リ通知ノ内容ヲ知ラザリシトスルモノヲ以テ通知ナシト云フヲ得ス(大正二年第一三五號大正三年二月二十日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

法定期間ヲ經過シタル訴訟ハ受理スヘキ限ニ在ラス(大正三年第三三號大正三年二月二十四日第三部宣告)

●行政裁判法ノ件

官報ニ記載アル土地ノ誤謬ニ付キ之カ訂正ヲ求ムル訴ハ受理スヘキ限ニ在ラス(大正三年第三〇號大正三年二月二十五日第一號部宣告)

●家祿ノ件

明治六年十二月太政官第四二五號布告ニ據リ處分ヲ受ケタル者カ當時ノ規則ニ依ル祿高相當ノ資金ノ給與ヲ受ケタルモノナルトキハ明治三十年法律第五十號第二條ニ該當セサルモノトス(明治四十二年第三九四號大正三年二月二十六日第三號部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

當選者カ選舉後ニ於テ公民權停止ノ處分ヲ受ケタルモ其選舉ニ於ケル當選ノ效力ヲ左右スルモノニアラス(大正元年第二四七號大正三年二月二十八日第二號部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

同村ニ同名者ヲ稱フル者甲乙二名アルモ甲ハ選舉ニ於テ候補者ニ立テタル事實他ニ得票アル事實乙ハ選舉權被選舉權ナキ事實ヨリ見レハ單ニ該氏名ノミヲ記シタル投票ハ甲ヲ指シタルモノト認ムルヲ相當トス(大正二年第一九五號大正三年二月二十八日第二號部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

型ニ依テ描出シタル投票ハ無効ナリ(大正二年第二五七號大正三年二月二十八日第二號部宣告)

●家祿ノ件

明治九年九月太政官第一二三號布告ハ祿高ニ關シテハ同布告公布當時ノ處置ヲ以テ定度ト爲シ其引直ハ爾今一切採用セサルコトヲ定メ

タルニ過キスシテ明治六年十二月太政官第四二五號布告及同年十二月太政官第四二六號達ヲ改廢シ以テ金祿公債證書ノ給與ニ付テハ明治九年八月太政官第一〇八號布告ニ準據スヘキコトヲ定メタルモノニ非ス

明治六年十二月太政官第四二五號布告及同年十二月太政官第四二六號達ニ依リ家祿ヲ奉還シ相當ノ資金額ヲ受領シタル者ハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法第一條ニ所謂其祿高ニ對スル相當額ノ給與ニ不足アル者ト云フコトヲ得ス(明治四十二年第五六七號大正三年三月三日第二號部宣告)

●家祿ノ件

明治三年藩制施行ノ際藩政改革ノ爲メ藩主ノ爲シタル廢祿處分ハ違法ニアラス(明治四十二年第一六四號大正三年三月六日第一號部宣告)

●家祿ノ件

明治三年十二月藩政改革後卒タル身分ヲ有シタル者ニアラスト認定セラレタル者ハ明治三十年法律第五十號ニ基キ請求ヲ爲スノ權利ナシ(明治四十二年第三七八號大正三年三月六日第一號部宣告)

●家祿ノ件

町村制第九條第二項ノ「刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ」ナル文詞ハ之ヲ同項ノ「家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキ」ナル文詞第七〇條第一項ノ「禁止產若ハ準禁止產ノ宣告ヲ受ケタルトキ」ナル文詞及第七條第一項第一二條第二項第三五條第一項第一六〇條第一項ノ「刑ニ處セラレタル者」ナル文詞ニ對照考覈シテ處刑判決ノ

●郡會議員ノ件

情況ヲ斟酌考慮シテ之ヲ決定スルコトハ條理上不當ノ事ニアラス(大正二年第二四九號大正三年三月十一日第一號部宣告)

言渡アリタルトキ指稱シタルモノニシテ該判決ノ確定シタルヲ指稱シタルモノニ非ス(大正二年第二五五號大正三年三月七日第二號部宣告)

●府稅ノ件

前面ヨリ見ルトキハ住家ニ類スルモ全體ノ構造風雨ノ侵入ヲ防クニ足ラス貧民ト雖住居スルニ堪ヘサルモノト認ムヘキ建物ハ縱令鶏舎トシテハ永久使用ノ目的ヲ以テ建設シタルモノナルモ塙建假小屋ノ類ニ包含スルモノト解スヘキモノトス(大正二年第一八九號大正三年三月九日第一號部宣告)

●村會議員當選ニ關スル件

町村制第三條第一項ニ告示ノ日ヨリトアルハ單ニ異議申立ノ期限ヲ定ムル爲メ必要ナル起算點ヲ示シタルニ止マリ苟モ選舉會ニ於テ當選決定ノ處分ヲ爲シタル上ハ告示以前ト雖モ異議申立ヲ許スノ法意ト解スヘキモノトス(大正二年第二二八號大正三年三月十日第二號部宣告)

●縣稅戶數割賦課ノ件

縣稅戶數割賦課ニ關スル各戸ノ等差ヲ定ムル標準ニ付キ何等ノ規定ナキトキハ各戸ノ賦課額ハ之ヲ町村會ノ議決ニ一任シタルモノト解スルヲ相當トス
縣稅戶數割賦課額ヲ定ムルニ當リ貧富ノ程度ニ依リ等差ヲ附スルニハ縣稅賦課規則又ハ村會ノ決議ニ特別ノ規定ナキ限りハ地租所得稅營業稅ノ如キ特種ノ租稅等ノミヲ標準トシテ作成シタル基數調ニ據ルコトヲ要セス公簿ニ現ハレタル財産ハ勿論動産債權生活狀態其他

ノ情況ヲ斟酌考慮シテ之ヲ決定スルコトハ條理上不當ノ事ニアラス(大正二年第二四九號大正三年三月十一日第一號部宣告)

●行政裁判法ノ件

明治四十二年鹿兒島縣告示第三百六十號鹿兒島縣山林特別處分例ニ依リ下渡ヲ求ムル事件ハ行政訴訟トシテ提起スルヲ得ス(大正二年第二〇七號大正三年三月十二日第二號部裁決)

●村會議員選舉ノ效力ニ關スル件

當選ノ效力ニ關シテ他人ヨリ行政訴訟ノ提起ナキ場合ニ於テ其當選ヲ維持センカ爲メ該訴訟ニ參加スルハ格別其提起ナキニ當選者若ハ選舉人等ヨリ進ンテ行政訴訟ヲ提起シ同人ヲ當選者ト定ムルコトヲ請求スルカ如キハ法律力當選訴訟ヲ認メタル趣旨ニ副ハサルモノニシテ認容スヘキ限ニ在ラス
單ニ當選者ノ得票數ヲ增加センコトヲ求ムル訴願ハ許サレサルモノトス(大正二年第二二六號大正三年三月十二日第二號部宣告)

●家祿ノ件

立藩中ハ各藩ニ於テ適宜改祿處分ヲ爲シ得ル權限ヲ有シタルカ故ニ明治三年十二月減祿處分ヲ受ケタル者ハ明治三十年法律第五十號ニ依リ救濟ヲ受ケル權利ナキモノトス(明治四十三年第四八號大正三年三月十三日第一號部宣告)

●營業稅不當課稅ノ件

甲者乙者ヨリ其營業財產ノ主要部分ヲ讓受ケ乙ノ從業者ノ一部ヲ引繼キ使用シ乙ノ廢業ノ翌日乙ト同一ノ營業區域ニ於テ開業シタルトキハ營業稅法第二三條ニ所謂營業ヲ繼續シタルノ事實アリト認ムヘ

キモノトス(大正二年第七七號大正三年三月十四日第三部宣告)

●家祿ノ件

明治十年金祿公債證書給與以前家祿ノ屬シ又ハ屬スヘキ家ヲ廢シテ他家ニ入りタル者ハ金祿公債證書ノ給與ヲ受クル權利ナキモノトス
明治三十年法律第五〇號第一條ハ藩制施行後家祿ヲ有シタル者ニシテ明治九年太政官布告第一〇八號施行ノ際其ノ錄高ニ對スル給與ヲ受ケサリシ本人又ハ其家名承繼人ノミニ請求權ヲ與ヘタルモノナレハ其本人又ハ家名承繼人ニアラサル者ノ請求ハ假令本人カ追認シタレハトテ適法ト爲ルモノニアラス(明治四十二年第二八七號大正三年三月十六日第一部宣告)

●村稅戶數割賦課ノ件

「十月一日以後翌三月三十一日迄ニ納稅義務發生シタルモノハ其日ノ現在ヲ以テ年稅ノ半額ヲ賦課ス」九月三十日以前ニ於テ納稅義務ノ消滅シタルモノハ年稅ノ半額ヲ徵收セス」トノ縣稅戶數割賦課徵收規則ハ前期分ハ四月一日ヨリ九月三十日マテノ間ニ於ケル構戶ノ事實ヲ基礎トシ其後期分ハ十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ於ケル構戶ノ事實ヲ基礎トシテ各別ニ賦課スル趣旨ナルコト明カナルヲ以テ九月三十日以前ニ同縣内ニ於テ甲村ヨリ乙村ニ移轉シタル者ニ對スル該稅後半期分ハ乙村ニ於ケル構戶ノ事實ヲ基礎トシテ賦課スルモノト解セサルヲ得ズ從テ乙村ニ於テハ縣稅戶數割後半期分ニ對シ其附加稅タル村稅戶別割賦課シ得ヘキモ甲村ハ之ヲ賦課スルコトヲ得サルモノトス(大正二年第一八八號大正三年三月十六日第一部宣告)

●縣稅戶數割賦課ノ件

他人ノ住宅ニ下宿シ賄料ヲ支辨シテ食事ノ供給ヲ受ケ居ル者ニ對シテ戶數割ヲ賦課シタルハ違法ナリ(大正三年第一六號大正三年三月十六日第一部宣告)

●水利組合法ノ件

水利組合法第二一條ハ組合會議員ノ被選舉權ノ有無確定ノ手續并ニ其確定ニ至ル迄ノ間ニ於ケル組合會議員ノ權能ニ關スル規定タルニ過キスシテ決シテ其被選舉權喪失ノ時期ニ關スル規定ニアラス(大正三年第三號大正三年三月十七日第二部宣告)

●村會議員當選效力ニ關スル件

同一告示ヲ以テ行フ選舉ハ一箇ノ選舉ナルカ故ニ假令級別ノ爲ニ數日ニ跨リテ之ヲ行フモ町村制第一五條第四項ノ同時ノ選舉ナリト云ハサルヘカラス
二級選舉ノ議員タルト一級選舉ノ議員タルトナ間ハ總テ其任期ハ町村制第一六條第二項ニ依リ總選舉ノ第一日ヨリ起算スヘキモノトス

●區劃漁業免許ノ件

先願者ノ漁場擴張區域カ後願者カ事實上經營スル漁場區域ト重複スルモ其免許漁場ト重複セサル以上ハ先願者ノ出願ヲ免許スルモ違法ニアラス

海苔漁業ニ於テハ甲乙ノ漁場區域間少ナクトモ三間ノ間隔ヲ有セシムヘキモノトス(明治四十五年第一四號大正三年三月十九日第三部宣告)

●漁業權ノ件

出願定置漁業カ船舶航行ノ際危害ヲ及ホス虞アルモノナルトキハ公益上ノ必要ニ基キ漁業法施行規則第一七條ヲ適用シ出願ヲ拒否スヘキモノトス(大正二年第一五一號大正三年三月十九日第三部宣告)

●家祿ノ件

奉還願濟ノ年ニ於ケル一ヶ年分ノ家祿ニ對スル給與ノ請求ハ明治三十年法律第五十號ノ救濟範圍ニ屬セサルモノトス
明治三十年法律第五〇號第二條ニ所謂相當額トハ明治六年十二月太政官布告第四二五號其他關係法規ニ據リテ當然給與セラレヘキ資金額ヲ指シタルモノニシテ同條ハ違法又ハ錯誤ノ處分ニ依リ成規ノ資金額ヲ受ケサリシ者ニ救濟ヲ與フヘキ旨ヲ規定シタルニ過キス又第三條ハ第一條若ハ第二條ニ依リ救濟ヲ與フヘキ場合ニ於ケル金額算出ノ標準ヲ定メタルモノニシテ奉還當時適法ノ處分ヲ受ケタル者ニ對シ其奉還資金ト明治八年九月太政官布告第一三八號ニ據リ算出シタル金額トヲ對比シ其差額ヲ給與スルノ趣旨ニ非ス(明治四十二年第二九八號大正三年三月二十三日第一部宣告)

●官吏恩給請求ノ件

官吏恩給法第八條第二號ノ軍人恩給ナル文詞中ニハ文官ノ退官賜金ニ準スヘキ給助金ヲ包含セサル法意ナリト解スルヲ相當トス(大正二年第二四二號大正三年三月二十五日第一部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

町村制第三四條ニ所謂當選無効ト確定シタルモノハ町村制第三七條衆議院議員選舉法第一〇一條ニ依リ當選無効ト爲リタル場合ヲモ包含スルモノトス(大正三年第一四號大正三年三月二十六日第二部宣告)

●營業稅ノ件

營業稅法第一七條ニ依リ課稅標準ヲ算定シ同法第二六條ニ依リ營業者ニ通知シタル場合ニ於テ異議アルトキハ同法第二七條ニ依リ審査ヲ請求スルコトヲ得ヘク此請求ニ對スル同法第二八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アル場合ニ於テ同法第二八條ノ四ニ依リ訴訟ヲ提起シ得ヘキ旨規定セルハ課稅標準ノ算定處分ノミニ付救濟ノ途ヲ開キタルニ過キサルヲ以テ此規定ハ算定處分ト別異ナル稅額ノ賦課處分ニ付明治二十三年法律第一〇六號第一號及訴訟法第一條第一號ニ依リ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ權利ヲ排除シタルモノト認ムルヲ得ス(前判例變更)

營業稅ノ納稅義務者カ廢業ノ届出ヲ爲スモ其届出ノミニ依リ廢業ノ事實ヲ認ムルノ要ナキモノトス

金錢貸業者カ貸付證書ノ書換ヲ爲ス場合ニ於テ其書換力舊契約ヲ消滅セシメ新契約ヲ成立セシムルモノナルトキハ尙之ヲ新規貸付ト認ムヘキモノトス(大正二年第一三九號大正三年三月二十八日第三部宣告)

●家祿ノ件

明治三十年法律第五〇號家祿賞典處分法第一條ハ明治九年太政官

第一〇八號布告及同第一五二號布告ニ依ル金庫公債處分ヲ受ケヘキ者又ハ之ヲ受ケタル者ニシテ審判施行以後ノ疎高ニ關スル錯誤ニ因リ之カ給與ヲ受ケス相當額ノ給與ニ不足アル者ヲ救済セムトスルニ在ルコト其規定上明ナリトス而シテ右金庫公債處分ハ其當時迄毎年給與シ來レル家祿及賞典祿ノ制ヲ廢シ一定ノ還元方法ニ依リ算出シタル金額ノ公債證書ヲ以テ一時ニ給與スルニ在リテ畢竟將來ニ亙ル金庫ノ給與ニ代フルニ一時的元資金ヲ以テシタルモノナリ故ニ該處分ハ過去ニ於テ受ケヘカリシ家祿賞典祿ノ給與ヲ受ケサリシ者ヲ救済シ又ハ其給與ニ不足アリシ者ニ之カ補給ヲ爲スモノニ非サルコトハ金庫公債條例ノ規定上是亦明瞭ナリトス(明治四十二年第四一二號大正三年三月三十日第一號布告)

●縣稅賦課ノ件

縣令ニ規定シタル期日ヲ經過シタル後町會ニ於テ爲シタル縣稅戶數制賦課方法ノ議決ハ違法ニシテ其效力ヲ有スヘキモノニアラス從テ之ニ基キテ爲シタル賦課處分ハ取消スヘキモノトス(大正二年第一四九號大正三年三月三十日第一號布告)

●退隱料ノ件

退隱料ヲ受クルノ權利ハ退職ノ事實ニ因リテ發生スルモノナルカ故ニ其權利ノ內容ハ退職當時ノ法規ニ從ヒテ定マルヲ通則トス從テ之ニ關スル法規ノ改正アリタル場合ニ於テ特別ノ規定ナキ限り新法ノ規定ハ之ヲ舊法施行中ノ退職者ニ適用スルヲ得ス(大正二年第二四七號大正三年三月三十一日第二號布告)

●町會議員選舉ノ件

選舉ノ效力如何ハ選舉ニ關係アル諸般ノ事項ヲ調査シタル上ニ非サレハ之ヲ決スルコトヲ得サルカ故ニ苟モ選舉ノ效力ニ關シ訴願アリタル以上之カ裁決ヲ爲スニ付テハ單ニ訴願人ノ申立テタル事項ノミナラス選舉ノ效力ニ關係アル諸般ノ事項ヲ汎ク調査スヘキモノトス(大正二年第二五六號大正三年三月三十一日第二號布告)

●村會議員當選效力ニ關スル件

「カジラキヨ」ト記載シタル投票ハ梶原喜代藏カ他ニ多數ノ投票ヲ得タル事實ニ徴シ同人ヲ指シタルモノト認ムルニ足ルモノトス(大正三年第六號大正三年三月三十一日第二號布告)

●退隱料支給ニ關スル件

被告ノ裁決ト同一趣旨ノ判決ヲ求ムル訴ニ許スヘキモノニアラス市條例ヲ以テ與ヘタル權利ハ市條例ヲ以テ失ハシムルコトヲ得ルモノトス

明治四十年大阪府市條例第二號市吏員限隱料條例第八條第三號ノ規定ハ明治三十年大阪府市條例第三號市吏員退隱料條例ニ依リ退隱料ヲ受クル權利ヲ有スル者ニ對シテモ適用セラルト共ニ之ヲ適用スルニハ其失權ノ原因タル事實カ新條例施行後ニ發生シタルコトヲ要ス(大正三年第一號大正三年三月三十一日第二號布告)

●市會議員當選無効ノ件

消防組ハ團體トシテ人格ヲ有スルモノニ非ス又其組員ハ其資格ニ於テ汚物運搬ノ如キ事務ヲ取扱フモノニ非ス
市カ汚物運搬ヲ他人ニ取扱ムシムニ當リ出願ニ對スル許可ノ形式ヲ用ヒタリトスルモ其關係タルヤ私法上ノ契約ニ外ナラス

治四二年第一二二號第一五一號大正三年四月二日第三號布告

●村會議員補缺選舉ノ件

衆議院議員選舉法第一〇一條ハ選舉當時ニ選リテ當選無効スルノ旨趣ナリ從テ本條ノ準用ニヨリ町村制第三四條第一項ハ町村會議員ノ當選無効トナリタル場合ニモ之ヲ適用スヘキモノトス(大正二年第二四五號同三年四月九日第二號布告)

●市會議員當選異議ノ件

市制第二八條第一項第四號ニ被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノトアルハ單ニ投票記載ノ氏名ニ依テ見レハ不十分ナル處アルモ選舉當時ノ事實ニ徴シテ何人ヲ指示シタルヤヲ認識シ得ル投票ハ之ヲ有效ナラシムルノ餘地ヲ與ヘタルモノト解釋セサルヘカラス
久保田直巳カ二級議員ノ候補者トシテ立シコト及ヒ他ノ久保田姓ノ被選舉資格者ハ「久保田君」ナル係争投票ヲ除テハ三級選舉ヲ通シテ一票モ得サリシコト明白ナル事實ハ該投票ハ全ク久保田直巳ヲ指シタルモノト認定スルニ足ルモノトス(大正二年二〇三號同三年四月十一日第二號布告)

●村會議員選舉ノ件

字體筆跡及文字ノ排列上型ニヨリテ抽出シタルモノニアラスシテ選舉人ノ自書シタルモノト認ムヘキ投票ハ有效トスヘキモノトス(大正三年第二四八號同四年四月十一日第二號布告)

●行政裁判法ノ件

士族編入額ニ對スル不許可處分ニ付テハ行政訴訟ヲ許ヘキ規定ナキヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(大正三年第七四號同年

●村會議員當選無効ノ件

漢字ヲ以テ被選舉人ノ氏名ヲ書シ右側ニ平假名ヲ以テ其發音ヲ附記シタル投票ハ町村制第二二條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第二五條第一項第六號ノ規定ニ該當スルモノト云フコトヲ得ス(大正三年第二一號大正三年四月七日第二號布告)

●縣稅賦課ノ訴

長野縣稅賦課徵收規則ニハ各人賦課ノ標準ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ縣參事會ハ自ら相當ト認ムル所ニ依リ縣稅戶數割ノ各人賦課額ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス(大正二年第四三號第五一號同三年四月一日第一號布告)

●恩給ノ件

軍人恩給法第二四條第六號ニ該當シ恩給ヲ受クヘキ資格消滅シタル者ハ大正元年勅令第三十號ニ依リ徵收免除ヲ受クルモ資格消滅前ノ現役年數ハ之ヲ服役年數ニ算入スルコトヲ得サルモノトス(大正三年第一八號同四年四月一日第一號布告)

●家祿ノ件

新規召抱ノ卒ハ特ニ其譜代タルコトヲ認メ得ヘキ立證アルニアラサレハ一代限リノモノニシテ永世祿ヲ受ケタル者ト認ムルヲ得ス(明

四月十三日第一部裁

●國有林野下戻請求ノ件

御田地養菊敷山ハ必スシモ民有ナリト云フヲ得ス
占有收益ノ事實ハ毛上權者モ爲シ得ル處ナレハ之ノミチ以テ民有ナ
リト云フヲ得ス

改租當時作成シタル文書ハ土地所有ノ證トナスヲ得ス(明治三八年
第一四一號同三四年四月十四日第二部宣告)

●村會議員選舉ノ效力ニ關スル件

投票ニ記載シタル漢字不完全ナル爲メ更ニ片假名ヲ用ヒテ其文字ノ
何タルカヲ附記シタルニ過キサルモノハ被選舉人ノ氏名ヲ表スルノ
外何等ノ意味アルモノニ非ザルカ故ニ之ヲ以テ町村制第二五條第一
項第六號ニ所謂他事ノ記入アルモノト爲スヲ得ス
選舉會ニ於テ保爭投票審査ノ際ニ之ヲ自己ノ爲シタル投票ナリト公言
シタル事實アリトスルモ苟モ投票其物ニ選舉人ノ何人タルカ表シタ
ルモノナキ以上該投票ヲ以テ無記名投票ノ制度ニ牴觸スルモノト爲
スヲ得ス(大正二年第二〇五〇號同三年四月十四日第二部宣告)

●縣稅戶數割賦課ノ件

明治十三年太政官布告第十六號地方稅規則ノ戶數割ハ戶ヲ基礎トス
ルモノナレハ一戶ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス從
テ他人ノ住宅ニ下宿シ賄料ヲ支辨シテ食事ノ供給ヲ受クル者ニ之ヲ
賦課シタルハ違法ナリ(大正三年第四五號同四月十五日第一部宣告)

●小學校教員退隱科ノ件

明治二十五年勅令第三二號退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處

分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者トアルハ直接退隱料又ハ遺
族扶助料ニ關スル處分ニ依リ權利ヲ侵害セラレタル者ニ限リ行政訴
訟ノ提起ヲ許スノ法意ナリトス(大正三年第六〇號同年四月十五日
第一部裁決)

●境界査定ノ件

地目ト實地ト一致セサルコトハ屢見ル所ニシテ地界若クハ字界亦林
相又ハ峯筋谷間ノ如キ地物ニ據ラサルコトアルヲ以テ國有原野ト民
有地トノ境界ハ他ノ證據アル場合ニ於テハ地目林租及地勢ノミニヨ
リテ判定スヘキモノニアラス
所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ保爭地ヲ占有シタリトスルモ改租圖
ニ依リテ保爭地カ國有ニ屬スルコト明カナル以上占有ノ始ニ於テ惡
意ニアラサレハ改租圖ニ付キ境界ヲ調査セス若クハ漫リニ其記載ヲ
無視シタル過失アルモノニシテ民法第一六二條二項ノ時效ヲ援用ス
ルコトヲ得サルモノトス(明治四四年第三二號大正三年四月十六日
第二部宣告)

●町會議員選舉ノ件

異議又ハ訴願ノ理由ハ決定又ハ裁決アルマテハ何時ニテモ補充スル
コトヲ得ルモノトス從テ異議申立期間經過後ニ至リ異議ノ理由トシ
テ追加シタル主張ヲ受理シテ裁決ヲ爲シタルハ違法ニアラス
無記名投票制ノ下ニ在リテモ選舉權ナキ者ノ爲シタル投票カ何人ノ
得票ニ歸シタルカヲ調査スルハ何等妨ナシ而シテ其ノ得票者カ明カ
ナル場合ニ於テハ其者ノ得票數ヨリ之ヲ控除スルヲ以テ足ルモノト
ス

無差投票カ何人ノ得票ニ歸シタルカ不明ナル場合ニ於テハ假リニ之
ヲ當選者ノ得票數ヨリ控除シテ其ノ結果ナ次點者ノ得票數ニ對比シ
選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルヤ否ヲ檢セサルヘカラスト雖モ當選者
次點者双方ノ得票數ヨリ之ヲ控除スヘキモノニアラス
訴願人カ選舉全部ノ取消ヲ求メタル場合ニ於テ假令其一部ノ裁決ヲ
爲スモ之ヲ以テ訴願ノ範圍ヲ超エタルモノト爲スヲ得ス(大正二年
第一七七號同三年四月十六日第二部宣告)

●村會議員選舉ノ件

町村制第三三條第五項ニ所謂報告ヲ受ケタル日トハ現ニ報告ヲ受ケ
タル日ヲ指スモノナレハ假令町村長カ報告ヲ遅延スルモ同項ノ郡長
處分期間ハ現ニ町村長ヨリ報告ヲ受ケタル日ヲ基礎トスヘキモノト
ス

乙ハ民法施行前甲ノ婚養子ト爲リ丙ハ甲ノ次男ナルトキハ乙ト丙ト
ハ戸籍上住居經濟其他ヲ異ニスルト否トヲ問ハス民法施行法六八條
民法七二七條ノ規定ニヨリ町村制第一五條第六項ニ所謂兄弟ノ縁故
アルモノトス

町村制第一五條第六項ノ規定ハ選舉當時ニ於テ町村長又ハ助役ト父
子兄弟ヲ兼放アル者ハ之ヲ當選者ト爲ササル法意ト解スヘキモノ
トス(大正三年第九號同三年四月十六日第二部宣告)

●營業稅法中ノ製造業者ニ對スル課稅ノ件

一定ノ製造場ヲ設ケ職工勞役者ヲ使役シテ物品ヲ製造スル者カ其製
造シタル物品ヲ販賣スル場合ニ於テ販賣スル營業場カ製造場區域内
ニ在ルトキハ其販賣ハ營業法第四條第一項ノ製造業ノ範圍ニ包含セ

ラル、モノナルコトハ同法第二條ノ末項ニ依リテ明ナリ然レハ同法
第四條第三項ニ所謂職工勞役者ヲ通シテ二人以上ヲ使用セザル者ト
ハ前示ノ如キ場合ニ於テハ物品ヲ製造スルコトニ付使役スル職工勞
役者ノミナラス製造シタル物品ヲ販賣スルコトニ付キ使用スル職工
勞役者ヲモ通シテ二人以上ヲ使用セザル者ヲ指ス趣旨ナリト解スヘ
キモノトス(大正三年第三一號同三年四月二十三日第三部宣告)

●行政裁判法ノ件

退濟命令ノ取消ヲ求ムル訴ハ受理スヘキモノニアラス(大正三年第
八號同四年四月廿四日第一部裁決)

●市稅步一稅賦課ノ件

明治二十八年大阪市條例第一號第四條ノ土地建物賣買讓與ナル文詞
ハ(家督相續ノ場合ヲ除ク)原因ノ如何ヲ問ハス汎ク土地建物ノ所
有權移轉アリタル場合ヲ指スノ法意ナリト解スルヲ相當トス從テ會
社ノ合併ニ因リテ土地建物ヲ取得シタル場合ニ其土地建物ニ對シ賦
課シタル步一稅ハ適法ナリトス(大正二年第一六〇號大正三年四月
二十七日第一部宣告)

●縣稅賦課ノ件

縣稅戶數割ノ賦課ハ明治十三年太政官布告第一六號地方稅賦課規則
ニ依ルヘキモノニナシテ一戶ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコ
トヲ得ス故ニ他ニ同居シ自ラ變炊ヲ爲ササル者ハ縱令其ノ經濟ヲ異
ニシ獨立ノ生計ヲ營ムモ之ヲ以テ一戶ヲ構フルモノト云フヲ得サル
カ故ニ斯クノ如キ者ニ對シ其ノ賦課ヲ爲スハ違法ナリトス(大正三
年第四三號同年四月二十九日第一部宣告)

●家祿ノ件

舊藩ノ舊陪臣カ其舊主ヨリ受ケタル家祿ハ藩ノ直轄ト爲ラサル限リ舊陪臣ト其舊主トノ間ノ關係ニ止マリ明治三十年法律第五十號ノ適用ナキモノトス(明治四十二年第二七九號大正三年四月三十日第三部宣告)

●採掘出願不許可處分ノ件

鑛業法第三條ノ廢礦トハ一旦採掘シタル鑛物ニシテ未ダ採掘シタルコトナキ鑛物ト同様ノ狀態ニ於テ存在スルモノナリト解スルチ相當トス

所有權ヲ拋棄セサル多量ノ石炭ヲ併セテ採取スルニアラサレハ單ニ廢礦ノミヲ採掘スルコトノ不可能ナル採掘ノ出願ハ鑛業法第三二條ニ依リ公益ヲ害スルモノト認メラル、ニヨリ之ヲ許可スヘキニアラス(大正二年第一二九號同三年四月三十日第三部宣告)

●行政裁判法ノ件

漁業免許出願ニ對シ不許可處分ヲ受ケタルコトノ立證ナキ行政訴訟ハ之ヲ却下スヘキモノトス(大正二年第一六六號大正三年四月三十日第三部宣告)

●市會議員當選ノ效力ニ關スル件

市制第九條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スルノ義務ナルカ故ニ苟モ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スル以上ハ他人ノ監督干渉ヲ受クルト否トナ問ハス獨立ノ生計ヲ營ムモノト謂ハサルヘカラス

自己及妻子ノ生計ヲ維持スルニ足ルヘキ財産ヲ有スル者ハ反證ナキ

村會議員選舉ニ關シ單ニ投票ノ效力ヲ爭フニ止マラス當選ノ效力ヲ爭フ場合ニ於テハ選舉人ハ異議ヲ申立テ又ハ訴訟ヲ提起シ得ルモノトス(大正三年第三四號大正三年五月五日第二部宣告)

●村會議員當選效力ニ關スル件

其記載ノ字體及ヒ文字ノ排列上型ニ依リテ抽出シタルモノニシテ被選舉人ノ氏名ヲ自書スルコト能ハサル者ノ爲シタル投票ト認ムヘキトキハ町村制第二二條第六項ノ規定ニ違背シ無効タルヘキモノトス選舉擔務ニシテ誤字脱字アルモ其記載全體ヨリ選舉人ノ自書シタルモノニシテ且高岡悦太ヲ投票シタルモノト認メ得ヘキ投票ハ有效ナリ

高岡悦太ヲ選舉セシ意思ヲ明ニスル爲メ同一人ノ氏名ヲ二重ニ記載セシモノト認メ得ヘキ投票ハ町村制第二五條第一項第三號ニ恰當スルモノニアラス(大正三年第三六號大正三年五月五日第二部宣告)

●家祿ノ件

立藩中卒ノ家祿ヲ終身祿トスルコトハ藩主ノ權能ニ屬スルカ故ニ或者ノ家祿ヲ終身祿ト爲スモ特別ノ事由ナキ限りハ適法ナリト謂ハサルヘカラス

明治五年第二九號布告ハ卒ノ身分ニ關スル規定ニシテ家祿ニ變更ヲ及ホスヘキモノニアラサルカ故ニ終身祿ヲ有スル者カ該布告ニ依リ士族ニ編入セラルル場合ニ於テモ其終身祿カ變シテ永世祿ト爲ルヘキモノニアラス

明治七年終身祿ヲ奉還シタル者カ家祿四箇年分ヲ一時ニ給與セラレタルハ相當ナリ(明治四二年第二九五號大正三年五月六日第一部宣告)

限リ獨立ノ經濟ニ於テ生計ヲ營ムモノト認メサルヘカラス
同居同炊ノ事實ハ以テ經濟ノ獨立ナルヤ否ヤヲ別ツノ標準ト爲スニ足ラス(大正二年第二〇〇號大正三年四月三十日第二部宣告)

●町會議員選舉及當選ノ效力ニ關スル件

公簿ノ記載ニ異ナル所有者ハ土地ニ對スル課稅上公認スヘキモノニアラサルヲ以テ前戶主ノ土地カ其隱居ニ因リ家督相續人ノ所有ニ歸シタルモノトスルモ未ダ所有權轉移ノ登記ヲ經ス從テ未ダ土地臺帳ノ記載ニ異動ナキ以上家督相續人ハ未ダ其土地ノ所有者ト公認スルコトヲ得ス

死亡名義ノ財産ニ付家督相續人カ納付シタル税金ヲ家督相續人ノ納稅ト認ムルハ公簿ノ記載ニ異ナル所有者ヲ公認スルモノニ非サレハ之ヲ以テ隱居ニ依ル家督相續ノ場合ヲ律スルコトヲ得ス

町役場ニ對シ木炭賣却ノ一方ノ豫約ヲ爲シタルニ過キサルモノハ町村制第一五條第三項ニ該當スルモノニ非ラス(大正三年第一五號同五月二日第二部宣告)

●家祿ノ件

明治三十年法律第五〇號第二條ハ奉還シタル祿高ニ對スル明治九年八月太政官第一〇八號布告ニ依リ換算金額ト給與ヲ受ケタル資金額トノ差額ニ相當スル公債證書ヲ給與スル旨ノ規定ニアラス(明治四十二年第三二二號大正三年五月五日第二部宣告)

●村會議員當選效力ニ關スルノ件

町村制第一八條第一二項ノ規定ハ選舉權ノ行使ニ關スルモノニシテ被選舉權ニ關スルモノニアラス

告)

●土地收用審査會ノ裁決ニ關スル件

鑛津棄場ハ鑛業經營上最モ重大ナル利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ抗口下ノ極メテ便利ナル鑛津棄場ヲ減縮セララルコトハ即チ土地所有者トシテ鑛業經營ノ爲メ之ヲ利用スルノ利益ヲ失フモノナレハ其收用ニヨリ損害ヲ受クルモノト謂ハサルヘカラス
土地ノ收用ニ因リテ鑛津棄場ヲ減縮セラレタル爲メ受クル損失ノ補償ヲ求ムル者カ其損失額ノ標準ヲ示スノ旨趣ニテ棧橋架設費ヲ計上スルモ請求ノ原因不定ナリト云フヲ得ス又其申立ノ範圍一定セスト謂フヲ得ス

公道ニ鑛津ヲ落下セシメサル以上ハ自己ノ所有地内ニ鑛津ヲ投棄スルコトハ其ノ權能ニ屬スルモノト謂ハサルヘカラス
鑛業法第一一條ハ鑛業ヲ爲スコトノ制限ニ關スル規定ニシテ單ニ鑛津棄場トシテ土地ヲ使用スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス
土地收用ニ因リ從來鑛津ヲ投棄シ來リタル便利ナル場所ニ投棄スル利益ヲ失ヒ之ヲ他ノ場所ニ投棄スル爲メ特ニ何等カノ方法ヲ講セサルヘカラス情態ニ陥リタルトキハ其損害ハ收用ニ因リ直接ニ生シタルモノニシテ土地收用法第五四條ニ該當スル損失タルコト論ヲ須ダス

通常受クヘキ損失ナリヤ否ヤハ其ノ損失カ收用ノ爲メ通常ノ場合ニ於テ生スヘキ性質ノモノナリヤ否ヤニ依リ決スヘキモノニシテ土地所有者カ其土地ヲ利用スル方法ノ通常ナリヤ特殊ナリヤニ依リ決スヘキモノニ非ス故ニ土地所有者カ鑛業ヲ經營シ鑛津棄場トシテ現ニ其ノ土地ヲ利用シ居ル場合ニ於テ收用ノ結果當然之ヲ利用スルノ利

行政裁判所判決要旨

益ヲ失フモノハ之ヲ收用ニ因リ通常受クヘキ損失ト謂ハサルヘカラ

土地收用ニ因リ現在使用スル鐵道場ヲ減縮セラレタル爲メ必要ナ

土地收用ニ因リ現在使用スル鐵道場ヲ減縮セラレタル爲メ必要ナ

土地收用ニ因リ現在使用スル鐵道場ヲ減縮セラレタル爲メ必要ナ

土地收用審査會ノ裁決ニ關スル件

鐵道築堤ノ肩ト住家中最モ築堤ニ近接セル支間口トノ距離ハ鐵道線

土地收用審査會ノ裁決ニ關スル件

宅地ノ收用ニ因リ宅地ノ背後ニ經營セル果樹園ノ栽培施肥收穫等ニ

移轉地ノ開拓費ヲ請求スルノ理由ナキモノトス(大正二年第一七一

號大正三年五月六日第一號第一號第一號第一號第一號第一號第一號

村税賦課ノ件

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

町村制第一一三條第一項ハ町村長ノ職務上ノ規定タルニ止マルモノ

山林原野下戻ニ關スル件

御林トハ通常特種ノ官林ニ對スル稱呼ナレハ保爭地カ御林ニアラサ

山林原野下戻ニ關スル件

御林トハ通常特種ノ官林ニ對スル稱呼ナレハ保爭地カ御林ニアラサ

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

町村制第一一三條第二項ハ組合管理者ノ選定ニ付キ制限ヲ爲サザル

●鑛業權ニ關スル件

農商務大臣ニ對シ鑛業法第三〇條及第三八條ノ處分ヲ求ムル訴ハ鑛業法中ノテ許シタル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限リニ在ラス(大正三年第一〇五號大正三年五月十四日第三部宣告)

●所得稅課稅標準ニ關スル件

大正二年勅令第六五號ニ依ル改正前ノ所得稅法施行規則第三二條第二項ノ規定ハ一旦政府ニ於テ決定シタル所得金額ハ同條項ニ定ムル三箇ノ場合ノ外之カ變更ヲ許ササルノ法意ナリ
同條項ハ第一種所得ニモ適用セラルルモノトス(大正三年第六七、六八、六九、七〇號大正三年五月十六日第三部宣告)

●復祿ノ件

一世祿ハ性質上其祿ヲ有シタル者ノ死亡ト同時ニ消滅ス
立藩中ハ藩知事ニ於テ適宜ニ裁制ヲ變更改廢シ得ヘキ權限ヲ有シタルト認ムヘキモノトス
明治五年太政官布告第二九號ハ身分ニ關スル規定ニシテ其當時ニ於テ家祿ヲ有シタル者ニハ從前通之ヲ給與スト云フニ止マリ該布告實施當時ニ於テ既ニ家祿ヲ有セサル者ニ對シ更ニ家祿ヲ給與シ又ハ復舊スト云フカ如キ規定ニアラス(明治四十二年第四七〇號大正三年五月二十一日第三部宣告)

●家祿ノ件

主タル請求ニ加フルニ附帶ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ主タル請求ニ付テノミ判決アリタルトキハ附帶ノ請求ニ付テハ當事者ノ申立ノ有無ニ拘ラス裁判所ハ當然判決ヲ爲スヘキモノニシテ民事訴訟法第

二四二條ノ規定ハ之ニ準用スヘキモノニアラス

明治九年太政官第一〇八號布告及同第一五二號布告ニ依ル公債公債給與處分以前或年度ニ於ケル家祿給與不足ヲ理由トスル公債證書給與ノ請求ハ家祿賞典處分法第一條ノ範圍ニ屬セサルモノトス(明治四十二年第四七〇號大正三年五月廿一日第三部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

的確ニ被選舉人ヲ表示スル爲メ其住所ノ區域ヲ附記シタルモノト認得ヘキ投票ハ町村制第二五條第一項第六號ノ他事ヲ記入シタルモノニ該當セス(大正三年第五七號大正三年五月廿八日第二部宣告)

●裁判宣告書送達ニ關スル件

行政訴訟ニ付テハ裁判宣告書正本ノ送達ヲ要スルモノニアラス(明治四十二年第一二一號大正三年五月廿九日第一部決定)

●家祿ノ件

家祿給與不足額ノ請求ニ付テハ大藏大臣ニ出願シ其處分ヲ受ケタル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ス(明治四十二年第一二一號大正三年五月二十九日第一部判決)

●町村會議員當選效力ニ關スル件

町村會議員ニ當選シ其ノ當選確定シタル者ハ假令其被選舉權ノ要件タル町村住民ノ資格ニ缺クル所アルモ苟モ町村制第三五條第二項ニ規定セル町村會ノ決定ヲ經サル限り町村會議員ニアラスト謂フヲ得サルモノトス(大正三年第四九號大正三年六月二日第二部宣告)

●營業稅課稅標準ニ關スル件

營業稅課稅標準ノ算定ニ對シテハ營業稅法第二七條ニ依リ審査ヲ請

求シ其決定ニ對シ地方上級行政廳タル稅務監督局長ニ訴願シ其判決ヲ經タル上ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(大正三年第一二七號大正三年六月二日第三部宣告)

●市稅賦課ノ件

明治三十三年大坂市告示第六十九號特別稅營業稅及雜稅新設ノ件第三條ハ現實ニ國稅營業稅ヲ負擔セサル營業者ノ營業ニ對シ第二種營業稅ヲ賦課スルノ法意ニシテ賦課ト徵收トナ嚴格ニ區別シテ營業稅法第二一條ニ依リ國稅營業稅ヲ徵收セラレサル者ヲ除外シタルモノニ非スト解スルヲ相當トス
營業稅法第三六條ハ現ニ國稅營業稅ヲ納ムル者ニ對スル課稅ノ制限ニシテ之ヲ納メサルモノハ假令同法第二一條ノ國稅不徵收期間内ニ在ル營業者ト雖該條ノ適用ヲ受タヘキモノニアラス從テ第二一條ハ國稅營業稅ヲ徵收セザルニ止マリ其不徵收期間内ニ於テ其ノ營業ニ對シ地方稅ヲ賦課スルコトヲ禁ズル趣旨ニアラス(大正三年第五二號大正三年六月三日第一部宣告)

●漁業權ニ關スル件

漁業權ノ存續期間更新ノ申請ニ對スル處分ニ不服アル者カ違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスル以上漁業法第五五條ニ依リ出訴權ヲシト云フヲ得ス(大正二年第一五三號大正三年六月四日第三部宣告)

●村會議員失職ノ件

町村制第九條第二項ニ「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ」トアルハ處刑判決ノ言渡アリタルトキヲ指稱シタルモノニシテ該判決ノ確定シタルトキヲ指稱スルモノニアラス(大正三年第三九、四〇、四

行政裁判所判決要旨

一號大正三年六月四日第二部宣告

●用水利用ニ關スル件

水利組合法第五三條ニ依リハ水利組合ハ其營造物ヲ事業ノ妨害トナラサル範圍内ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得ル旨規定セララルルヲ以テ本件組合ノ如ク灌溉ヲ目的トスル組合カ其用水ヲ水車用ニ使用セシムルコトカ組合本來ノ目的ノ妨害ト爲ルヘキトキハ之ヲ使用セシムルコトヲ得サルモノトス而シテ本件組合規約第三九條ニ「在來ノ水車ハ本組合ノ承認ヲ經ヘシ」ト規定セルハ水利組合法第五三條ニ遵據シ水車ノ爲メニスル用水使用力組合ノ目的ノ妨害トナルヤ否ヤヲ審査シテ之ヲ承認スルト否トヲ決定セントスル趣旨ニ外ナラサルモノト解スヘキカ故ニ原告ノ水車ノ爲メニスル用水使用力灌溉ノ妨害ト爲ル以上其ノ承認願ニ對シテ承認セストノ處分ヲ爲シタルハ適法ナリ(大正元年第二五一、二五二號大正三年六月五日第一部宣告)

●家祿ノ件

藩制第二項及明治二年十二月布告ハ執レモ物成高ヲ以テ家祿ト爲スノ趣旨ニシテ現渡高ヲ以テ家祿ト爲スノ趣旨ニアラス
本支藩各異ナリタル藩制ヲ定メ得ヘキニ依リ支藩ノ藩制ヨリ必スシモ本藩ノ藩制モ同様ナルヘシト斷スルコトヲ得ス(明治四十二年第一六二號大正三年六月八日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

縣知事ノ定メタル工場汽機汽機取締ニ關スル規則ニ依リ肥料製造業者ノ工場ノ移轉ヲ命シタル場合ニ所定期間内ニ之ヲ移轉セザルトキ

●該工場設置許可失敗ノ旨ヲ定メタル處分ハ明治二十三年法律第六號ノ第三及ヒ第四ニ該當スル處分ニアラス從テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(大正三年第一二一號大正三年六月九日第三部判決)

●湯屋營業ニ關スル件

湯屋營業免許ノ許可處分ニ對シテハ明治二十三年法律第六號其他ノ法令ニヨリ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス
行政廳カ營業免許ノ許可處分ニ對スル訴願ヲ受理シ裁決スルノ慣例アリトスルモ營業免許ノ許可處分ニ對シ行政訴訟ノ提起ヲ許スノ理由ト爲スニ足ラス

明治三十三年石川縣令第三一號湯屋取締規則第一〇條ハ新タニ免許ヲ爲ス場合ニ對スル制限タルニ過キス(大正三年第九一號大正三年六月十三日第三部宣告)

●鑛業權登錄ニ關スル件

現行法令中鑛業權ニ關スル登錄ニ付キ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ(大正三年第一三六號大正三年六月十三日第三部判決)

●縣稅戶數割賦課ノ件

甲村ニ於テ一戸ヲ構フル者ハ他ニ住家ヲ構フルモ甲村ニ於ケル構戶ノ事實ニ變更ナキ限りハ甲村ニ於テ之ニ對シ縣稅戶數割賦課シ得ヘキモノトス(大正三年第五八號大正三年六月十七日第一部宣告)

●地方稅賦課ノ件

一定ノ材料又ハ燃料ヲ支拂ヒ他ニ止宿スル者ハ獨立ノ生計ヲ營ムト否トニ拘ラス戸ヲ構ヘタルモノト云フヲ得ス(大正三年第七一號大

正三年六月十七日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

村役場ノ位置變更ニ關スル不許可處分ニ付テハ現行法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ(大正三年第一三〇號大正三年六月十八日第二部宣告)

●家祿ノ件

明治七、八年中家祿ヲ奉還シ明治六年太政官第四二六號布告又ハ明治七年大藏省乙第四二號ニ基キ相當ナル給與ヲ受ケタルキハ其ノ處分ハ適法ナルヲ以テ其給與額ト明治九年第一〇八號布告ニヨル給與額トノ間ニ差異アリトスルモ其ノ差額ハ明治三十年法律第五〇號ニ基キ請求スルコトヲ得サルモノトス

明治四十二年法律第二一號ニ依ル出願ヲ爲ササル者ハ明治三十年法律第五〇號ニ基キ訴訟ヲ提起スル權利ナキモノトス(明治四十三年第二號大正三年六月十九日第一部宣告)

●府稅賦課ノ件

府縣制第一〇七條ニ所謂「府縣外ニ於テ所有スル物件」ナル文詞ニ於ケル所有ノ場所ノ意義ハ課稅ノ目的タル所有物件ノ存在スル場所ヲ指スモノニシテ船舶ノ所有場所ニ付テモ特ニ之ト異ル解釋ヲ爲スヘキ理由ナキニ依リ單ニ船舶港ナルノ故ヲ以テ其ノ所有ノ場所ト爲スヘキモノニアラス(大正三年第七九號大正三年六月十九日第一部宣告)

●縣稅戶數割賦課ノ件

府縣制第一〇九條ニ基キ設ケタル長崎縣稅賦課方法第二條ハ縣稅戶

數割ノ賦課方法ニ付テハ市町村會ノ議決ニ一任シタルカ故ニ市町村會ハ其ノ適當ト認ムル方法ニ依リ各納稅義務者ノ等差ヲ設ケ其賦課額ヲ決定スルノ權限ヲ有ス故ニ竹敷村會カ其ノ適當ト認ムル方法ニヨリ各納稅義務者ノ生活狀態ヲ觀察シテ等差ヲ設ケ負擔額ヲ議決シタルハ適法ノ措置ニシテ其議決ニ遵據シタル縣稅ノ賦課亦適法ナリ前年度ニ比シ多額ノ縣稅戶數割賦課セラルルモ納稅義務者ノ財產又ハ所得力増加セシ且縣稅戶數割一戸平均額前年度ニ比シ減少シタル事實アルモ之ヲ以テ直チニ其增課ハ錯誤ニ出テタルモノナリト謂フヲ得ス(大正三年第二二、乃至二六號大正三年六月二十二日第一部宣告)

●村稅滯納處分ニ關スル件

督促狀ニ一定ノ曆日ヲ示シテ納付期限ヲ定メタル場合ニ於テ督促狀ノ公示送達力効力ヲ生シタル日ニハ既ニ督促狀ニ指定シタル納付期限ヲ經過シ居ルトキハ期限ヲ指定セザルト何等擇ム所ナキカ故ニ其ノ督促ハ法律上効力ヲ有スヘキモノニアラス(大正三年第八八號大正三年六月二十二日第一部宣告)

●漁業免許ノ件

甲村漁民ト乙浦漁民トノ入會稼場ナルコトノ慣行アル同一區域ニ付キ甲乙ノ兩漁業組合カ執レモ明治三十五年農商務省令第七號漁業法施行規則第七條但書ノ漁業ニ該當スル漁業免許ヲ出願シタル場合ニ正當ノ理由ナクシテ行政官廳カ一方ノ出願ヲ拒否シ他方ノ出願ヲノミ免許シタルハ拒否セラレタルモノノ權利ヲ侵害スル違法ノ處分ナ

右ノ場合ニ於テ相當ノ制限ヲ附スレハ兩者ノ出願漁業ヲ兼行シ得ヘキモノナルトキハ同等ノ制限ヲ附シテ兩者ノ出願ヲ共ニ免許スヘキモノトス(明治四十二年第九五號大正三年六月二十五日第三部宣告)

●家祿ノ件

立藩中藩主ハ懲罰處分ニ依ルモノヲ除クノ外任意ニ廢祿處分ヲ爲スノ權限ヲ有シタルモノトス(明治四十二年第三三二號大正三年六月三十日第二部宣告)

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル件

數名ノ遺產相續人中其一名ノ生存明確ナルトキハ其他ノ者ノ生死不明ナリトスルモ民法第一〇五一條ノ規定ヲ適用スヘキモノニアラス選舉會場ノ障壁不完全ナル爲メ外部ヨリ其模樣ヲ窺フコトヲ得且選舉權ヲ有セサル者多數侵入シ爲メニ會場ノ喧擾ヲ來タシタル事實アリトスルモ選舉權ノ行使ヲ妨ケ投票ヲ爲ササラシメ又ハ選舉權ヲ有セサル者カ投票ヲ爲シタル事實ナキ以上選舉取消ノ理由ト爲ラス投票用紙粗薄ノ爲メ被選舉人ノ氏名ヲ透見シ得トスルモ町村長ニ於テ之ヲ用紙ト定メタル以上町村制第二五條第一項第一號ニ該當スルモノト謂フコトヲ得ス

●所得金額決定ニ關スル件

被選舉人氏名ノ一部ヲ殊更ニ大書シタル投票ト雖モ町村制第二五條第一項第六號ニ該當シ若シクハ無記名投票ノ制度ニ違反スルモノト云フヲ得ス(大正三年第六三號大正三年六月三十日第二部宣告)
稅務署長カ決定シタル所得金額ハ所得稅法第三七條第三九條第四一條ノ結果ニ依ルノ外之ヲ變更スルコトヲ得ス(大正三年第九二號大

正三年六月三十日第三部宣告

●營業禁止ニ關スル件

大正二年十二月十九日發布奈良縣令第五一號舊妓及藝妓置屋取締規則ニ違反シタルコトニ基ク同規則第八條ニ依ル營業禁止ノ處分ハ同規則第九條ニ依リ處罰セラレタル者ニ對スルニアラサレハ之ヲ爲シ得サルモノニアラス(大正三年第一一〇號大正三年六月三十日第三部宣告)

●家祿ノ件

明治三十二年法律第八十四號第一條第二號但書「但各藩ニ於テ定メタル額度中他日ノ改正ナリタルモノハ之ヲ間ハス」トノ意義ハ假令最後ニ定メタル制度中他日ノ改正ナリタルモノアルモ其他日ノ改正ハ之ヲ間フコトナク全然之ヲ最後ニ定メタル制度トシテ調査ノ標準ト爲スヘキノ趣旨ト解スヘク從テ原告ハ適法ナル最後ノ額制ニ準據シテ殊高ノ給與ヲ受ケタルモノニシテ家〇祿不足額ノ給與ヲ請求シ得ヘキ理由ナシ(明治四十二年第三一二號大正三年七月四日第三部宣告)

●漁業權ニ關スル件

同一漁場ニ付キ漁業權存續期間更新ノ免許申請ト漁業組合新規免許ノ出願トカ競合シ期間更新申請者カ從來單ニ形式上漁業權者タル名義ヲ有シタルニ止マリ實質上主トシテ其組合ノ利益ノ爲メニ其漁業權ヲ享有行使シタリト認ムヘキ關係アル場合ニ於テ其組合ノ出願ニ對シ免許スル爲メ更新申請ノ免許ヲ拒否シタル處分ハ漁業法施行規則第一七條第一項「公益上必要ト認ムルトキ」ニ該當スル適法ノ處

獨立ノ生計ヲ營ム者ニアラスト謂フヲ得ス(大正三年第七二號大正三年七月九日第二部宣告)

●家祿ノ件

額制ヲ改正シ殊高ヲ削減シタル場合ニ於テハ縱令其目的單ニ舊價償却ニ在リタリトスルモ其削減額ハ明治五年第二百二十六號布告ニ所謂家祿ヲ以テ差出來候分」ニ該當セス從テ士卒ノ家祿ハ該布告ニ依リ額制改正前ノ殊高ハ復舊シタルモノト謂フコトヲ得ス
家祿賞典處分法施行第一條第二號但書「各藩ニ於テ定メタル額度中他日ノ改正ナリタルモノハ間ハス」トアルハ藩政當時某藩ノ制定シタル額制ニ依テ他日之ヲ改正スヘキ旨ヲ表示シタルモノト雖モ其表示ヲ不問ニ付シ廢藩置縣ノ際現ニ行ハレタル額制ヲ標準トシ殊高ヲ調査スヘシトノ法意ナリトス(明治四十二年第五〇號大正三年七月十日第一部宣告)

●醬油稅不當課稅ノ件

醬油稅期ハ醱酵作用ニ因ル醱成物ニ限リテ課稅スルノ規定ナルヲ以テ原告ノ自認スル「ニール」溜仕込法ノ原料ニ少許ノ醬油ヲ加ヘ製造シタルモノハ稅則ニ所謂溜トス
右ノ物件ハ醬油ヨリ醬油製成ノ一操作トシテ醬油粕ニ鹽水ヲ加ヘ攪取セル香醬油ト認ムヘキニアラス
稅則第二條ノ例外規定トシテ犯則ニ係ル醬油ニ課稅セサル旨趣ノ規定ナシ

稅則第七條ハ同第五條ノ例外規定ト解スヘク原料トシテ使用セル醬油ノ造石稅金ニ相當スル金額ヲ其製品ニ對スル造石稅金ヨリ控除シ又ハ其金額ヲ還付スヘキコトヲ規定シタルモノニアラス(大正三年

分ナリ

漁業權存續期間更新免許申請ニ異議ナキ其漁場附近漁業者ト申請者トノ間ニ協定アルモ其協定ハ處分ノ權限アル官廳ニ對シ拘束力ナキモノトス(大正二年第二三九號大正三年七月四日第三部宣告)

●市會議員當選ノ效力ニ關スル件

公務ニ從事スル者ハ勤務地ニ居住スルノ義務ヲ有スルニヨリ反證ナキ限り勤務地ヲ以テ生活ノ本據地ト認メサルヲ得ス
諸種ノ寄附ヲ爲シタルコト、恩給ヲ受取リタルコトト納稅ヲ爲シタルコトト家族ヲ居住セシメタルコト等ノ事實ハ必スシモ生活ノ本據ヲ定ムルノ標準ト爲スニ足ラス(大正二年第二五三號大正三年七月四日第二部宣告)

●行裁判法ノ件

郡長カ原告町ニ屬シ尋常小學校ノ設置維持ニ關スル費用負擔ノ爲メ學區ヲ設置シ其使用スヘキ小學校ヲ指定シタル處分ニ關シテハ行政訴訟ヲ許シタル法令ナキヲ以テ其取消ヲ求ムル訴訟ハ受理スヘカラサルモノトス(大正三年第一三八號大正三年七月六日第一部判決)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

町村制第七條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スルノ義ナルカ故ニ苟モ自己ノ經濟ニ於テ生計ヲ維持スル以上ハ家族タルト同居同炊ヲ爲スト否トナ間ハ獨立ノ生計ヲ營ムモノトス
明治四十三年福島縣稅賦課規則ニ依レハ戶數制ハ獨立ノ生計ヲ營ムモノニ屬シ之ヲ賦課スルノ規定ナキヲ以テ戶數制ヲ納メサルモノハ

第五一號大正三年七月十一日第二部宣告)

●村會議員選舉ノ效力ニ關スル件

町村制第三二條ノ規定ハ選舉規定違反ノ爲メ選舉ノ結果ノ全部ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ハ選舉ノ全部ヲ無効トシ選舉結果ノ一部ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ハ選舉ノ一部ヲ無効トスルノ趣旨ナリ(大正三年第一二〇號大正三年七月六日第二部宣告)

●村稅滯納處分ノ件

町村制第八〇條ニ依レハ町村ノ出納ハ收入役ノ管掌スル所ニシテ區長ハ町村稅ヲ收入スルノ權限アルモノニアラス又町村稅ハ現實ニ納付スルコトヲ要スルモノニシテ他ノ權利ト相殺スルハ町村制ノ許サル所ナルヲ以テ村稅ヲ區長ニ納付スルノ慣例又ハ區長在職者ノ納付スヘキ村稅ヲ區長報酬ト相殺スルノ慣例アレハトテ區長ニ稅金ヲ納付シタル者ヲ以テ納稅義務ヲ了シタモノト爲シ又ハ區長タル納稅義務者ヲ以テ相殺ニ因リ其義務ヲ免レタルモノト爲スコトヲ得ス
納稅有ノ住所ニ於テ未成年者ト雖モ相當智能アル同居ノ家族ニ監視狀ヲ交付シタルトキハ送達ノ效力アルモノトス
滯納者所有ノ土地一筆ニ付キ差押處分ヲ爲シタル場合ニ於テ差押フヘキ物件他ニ存在シ若シクハ差押物件ノ價額カ滯納金額ヲ超過シタレハトテ之カ爲メ處分ヲ違法ナリト謂フコトヲ得ス
土地ヲ差押フルニ當リテハ立會人ヲ要スルモノニアラス
土地差押登記囑託ノ手續ヲ缺キタレハトテ差押處分ヲ無効ナリト爲スコトヲ得ス(大正三年第四二號大正二年七月十三日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

家賃賞典課處分法第一條及第二條ハ明治九年大政官第百八號布告令第百五十二號布告又ハ明治六年大政官第四百二十五號布告全第四百三十六號布告ニ據ル給與處分ノ際明治四年七月二十四日課高ニ關スル太政官布告ニ依リ調査シタル以後ノ課高及ヒ其調査以前ニ係ル課高ニ關スル太政官布告ニ依リ調査アリ前記第百八號第百五十二號又ハ第四百二十五號第四百二十六號布告ニ據ル相當給與ヲ受ケサリシ者ヲ救済スルノ旨趣ニシテ右給與處分以前或年度ニ於テ受クヘシラシ家族ノ給與ニ不足アリシ者ヲ救済スルニ旨趣ニアラス(明治四十二年第五六一號大正三年七月二十四日第一號布告)

●河川使用ニ關スル件

甲者ニ對スル官有河川使用許可處分ノ當時既ニ乙者ノ權利カ存在シタリトスルモ乙者カ當時其權ヲ主張セサリシカ爲メ縣知事ハ乙者ニ關スル權利ヲ留保スルコトヲ甲者ニ許可シ與ヘ而モ其許可處分カ確定シタルトキハ乙者ハ後日ニ至リ右ノ權利ヲ理由トシテ甲者ニ對スル許可處分ト兩立トスヘカラサル處分ヲ請求シ得ルモノニアラス

明治二十三年勅令第二百七十六號ノ規定ニ依レハ官有河川ハ公營ナキ場合ニ限り使用ヲ許可スヘキモノナルモ甲者ニ對スル許可處分カ乙者ノ權利ヲ害スレハトテ之ノミヲ以テ直ニ公益ヲ害スルモノト爲スコトヲ得ス(大正二年第二四四號大正三年七月二十四日第一號布告)

●縣稅戶數割賦課ノ件

十月一日現在ニ依リ賦課スヘキ縣稅戶數割ヲ其當時構戶ノ事實ナキ

明治三十八年新潟縣令第二十四號公共團體又ハ私人ニ於テ經營スル土木工事ニ關スル規程ハ必スシモ單ニ出願工事カ公安上害アリヤ否ノミヲ審査シテ許可ノ處分ヲ爲スノ旨趣ナリト解スルコトヲ得ス

原告部落ニ對シ相當手續ヲ履行スルコトヲシテ水路ノ附換並架橋工事ヲ施行スルノ權利ヲ縣知事カ鐵道會社ニ與ヘタル場合ニ於テ其工事カ原告部落ノ權利ヲ侵害スルモノナルトキハ右許可處分ハ違法ナリトス(明治四十五年第一二五號大正三年七月二十九日第一號布告)

●縣稅賦課ノ件

寺院ノ住職カ單身起臥スルニ過キスシテ自ラ炊爨ヲ爲ス者ト認ムヘカラサル場合ニ於テハ一戶ヲ構フル者ト云フヲ得ス(大正三年第二八、四八號大正三年七月二十九日第一號布告)

●滯納處分ノ件

國稅徵收法ニ依ル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法施行規則第十條ニハ單ニ「使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ」トアルノミヲ以テ書留郵便ニ依ラサルヘカラサルモノト謂フコトヲ得ス國稅徵收法第三號ノ規定ハ債權者カ其先取權ヲ行使センカ爲メ公正證書ヲ以テ抵當權設定ノ事實ヲ證明シタル場合ニ限り其適用アルモノトス從テ單ニ差押財産ニ付キ抵當權設定ノ登記ヲ了シテ其事實ヲ知リ得ルモノタルノ故ヲ以テ債權者ハ其債權ニ付キ國稅ニ對シ先取權ヲ有スルモノト謂フコトヲ得ス(大正三年第四七號大正三年七月二十九日第一號布告)

●土地收用ニ關スル件

地上物件ニ付キ起業者カ何等ノ申立ヲ爲サス土地所有者亦之ニ付キ行政裁判所判決要旨

者ニ對シ賦課シタルハ違法ナリ(大正三年第八七號(大正三年七月二十四日第一號布告))

●營業稅課稅標準決定ノ件

營業稅法第二八條ノ一ノ決定ニ對シテハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニアラハレ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(大正二年第七四號大正三年七月二十八日第三號布告)

●家祿ノ件

明治二年十二月二日布告廢制ノ元祿トアルハ同布告規則第二項ノ規定ニ依リ當時現ニ給與ヲ受ケル課高ト解スヘキモノナルヲ以テ明治元年八月二十二日ノ領將府達ニ依リ課米ヲ支給セラレタル者ニ付テハ其課米ハ即チ同布告廢制ノ元祿ニ該當ス(明治四十二年第三一〇號大正三年七月二十九日第一號布告)

●家祿ノ件

村松藩ニ於テハ明治三年十月課利ノ改革アリタルモノト認定ス

課利改革ノ届出アルノミナラス他ノ證據ニモ改課ノ事實ヲ認ムルニ足ルヘキ記載アルトキハ家族支給ノ割合又ハ改課ノ標準等詳細ノ届出ナシトスルモ課利ノ改革ナシト謂フヲ得ス

藩制第二項ハ從來ノ形式的ナル唱高ヲ發シ現實給與セラルヘキ石高ヲ稱ヘシムル旨趣ニシテ必スシモ各藩ニ行ハレタル四ツ物成又ハ三ツ物成等ノ制度ニ基キ家祿高ヲ稱ヘシムルノ旨趣ニアラスト解スヘキニ依リ課高帳ニ現給與高ヲ掲ケタルハ藩制違反ニアラス(明治四十二年第四〇七號大正三年七月二十九日第一號布告)

●用水路ニ關スル處分ノ件

意見書ヲ提出セサルトキハ審査會カ之ニ付キ裁決ヲ爲ササルハ相當ナリ

土地收用法第四一條ハ當事者ノ申立範圍ヲ越エテ裁決スルコトヲ禁止スルニ止マルカ故ニ同法第二四條ノ手續ヲ爲シタルニ拘ラス土地所有者又ハ關係人ヨリ意見書ヲ提出セサルトキハ審査會ハ起業者ノ申立範圍内ニ於テ裁決スルコトヲ得ヘシ

起業者カ裁決申請書ニ添附シタル書類中同一收用地ノ坪數ヲ表示スヘキ二個ノ記載アリ其一方カ右書類ニ示シタル計算上誤謬ナルコト明ナル場合ニ於テ其誤レル坪數ヲ掲ケテ收用地ノ區域トナシタル裁決ハ收用地ノ區域ヲ明確ニ定メサルモノニシテ違法ナリ(大正三年第一二四號大正三年七月二十九日第一號布告)

●既納地租還付請求ノ件

稅務置長ノ處分ニ對シテハ先ツ地方上級行政廳タル稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニアラサレハ出訴スルコトヲ得サルモノトス(大正三年第一六九號大正三年九月八日第三號布告)

●行政裁判法ノ件

明治三十八年勅令第五十七號ニ依リ鹽使用證明及ヒ交付金下付ノ取消處分ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ス(大正三年第一六二號大正三年九月十一日第一號裁決)

●行政裁判法ノ件

行政裁判所ノ裁決ニ對シ再審ヲ求ムル訴ハ受理スヘカラサルモノトス(大正三年第一七四號大正三年九月十一日第一號裁決)

●營業拒否ノ件

新潟縣令第六六號原動機取銷規則第十四條ニ依ル使用禁止處分ニ付法令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ(大正三年第一七三號大正三年九月十二日第三部判決)

●家祿ノ件

舊仙臺藩ハ明治元年一旦滅藩ト爲リ新封後藩士ノ權利ヲ制定セザリシモノト認ムヘキヲ以テ公債證書ヲ支給スヘキ云々(キモノトス)(明治四十二年第六三八號大正三年九月十九日第三部宣告)
明治四十二年二月二日布告祿制ハ朝臣ニノミ適用アル法規ニシテ舊幕臣ト爲リタルニアラサルニ於テハ該布告ノ適用ヲ受クヘキモノニアラス(明治四十二年第六四九號大正三年九月二十六日第三部宣告)

●織物消費稅徵收ノ件

織物消費稅第一七條ハ罰金ニ處セラレタルコトナ同條ニ依ル織物稅徵收ノ要件ト爲スモノニアラス
罰法裁判所ノ刑事判決ニ於ケル認定ハ行政廳ノ課稅行爲ヲ覆束スルモノニアラス(大正元年第二二〇號大正三年九月二十六日第三部宣告)

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル件

投票記載中多少其字畫ニ誤アルモ之ヲ以テ直チニ被選舉人ノ氏名ヲ書スル能ハサルモノノ投票ト云フヲ得ス
投票中書損シテ抹消シタル文字アルモ之ヲ以テ他事ヲ記入シタル投票ト云フヲ得ス(大正三年第八九號大正三年九月二十六日第二部宣告)

●町會議員選舉效力ノ件

本カ士族ニ編入セラレタルハトテ其身分カ士族ト爲リタルニ止マリ之カ爲メ舊卒ハ舊士ト同一ノ標準ニ依リ其階高定マルコト、爲ルモノニアラス(明治四十三年第一號大正三年十月八日第三部宣告)

●所得金額決定ノ件

大正二年法律第十三號ニ依ル改正前ノ所得稅法第四條第一項第三號ニ所謂手當金ハ稅務署長カ決定當時ノ狀況ニ從ヒ豫算年額ニ依リ其金額ヲ算出スヘキモノトス
鐵道院ヨリ受ケル慰勞賞與金ハ其性質臨時偶發的ノモノニアラスシテ其金額ヲ豫定シ得ルモノナレハ之ヲ所得稅法ニ所謂手當金トシテ第三種所得ニ計算スヘキモノトス(大正二年第一一號大正三年十月十三日第三部宣告)

●鑛業權ニ關スル件

甲ニ對スル探掘許可處分ノ取消ニ付テハ出訴期間内ノ提起ナルモ其探掘許可處分ノ基本タル甲ニ對スル試掘許可處分及乙ニ對スル試掘不許可處分ノ取消ニ付キ既ニ出訴期間經過後ニ屬スルトキハ乙カ前示探掘許可處分ノ取消ト共ニスル場合ニ於テモ前示試掘ノ許可及ヒ不許可兩處分ノ取消ヲ求ムル訴ハ行政裁判法第二七條第一項ニ依リ之ヲ却下スヘキモノトス(判例變更)

鑛業法第九三條第二項ニ「其告示ノ日ヨリ起算ス」トアル其告示ハ訴訟ヲ提起シ得ヘキ各個ノ處分ニ付テノ告示ヲ指稱スルモノトス(大正三年第一一八號大正三年十月十三日第三部宣告)

●所得金額決定ノ件

所得稅法第三九條所得金額ノ決定ニ對シ不服アル者ハ行政訴訟ヲ爲
行政裁判所判決要旨

單ニ當選者ノ得票ヲ爭フニ止マルモノハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關スル訴訟ト云フヲ得ス(大正三年第九〇號大正三年九月二十六日第二部宣告)

●町稅戶數割附加稅賦課ノ件

町稅戶數割附加稅ハ單身他人ノ家ニ止宿スル者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得ス
縣稅戶數割ノ賦課トカ附加稅ノ賦課トハ各別個ノ處分ニシテ共ニ構戶ノ事實ヲ要件トスルモノナルニ依リ單ニ本稅ヲ納付シタリトノ事實ヲ以テ附加稅ノ賦課ニ對スル異議ノ申立ヲ除外スルノ理由ト爲スコトヲ得ス(大正三年第一五三號大正三年九月三十日第一部宣告)

●家祿ノ件

明治三十年法律第五十號第四條但書ノ期間内ニハ法定代理人ナキ幼者ナリシ者ト雖モ該期間經過後ニ至リ同法ニ據ル公債證書給與ノ請願ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(明治四十二年第二二〇號大正三年十一月第三部宣告)

●家祿ノ件

藩制施行中ハ藩主ハ朝裁ヲ經ルコトヲ適宜士卒ノ給祿ヲ増減スルノ權限ヲ有シタルモノトス
藩ヨリ辨官ニ對シ祿制ノ届出アル以上ハ反證ナキ限り其祿制ハ適法ニ制定施行セラレタルモノト認ムルヲ相當トス(明治四十二年第六四七號大正三年十月三日第二部宣告)

●家祿ノ件

明治三十年十月施行ノ俵倉藩藩制節目ハ同藩最後ノ祿制ナリトス

スコトヲ得トノ規定ハ政府ノ決定ニ不服アル者ニ限りテ行政訴訟ノ提起ヲ許シタルモノト解スヘシ
所得源泉ニ付テ異議アルモ所得金額ニ付テ異議ナク被告ノ決定金額ト同額ヲ以テ自己ノ所得ナリト主張スル者ハ同條ニ所謂所得金額ノ決定ニ不服アル者ト云フヲ得ス(大正二年第七〇號大正三年十月十五日第三部宣告)

●取引所解散ニ關スル件

行政裁判法第一七條第二項ハ行政訴訟提起ノ手續ニ關スル規定ニシテ行政訴訟ヲ提起シ得ル事項ノ規定ニヨラス
會員組織ノ取引所解散命令ハ明治二十三年法律第六六號ニ所謂營業免許ノ取消ニ關スル處分ナリトス
會員組織ノ取引所於自身カ日ハカリナル行爲ニ關與セサルモ取引所内ニ於テ日ハカリナル行爲カ行ハルコトヲ取引所ノ理事カ容認シタリト認ムヘキトキハ會員組織ノ取引所ノ定期取引カ轉賣買戻ノ實行ヘリト認ムヘキモノトス從テ原告ハ會員組織ノ取引所ニ對スル禁止ヲ犯シタルノ責ニ任サルヘカラス(大正二年第九八號大正三年十月十五日第三部宣告)

●町會議員當選ノ件

主トシテ町村ニ對シ請負ヲ爲ス法人トハ町村ニ對スル請負ヲ以テ其業務ノ主要ナル部分ト爲ス法人ヲ指稱スルモノトス(大正三年第一四五號大正三年十月十五日第二部宣告)

●町會議員當選效力ニ關スル件

町會ノ決定ニ對シ訴訟セントスルトキハ決定廳タル町會ヲ經由セ

サルヘカラス
訴願書ノ經由ニ當レル町村會ノ議長タル町村長カ町村會ノ議ニ付ス
ルコトナク且其辨明書ヲモ添附セスシテ上級行政廳ニ進達セシタリ
トスルモ訴願人カ經由ノ手續ヲ怠リタルモノト謂フヲ得ス(大正三
年第一七一號大正三年十月十五日第二部宣告)

●縣稅賦課ノ件

府廳制第一〇九條第一項ニ依リ縣稅戶數割賦課方法ヲ市町村會ノ議
決ニ一任シ之ニ基キ町會ノ議決ヲ以テ其賦課ニ付キ各納稅者ノ諸收
入ヲ調査シ貧富ノ程度ヲ參酌シ等級ヲ五十等ニ分チテ毎戶ニ賦課ス
ト定メタル場合ニ在リテハ各納稅者其收入及貧富ノ程度ニ依リ町會
ノ見ル所ヲ以テ相當トスル等級ニ編入スヘク從テ同一等級ニ編入セ
ラル、者ノ間ニ於テモ收入及貧富ノ程度ニ差アルコトヲ免レス
府廳會ノ議決ヲ以テ戶數割ノ賦課方法ハ毎年市町村會ニ於テ議決ス
ヘキモノト定メタル以上ハ縱令納稅者ノ收入及貧富ノ程度前年ヨ
リ低減セル場合ト雖モ其年度ニ於テ町會カ新ニ議決セル賦課方法ニ
依リ等級ヲ昇シ賦課額ヲ增加セル點ノミヲ以テ其賦課ヲ失當ナリト
云フヲ得ス(大正三年第八號大正三年十月十九日第一部宣告)

●水利ニ關スル件

土地收用法第九條ニ基キ爲シタル河ノ流水量調査ノ許可處分ニ依リ
其河ノ流水飲用權ヲ違法ニ侵害セラレタリト主張スル訴ハ明治二十
三年法律第六六號ニ所謂水利ニ關スル事件ニ付キ行政廳ノ違法處分
ニ由ル權利ヲ毀損セラレタリトスル訴ニシテ適法ナルモノトス
出訴期限ハ行政處分ヲ受ケタル當事以外ノ者ニ付テハ其處分ノアリ
タルコトヲ知リ又ハ知り得ヘキ日ヨリ起算スヘキモノトス

テレタル者選舉前準禁治産ノ宣告ヲ取消サレタル上ハ自ら投票ヲ爲
シ得ヘキハ勿論之ヲ當選者ト爲シタルモ違法ニアラス(大正三年第
一三七號大正三年十月二十九日第二部宣告)

●仙臺藩割渡山林下戻ノ件

舊仙臺藩主カ明治二年十月ヨリ翌三年五月迄ノ間ニ於テ一等士族及
二等士族ニ對シ其ノ管内ノ山林原野ヲ割渡シタルハ開拓ノ條件ト
シ開拓成就ノ上ニアラサレハ所有權ヲ取得セシメサルノ趣旨ナルヲ
以テ開拓ヲ爲ササル者ハ所有權ヲ取得スヘキモノニアラス(明治三
十七年第一一一七號乃至一三三三號及第一三四條乃至一三三三號大正
三年十一月三日第三部宣告)

●行政裁判法ノ件

處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セスシテ提出シタル訴願ハ法定ノ手續
ニ違背スルモノナルヲ以テ裁令後日其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由
シテ其補正書ヲ提出スルモノニ依リ訴願ヲ適法ト爲シ得ヘキモノニ
アラス(大正三年第一四〇號大正三年十一月三日第二部宣告)

●家祿ノ件

藩士ヨリ給與セラレ藩ヨリ給與セララルルニアラサル家祿ハ該藩士ト
之ヲ受ケタル者トノ間ノ關係ニ止マルモノトス(明治四十二年第四
二二號大正三年十一月五日第三部宣告)

●村會議員選舉ニ關スル件

型ニ依リ提出シタリト認ムヘキ投票ハ被選舉人ノ氏名ヲ自書スルコ
ト能ハサル者ノ記シタル投票ト認ムヘキモノニシテ無効トス(大正
三年第一四七號大正三年十一月五日第二部宣告)

訴訟ニ依リ取消ヲ求ムル目的カ消滅シタルトキハ其請求ハ理由ナキ
ニ至リタルモノトス(大正二年第一七三號大正三年十月二十三日第
一部宣告)

●村會議員當選效力ノ件

町村制第一五條第四項ノ規定ニ依リ年長者當選者ト爲リタルトキハ
其他ノ者ハ之ヲ當選者トセサルノ法意ナルヲ以テ其補充ニ付テハ町
村制第三四條第一項ノ規定ヲ適用スヘク同條第三項ノ規定ヲ適用ス
ヘキモノニアラス(大正三年第一六八號大正三年十月廿四日第二部
宣告)

●市會議員選舉ニ關スル件

市制第九條ノ適用上ニ於テハ當該官廳ノ決定以前ト雖モ當該年分法
定ノ所得金額ナキコト明カナル者ハ從令前年分法定ノ所得稅額ヲ納
メタル者ト雖モ當該年分ノ所得稅ヲ納ムル者ニアラス而シテ前年分
法定ノ所得稅ヲ納メタル者ニシテ事實上當該年分法定ノ所得額ヲ
納ムヘキ者ハ之ヲ當該年分ノ所得稅ヲ納ムル者ニアラスト謂フヲ得
ス(大正三年第四號大正三年十月廿七日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

無資格者ヲ選舉人名簿ニ登錄シタルカ爲メ級別ニ異動ヲ生スヘキ事
實アルモ確定名簿ト爲リタル以上ハ之ニ依リテ選舉ヲ行ヒタルハ違
法ニアラス
二級選舉ニ於テ違法投票ノ事實アリトスルモ一級選舉ニ於ケル當選
ノ效力ニ關スル訴訟ニ關係ナシ
町村制第一二條二項ニ該當スル準禁治産者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セ

●國有民有境界査定ニ關スル件

境界査定處分ニ依リテ自己ノ所有地ヲ侵サンタクト主張スル者ニア
ラサル以上ハ出訴スルノ權利ヲ有セス(明治三十九年第三五號大正
三年十一月七日第二部宣告)

●戶數割賦課ノ件

一定ノ宿料又ハ賄料ヲ支拂ヒ他ニ止宿スル者ハ獨立ノ生計ヲ營ムト
否トニ拘ラス戶ヲ構ヘタルモノト云フヲ得ス(大正三年第一七八號
大正十一月十三日第一部宣告)

●所得金額決定ノ件

甲ノ所有スル田ノ所有權ノ二分ノ一ヲ明治四十一年中乙ニ讓渡シ同
年中ニ登記ヲ了シタルコト明カニシテ甲が其土地ノ所得全部ヲ取得
シタルモノト認メ得ヘカラサル場合ニ於テハ第三種所得決定當時明
治四十三年分ニ就テハ縱令土地臺帳ニハ甲ノ所得名義ナリトスルモ
其ノ所得ノ二分ノ一ノミヲ甲ノ所得ニ計算スヘキモノトス
收入シタルコト確實ニシテ而カモ其ノ取得金ヲ放棄又ハ消費シタル
コトノ認ムヘキ何等ノ徵憑ナクシテ相當ノ利殖方法ヲ講シタルモノ
ト認メ得サル場合ニ於テハ其ノ取得金ニ對シ相當ノ所得ヲ計算スル
モ違法ニアラス(明治四十四年第八五號大正三年十一月十九日第三
部宣告)

●所得金額決定ニ關スル件

大正二年法律第十三號ニ依ル改正前ノ所得稅法第四條第一項第三號
ニ所謂手當金ハ稅務署長カ決定當時ノ現況ニ從ヒ豫算年額ニ依リ其
金額ヲ算出スヘキモノトス

鐵道院ヨリ受タル慰勞賞與金ハ其性質臨時偶發的ノモノニアラスシ
テ其金額ヲ確定シ得ルモノナレハ之ヲ所得稅法ニ所謂手當金トシテ
第三種所得ニ計算スヘキモノトス(大正二年第一〇五號同三年十一
月十九日第三部宣告)

●漁業免許出願ニ關スル件

北海道告示第六五三號ノ有效ニ存在スルコトハ北海道漁業取締規則
第一三條第一號ニ依ル出願ニ對シ免許處分ヲ行フコトニ付必要ナル
條件ナルヲ以テ出願當時ニ於テハ其告示存在シタルモ其出願ニ對シ
處分シタル當時ニ於テハ其告示力廢止セラレタルニヨリ其出願ヲ
排斥シタルハ相當ノ處分ナリトス(大正三年第一三五號同年十一
月十九日第三部宣告)

●家祿ノ件

藩制施行以後不經何種手續又ハ新規召抱ノ者ニ與ヘタル家祿ヲ明治
五年中正院ノ指令ニ依リ廢止シタルハ不當ニアラス(明治四十二年
第四〇四號大正三年十一月二十五日第一號部宣告)

●鑛業權ニ關スル件

試掘許可ノ區域カ出願區域ト僅カニ一部分ノミ一致シ大部分相違セ
ルトキト雖モ該許可處分ハ當然無効ナルニアラス訴願者シクハ訴訟
ニ因リ取消シ得ヘク又農商務大臣ハ職權ヲ以テ試掘權ヲ取消スヘキ
ニ止マリ取消シナキ限り許可ハ其效力ヲ保有シ試掘權存續スルモノ
ナレハ存續期間滿了後十日以内ニ試掘權者タリシ者カ爲シタル試掘ノ
出願ハ鑛業法第三三條ノ二ノ保護ヲ受タルコトヲ得ルモノトス
前示取消シ得ヘキ許可處分ニ對スル新願及訴訟ノ法定期間經過セル

得納處分ニ因リ鑛業權ヲ競賣シタル場合ニ於テ競落人カ之ヲ第三者
ニ轉賣シ且鑛區ノ合併ニ因リ該鑛業權カ消滅シタル後右得納處分ヲ
違法ナリトスル訴願ヲ受理シ判決シタルハ不法ニアラス
得納處分ノ爲鑛業權ノ差押ヲ爲ストキハ國稅徵收法第二三條ノ二ニ
依リ之ヲ其權利者ニ通知スヘキモノトス(大正三年第六號同年十
一月二十七日第一號部宣告)

●鑛業ニ關スル件

試掘人ノ提案ニ係ル除害ノ豫防工事ニシテ其設計ヲ補充スルトキハ
除害ノ目的ヲ達シ得ヘキモノナルニ拘ラス鑛務署長カ該出願ニ對シ
地勢上除害工事ヲ完全ニ施設スルノ餘地ナキコトヲ前提トシテ公益
ヲ害スルモノト認メ不許可ノ處分ヲ爲シタルハ違法ナリ(明治四十
五年第一一二號大正三年十一月二十八日第三部宣告)

●行政裁判法ノ件

出願期間經過後ノ訴ハ受理スヘカラサルモノトス(大正三年第二一
〇號同年十一月三十日第一號部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

村會議員選舉ニ於ケル當選ノ效力ニ關スル訴願ノ審理ニ付テハ投票
全部ニ付キ其效力ヲ審查シ其結果ニ基キ判決ヲ爲シ得ヘク訴願人ノ
指摘シ又ハ町村會ノ審查シタル投票ニ限リ審查シ得ヘキニアラス
訴願ノ審理上投票全部ヲ審查シ訴願人ノ申立テサル者ヲ當選者タル
ヘキ者ニアラストシテ其當選ヲ取消シタルハ不當ニアラス(大正三
年第一八五號同年十二月五日第二號部宣告)

●村稅徵收ニ關スル件

行政裁判所判決要旨

以上ハ不服アル者ト雖モ該許可處分ニ取消ノ原因アルコトヲ主張ス
ルニ由ナキモノナレハ試掘權存續期間滿了後鑛業法第三三條ノ二ノ
保護ヲ受タルモノトシテ爲サレタル試掘許可處分ニ對スル訴ニ於テ
ハ前ノ許可處分ニ取消ノ原因アリタルコトヲ以テ訴ノ理由ト爲スコ
トヲ得サルモノトス(大正三年第二號同年十一月二十六日第三部宣
告)

●湯屋營業ニ關スル件

警視廳令湯屋營業取締規則第一條第五條第六條所定ノ要件ヲ具備セ
ル出願ハ當ニ必ス許可セラルヘキモノニアラスト雖モ之ヲ拒否スル
ニハ公益上相當ノ理由ノ存在スルコトヲ必要トス(大正三年第一三
號同年十一月二十六日第三部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

當選ノ效力ニ關スル訴願ノ審理ニ依リ選舉ノ無効ナルコトヲ認メタ
ル場合ニ於テ該決官廳カ其選舉ノ效力ニ付キ判決スルハ違法ニアラ
ズ
選舉當日選舉執行ノ場所ニ不在ナリシコト明カナル者カ投票ヲ爲シ
タル委ト爲リ居リ何人ニ投票シタルヤ不明ニシテ選舉ノ結果ニ異動
ヲ生スルノ虞アルトキハ其選舉ノ全部又ハ一部ハ無効ナリ
町村制第三三條ハ選舉ノ規定ニ違反スル事實アリ其選舉ノ結果ニ及
ホス異動力一部ニ止マル場合ニ於テハ其異動ヲ生スヘキ部分ノミナ
無効トスヘキ法意ナリトス(大正三年第一四一號同年十一月二十六
日第二號部宣告)

●鑛業權ニ關スル件

村稅得納ニ因リ延滞金ノ徵收ニ關シテハ明治四十四年勅令第二百四
十二號及ヒ明治三十三年勅令第八十一號第七條ノ二第一項ニ依リ村
稅ト等シク得納處分ヲ爲シ得ルモノトス
延滞金ヲ算出スヘキ期間ニ付キ定メタル明治三十三年勅令第八十一
號第七條ノ二第一項ノ納期限トハ村稅ノ延滞金算出ニ附テハ納稅告
知書ニ指定セル納期限ヲ指スモノトス(大正三年第一九四號同年十
二月九日第一號部宣告)

●家祿ノ件

福岡藩ニ於ケル押米ノ制度タル其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ
性質ヲ變スルモノニアラス
藩制第二項及ヒ明治二年十二月布告ハ執レモ物成高ナリテ家祿ト爲
スノ趣旨ニシテ現渡高ヲ以テ家祿ト爲スノ旨趣ニアラス(明治四十
二年第五四二號大正三年十二月十四日第一號部宣告)

●行政裁判法ノ件

耕地整理法第七九條ハ組合員ニシテ組合費ヲ得納スルトキハ市町村
稅ノ例ニ依リ處分スヘキ旨ヲ規定シタルニ止マリ其處分ニ對シテ行
政訴訟ヲ許シタルモノニアラス(大正三年第二一四號同年十二月十
四日第一號部判決)

●村稅戶別割賦課ノ件

村稅戶別割賦課ニ關スル訴願ノ審理中村長ニ於テ賦課ヲ取消シタルトキ
ハ其賦課額ノ更正ヲ求ムル訴ハ請求ノ目的消滅シタルモノニシテ其
請求ハ理由ナキモノトス
監督官廳ニ訴願ノ審理中其事件ニ付キ下級行政廳ノ爲シタル處分ヲ

レハトテ其處分ヲ假定ノ處分ナリト爲スコトヲ得ス(大正三年第一七〇號同年十二月十六日第一號宣告)

●家祿ノ件

舊藩井澤荒井組ニ屬シ明治二年制定ノ同藩祿制ニ依リ祿米ヲ支給セラルヘキ者ニシテ明治九年八月太政官第一〇八號布告施行ノ際其祿高ニ付キ全部ノ給與ヲ受ケザリシトキハ家祿賞典處分法ニ依リ其不足額ヲ給與セラルヘキモノトス(明治四十二年第一一三號大正三年十二月十七日第三號宣告)

●所得金額決定ノ件

所得稅法第三五條ノ所得金額決定ニ對シ審査ヲ經スシテ提起シタル所得金額ノ變更ヲ求ムル行政訴訟ハ行政裁判法第二七條ニ依リ却下スヘキモノトス
大正二年法律第十三號ニ依ル改正前ノ所得稅法第四條第一項第三號ニ所謂手當金ハ稅務署長カ決定當時ノ狀況ニ從ヒ豫算年額ニ依リ其金額ヲ算出スヘキモノトス
鐵道院ヨリ受ケル慰勞賞與金ハ其ノ性質臨時偶發的ノモノニアラスシテ其金額ヲ豫定シ得ルモノナレハ之ヲ所得稅法ニ所謂手當金トシテ第三種所得ニ計算スヘキモノトス(明治四十二年第七〇七號大正三年十二月十七日第三號宣告)

●行政裁判法ノ件

鐵道法施行細則第三九條第二號ノ(實地ノ區域)トハ出願圖ニ圖示セラル區域ノ實地ヲ云ヒ必スシテ出願人カ實地ニ於テ指示シタル區域ニアラス

營業上優勝ナル土地ノ價格ハ其優勝ナルコトヲ斟酌シテ定マルモノナレハ土地所有者カ收用ニ因リ其土地ニ對スル代價ノ補償ヲ受ケタルトキハ其土地ノ位置カ營業上優勝ナルカ爲メ從來獲得シタル特別ノ利益ヲ獲得スルコト能ハサルニ至ルモ之ヲ以テ獨立ノ補償ノ原因ト爲スコトヲ得ス
收用地ニ在ル建物ノ移轉ニ伴フ營業休止ニ因ル損失ハ土地收用法第五四條ノ通常受クヘキ損失ニ該當シ補償セラルヘキモノトス
營業者ニアラサル者ハ收用地上ニ在ル建物ノ移轉ニ伴フ營業休止ニ因リ損失ヲ受クル者ト云フコトヲ得ス(大正三年第九五號乃至九七號同年十二月二十三日第一號宣告)

●境界査定ノ件

境界査定ニシテ單ニ隣接民有地トノ境界線ヲ誤リタルモノニアラスシテ固有林ニ隣接セサル民有地ヲ隣接地ト誤認シ從テ隣接地所有者ニアラサル者ヲ隣接地所有者ト誤認シテ境界査定ヲ了ヘ之ヲ其者ニ通告シタルモノナルトキハ該査定處分ハ其主要ノ點ニ錯誤アルモノニ係リ形式上之カ取消ヲ爲スト否トニ拘ラス實質上何等ノ效力ヲ有セザルモノトス
前項ノ場合ニ於テ固有林ト隣接民有地トノ境界ハ未ダ決定セザルモノナレハ更ニ境界査定ヲ爲スモ不法ニアラス(大正二年第五四號第五五號同三年十二月廿四日第二號宣告)

●家祿ノ件

明治五年第二十九號布告ハ辛ニシテ事實二代以上ヲ重ネタル者ニ適用セラルモノナルモ父子相續キ家祿ヲ繼承セシムルノ旨趣ヲ以テ召抱ヘラレタル者ハ縱令譜代ノ名稱ヲ有セザルモ譜代ノ實アル者ナ

行政裁判所判例要旨

後願タル出願地中優先出願ト重複スル部分及ヒ相互ノ間隔地ニ相當スル部分ニ付キ拒否處分ヲ爲シタルハ違法ニアラス(大正三年第一五二號同年十二月十七日第三號宣告)

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル件

選舉人カ選舉人名簿ニ登錄セラレタル以上之ニ對スル反證ナキ限り選舉權ヲ有スルモノト認メサルヘカラス
選舉權ナキ者選舉會場ニ入場シタル事實アリテ町村制第二一條第一項ニ違反シタリトスルモ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキ限り該選舉ハ無効ト爲スヘキモノニアラス(大正三年第一一二號同年十二月十九日第二號宣告)

●縣稅戶數制賦課ノ件

一戸ヲ構フル者ニ縣稅戶數制ヲ賦課シタルハ適法ナリ
縣稅戶數制ノ賦課ニ關シ縣稅賦課規則ニ於テハ町村會ノ議決ニ一任シ町村會ニ於テハ之ニ付キ何等ノ規程ヲ設ケ居ラサルトキハ町村會カ見立ヲ以テ各納稅義務者ノ等差ヲ定ムルモ違法ト謂フコトヲ得ス(大正三年第一九七號同年十二月二十一日第一號宣告)

●鑛業許可ノ件

出願ノ當時同種礦物ノ鑛區ト重複シタル出願カ許可セラレタル場合ニ於テ其許可以前他ノ鑛區ノ鑛業權カ廢業ニ因リテ消滅スルモ其許可ハ鑛業法第三八條第一項ノ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可シタルモノト謂フニ該當ス(大正二年第二〇二號同年十二月二十二日第三號宣告)

●收用審査會ノ裁決ノ件

ハニ依リ其家祿ハ永世祿ト認ムヘキモノトス(明治四十二年第一八八號第一八九號大正三年十二月二十五日第一號宣告)

●家祿ノ件

舊久留米藩ノ足輕呼出ハ卒見習又ハ卒候補者ニシテ辛ニアラス故ニ卒ノ件ニ三男ニシテ足輕呼出タリシ者ノ給祿ヲ明治五年第四六號布告ニ基キ廢止シタルハ相當ナリ(明治四十二年第二八六號大正三年十二月二十五日第一號宣告)

●家祿ノ件

唐津藩ニ於テ郷足輕ニ對シ給田ノ制度ヲ廢シ現米十八俵又ハ十五俵宛給與スルコトニ定メ唐津藩ニ於テ之ヲ實施シタルハ立藩中ニ於ケル最後ノ制度トシテ正當ニシテ附祿シタルモノト云フヲ得ス故ニ其後ニ至リ之ヲ削除シタルハ不當ナリ(明治四十二年第六五四號大正三年十二月二十五日第一號宣告)

●縣稅賦課ノ件

甲村ノ地籍内ニ定置漁場ヲ有シ漁業ニ従事スル者ニ對シ甲村カ單獨ニ縣稅漁業稅附加稅ヲ賦課シタルハ適法ナリ川ノ中心ヲ以テ那村界ト爲シタル場合ニ於テ後日其川ノ流域カ變更スルモ那村界ハ當然變更スルモノト云フコトヲ得ス(大正三年第六一號同年十二月二十五日第一號宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル件

村會議員ノ選舉執行地ニ於テ小倉市助及ヒ小畑市松ナル者カ共ニ其頭字ニ依リ「コイチ」ト呼ビ又「小一」ト記シタル事實アル場合ニ「小一」ト記載セル投票ハ右ノ二人中何レヲ指示シタルヲ確認シ難ケレ

行政裁判所判決要旨

ハ町村制第二五條第一項第四號ニ依リ無効タルヘキモノトス(大正三年第一〇八號同年十二月二十六日第二部宣告)

家祿ノ件

明治三年十一月篠山藩典ニ「是迄父子兄弟等相承一家奉公十ヶ年以上之向ハ從前之通」トアルハ父子兄弟等相承ケ二代以上ヲ重ネタルト否トニ拘ラス廣ク勤続十箇年以上ニ及フ者ハ尙ホ從前ノ通措置クノ旨趣ナリト解スルヲ相當トス(明治四十二年第四五六號大正三年十二月二十八日第一部宣告)

家祿ノ件

福陶藩ニ於ケル押米ノ制度タル其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變スルモノニアラス
藩制第二項及明治二年十二月布告ハ執レモ物成高ナテ家祿ト爲スノ旨趣ニシテ現渡高ナテ家祿ト爲スノ旨趣ニアラス
祿高公債給與請求ニ關スル行政官廳ノ不許可處分ニ對シ出訴シタル場合ニ於テ裁判所カ其事由ヲ相當ト認ムルトキハ之カ取消ヲ爲シ且新ニ公債證書ヲ給與スヘキコトヲ命シ得ルニ止マリ其不當處分ニ因リ蒙リタル損失ノ賠償又ハ之ニ均シキ處分ヲ命シ得サルモノトス
家祿賞典處分法及ヒ同施行法ニハ祿高公債ノ利息起算點ニ付キ何等規定スル所ナキナテ政府ニ於テ請願許可ノ指令ヲ爲シ又ハ裁判所ニ於テ判決ヲ爲シ其結果トシテ公債證書ヲ發行スル時ヨリ利息ヲ生スルモノト解スヘキモノトス大藏省令第五十二號ハ明治三十九年度以後ニ公債證書請求權ノ發生シタルモノニ對シテハ適用スヘキ限リニ在ラス(明治四十二年第四五八號大正三年十二月二十八日第一部宣告)

行政裁判法ノ件

法定ノ出訴期限ヲ經過セル訴ハ受理スヘカラサルモノトス(大正三年第二二一號同年十二月二十八日第一部裁決)

大正四年七月 八 日初版印刷
大正四年七月 十三日初版發行

法律學說評論全集第三卷奧付

定 價 金 五 圓

禁 漢 譯



著 者 高 窪 喜 八 郎

發 行 者 高 窪 宗 吉
東京市神田區小川町五十三番地

印 刷 者 高 橋 郡 二 郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 株式會社 秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發 兌 元

東京神田
小川町

電話本局二七二〇番
振替東京二六一六七番

法 律 評 論 社

高窪喜八郎著

再版

法律學說評論全集

第二卷

菊版三、二五八頁
脊革クロス金文字入
定價金四圓八十錢
郵送市內不用內地廿四錢
料一臺榊四十五錢 朝清五十五錢

內容

學說判例
索引內容

主題 九五四個
參照 二〇八個
イロハ別 四四七頁
條文別 二三頁

各法
頁別

(何レモ六號活字利用三段組)

附錄
內容

民法 九四七頁
民訴 四〇四頁
商法 五五七頁
刑法 四四四頁
刑訴 二二二頁
諸法 一七〇頁
司法省訓令回答要旨
行政裁判所判決要旨

訂正三版

法律學說評論全集

第一卷

菊版二、〇二四頁
脊革クロス金文字入
定價金參圓七拾錢
郵送市內不用內地二十錢
料一臺榊四十錢 朝清五十錢

內容ニ訂正ヲ加ヘ索引ヲ第三卷ニ準シ改良シタリ

